

九 大倉組ノ江蘇省秣陵関附近鉄山開発ニ関スル交渉一件……………五七六

一〇 中国問題ニ関スル西原亀三報告雑件……………六三五

附録 日本外交文書大正六年第二冊日附索引

事項一 張勳ノ復辟ニ関スル件

一 一月六日 本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

内蒙独立ニ関シ喀喇沁王ヨリ援助ヲ求メラレ
タルニ対スル林公使ノ「内話」ニ付問合ノ件

第八号(極秘)

客年十二月三十一日發支那駐屯軍司令官ヨリ參謀總長宛電報ニヨレハ陸建章ノ秘書胡媛ハ先頃同駐屯軍附中島通訳官ニ対シ復辟運動ニ関シ談話中先頃喀喇沁王ハ貴官ヲ訪問シ内蒙独立ノ内意ヲ打明ケ貴官ノ援助ヲ求メタルニ貴官ハ内蒙独立ニ際シテハ内蒙ニ於ケル活仏ノ如キ主体ヲ擁立セザルベカラズ此ノ如キ主体有ルヤ否ヤ又今日ノ狀況ニ於テ果シテ成功ノ成算アルヤ否ヤヲ反問セラレタルニ喀喇沁王ハ主体トシテハ宣統帝ヲ推戴スヘク舉事ニ付テハ十分ノ成算アル由ヲ答ヘ右ニ対シ貴官ハ果シテ然ラバ貴官ニ於テモ相当ノ援助ヲ与フルニ躊躇セサル旨言明セラレタリト語りタル由ナルカ右ハ客年中貴官ヨリ機密三六八号ヲ以テ御報告ノ件ニ関係アルモノト思考セラルル処貴官ハ何等右ニ似寄

一 張勳ノ復辟ニ関スル件 一 二

ノ内話ヲ為サレタル事アリヤ否ヤ折返シ電報アリタシ

二 一月七日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

喀喇沁王トノ会谈内容ニ関シ回電ノ件

第一九号 極秘

貴電第八号ニ関シ陸建章秘書ノ談ナルモノ重要ノ点ニ於テ事實相違セリ喀喇沁王本使來訪ノ節輓近支那政府カ内蒙古ニ対シ庄迫ヲ加フルヲ憂慮シ何トカシテ此ノ庄迫ヲ免レ自治ヲ維持シタキ旨ヲ語りタルニ付本使ハ自治ト云フモ内蒙古ノ全体ニ亘リ之ヲ團結シ諸王公ヲ纏メテ其ノ中心点トナルベキモノアルヤ否ヤ試ニ反問シタル処之ニ対シ清朝ニシテ回復セラルレバ蒙古諸王公ハ之ヲ歡迎スヘシトノ意向ヲ洩シタルモ本使ハ只之ヲ聞流シタル迄ナルハ機密第三六八号拙信報告ノ通ナリ元來漢人中ノ武断派ニハ復辟ヲ希望スル尙尠カラズ張勳、張作霖、朱家宝等カ其ノ重ナルモノニテ其他官僚派中ニモ徐世昌ノ如キ人物ヲ以テ中心トナシ漢人ヲ以テ政治ノ枢機ヲ握ルコトトスルニ於テハ清朝ノ回復

一

ニ反对セズト唱フルモノアルモ果シテ斯ノ如キ時局ノ現出スヘキヤ否ヤハ素ヨリ逆睹シ難キ所ニ有之況ンヤ蒙古諸王公ニ於テ挙事ノ成算アリトスルカ如キハ本使ニ於テ之ヲ信シ得ベカラザル所ニシテ從テ本使カ之ニ対シ援助ヲ与フルニ躊躇セザルベキ旨言明スベキ筈ナキハ明白ニ有之支那人ニハ兎角我田引水ノ説ヲナス傾向アルハ御承知ノ通ノ次第ニテ駐屯軍司令官カ本件ノ如キ政事上重要ノ關係アル事項ニ関シ別段ノ調査ヲ遂ゲズシテ政府ノ考慮ニ入ルルカ如キ措置ニ出デラレタルハ本使ノ遺憾トスル所ナリ

三 一月八日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

復辟運動ノ観測報告ノ件

第二一号 極秘

貴電第一〇号ニ関シ復辟運動ニ付テハ往電第一九号ニモ記載致置キタル次第有之処先般朱家宝滯京中其秘書謝介石ノ船津ニ語リタル所ニ拠レハ朱等ノ復辟運動ハ相当進捗シ居ルモノノ如ク又最近曹汝霖ノ出淵ニ語リタル所ニ拠レハ朱家宝張勳等ノ復辟ハ単ニ宣統帝ヲ君主ニ擁立スルノミニテ徐世昌ヲ撰政トシテ閣員ニハ専ラ漢人ヲ用ヒ君主ハ名ノミ

トシテ実権ハ漢人ノ手ニ収メントスルニアリトノコトナルガ右等ノ談話ハ之ヲ事実トスルモ果シテ終局ノ成効ヲ収メ得ヘキヤ容易ニ信ヲ措ク能ハザルノミナラス挙事モ或ハ相当困難ナラント思考ス右計畫遂行上当然ノ事ナガラ日本トノ關係ニ重キヲ措キ我方ニ接近ヲ求ムルモノト認メラルルモ目下ノ局面ニ於テ帝國官憲トシテ假令裏面ニ於テモ之ニ関スルノ嫌アル行動ニ出ヅルガ如キハ勿論之ヲ避クヘキコト当然ニテ旁々本使ニ於テモ先般石光司令官ノ張勳訪問ニ対シ注意ヲ与ヘタル次第ニ有之尤徐世昌曹汝霖等カ当館方面ニ運動中ナリトノコトハ事実無根ニテ且陸宗輿ノ日本行モ今日ノ処直ニ復辟ノ運動ニ關係アリト迄ハ認メ難ク從テ差當リ往電第一一九八号過日同人ノ芳沢ニ対スル内話位ノ所ト観測スルヲ穩当トスヘシ

四 一月十二日 本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

中国内政上ノ陰謀運動等ニ無關係ノ方針ニテ

措置方ノ件

附記 一月九日付閣議案並説明書

第二九号

貴電第二一号ニ関シ帝國政府ニ於テモ貴官ト全然同感ニシテ此際支那内政上ノ陰謀運動等ニ關係スルハ表裏共之ヲ避クルコト必要ト認ムルニ付右様御含ノ上此上共万事其方針ニ依リ御措置アリタク陸軍側ヨリモ右ノ趣旨ヲ以テ石光少将ヘ回訓スル所アリタル趣ナリ

(附記)

一月九日 閣議

对支方針及説明書

本野

大体ヲ決定シ理由書ハ

多少ノ修正ヲ要スヘシ

大正六年一月九日閣議

帝國ノ支那ニ対スル政策ハ左記方針ニ遵由スルヲ妥當ナリト認メ茲ニ閣議決定ヲ請フ

一、帝國ハ支那ノ独立及領土保全主義ヲ尊重シ且之ヲ擁護スルコト

護スルコト

二、支那ヲシテ其ノ独立維持及領土保全ニ必要ナル庶政

ノ改善ヲ実行セシメムカ為帝國ハ誠意ヲ以テ支那ヲ指

導啓發シ兩國親交ノ増進ヲ図ルコト

一 張勳ノ復辟ニ関スル件 四

三、帝國ハ支那ニ於ケル何レノ政治系統又ハ党派ニ対シテモ不偏公平ノ態度ヲ持シ一切其ノ内政上ノ紛争ニ干渉セザルコト

四、帝國ハ支那ニ於テ特殊利益ヲ有スル地域ニ関スル問題ヲ除クノ外成ルヘク列國ト協調ヲ保ツト共ニ漸次列國ヲシテ帝國ノ優越ナル地位ヲ承認セシムルニ努ムルコト

五、帝國ハ南滿洲及東部内蒙古ニ付テハ既定ノ方針ニ依リ帝國ノ特殊利益ヲ益々拡充増進シ福建省ニ付テモ支那政府カ明治三十一年及大正四年兩國ノ公文ヲ以テ承認セル帝國特殊ノ關係ヲ確保シ尚漸次我勢力ノ扶植ニ努ムヘク山東省ニ至リテハ之カ終局ノ処分ハ平和克復ノ後ニ讓ルト共ニ当面ノ問題トシテハ独逸カ戰前同省ニ関シテ享有シタル一切ノ利權ハ挙ケテ之ヲ帝國ニ収ムルノ方法ヲ講スルコト

对支方針説明書

一支那ノ独立及領土保全ハ帝國ノ对支方針ノ根本要義ニシテ又列國ト共ニ累次誓約セル所ナリ蓋シ支那ノ将来ハ今ヨリ正確ニ之ヲ予言スルコト難ク帝國ハ時局ノ發展ヲ注

視シ臨機心變ノ措置ヲ執ルコトヲ要スト雖第一着ニ帝國自ラ前記主義ヲ尊重スルト共ニ支那ヲシテ何國ノ掌握ニモ帰セシメサルノ手段ヲ講セサルヘカラス世人或ハ歐洲列國カ現ニ戦乱ニ疲レテ極東ヲ顧ミル遑ナキニ乘シ帝國ニ於テ支那ニ對スル保護權ノ設定若ハ其ノ領土ノ割取又ハ併合ノ為進ンテ单独行動ヲ執ルヘキコトヲ唱道スルモノアリ然レトモ支那ニ對スル侵略政策ハ假令歐洲列國カ帝國ヲ敵トシテ戰フノ余力ナシトスルモ猶且実行至難ニシテ無謀ノ冒險タルヲ免レス況ンヤ今次ノ兵禍ニ依ル歐洲國力ノ衰退ハ戦後久シカラスシテ恢復スヘキモノト予期セラル、ニ於テヲヤ

二 支那ノ獨立維持及領土保全ノ為ニハ同國ヲシテ其ノ政治、軍事及經濟ノ施設ヲ改善セシムルコトヲ要ス之カ施設改善ノ為ニハ帝國ニ於テ支那ヲ指導啓発シ誠意援助ヲ与ヘ支那ヲシテ帝國ニ信頼セシムルコトヲ要ス但シ帝國ノ友好ナル態度ニ拘ハラス支那ニ於テ之ヲ諒トセス常ニ狐疑猜忌ノ念ヲ以テ之ヲ迎ヘ公然又ハ暗黙ニ帝國ノ行動ヲ妨礙スルコトナキヲ保セス事茲ニ至ラハ帝國ハ機宜ニ適応スヘキ政策ヲ考量スルノ必要アルヘシ

關係ヲ有スルハ事實トシテ之ヲ認ムルノ外ナク此ノ事實ヲ無視シタル行動ハ必然列國トノ葛藤ヲ生シ支那ヲシテ隙ニ乘セシムルニ至ルヘキコトヲ顧念セサルヘカラス是ヲ以テ帝國ハ支那問題ニ関シテハ帝國ノ特殊利益ヲ有スル地域ニ関スルモノヲ除クノ外努メテ列國トノ協調ヲ計リ殊ニ英露兩國トハ絶ヘス接觸ヲ保チ兩國トノ協約ノ規定上相互ニ協議スヘキ義務アル場合ハ勿論此ノ義務ナキ場合ト雖問題ノ性質及事態ニ依リテハ成ルヘク相互ニ隨時隔意ナキ意思ノ交換ヲ行フコトヲ得策トス之ト同時ニ漸次列國ヲシテ帝國ノ支那ニ於ケル優越ナル地位ヲ承認セシメ列國カ支那ニ對シ政治上ノ意義ヲ有スル行動ヲ執ルニ當リテハ常ニ帝國ノ主動又ハ支持ヲ求ムルノ形勢ヲ馴致センコトニ^{前?}意意スヘシ

五 南滿洲及東部内蒙古ハ帝國カ政治上及經濟上特殊ノ利益ヲ有スル地域ニシテ本部支那ニ於ケル列國ノ勢力範圍ナルモノト全然其ノ趣ヲ異ニシ強テ之カ類例ヲ求ムレハ露國ノ北滿洲、西部内蒙古及外蒙古又ハ英國ノ西藏ニ於ケルト略ホ同等ノ關係ニ在ルモノト認ムルヲ至當トス曩ニ日露兩國政府ハ明治四十年ノ秘密協約ヲ以テ滿洲ニ於ケ

(記註外欄)

『將又世人往々日支兩國カ人種上又ハ地理上ノ關係ニ依リ互ニ其ノ運命ヲ共ニスヘキモノナルカ如ク思惟シ之ヲ基礎トシテ兩國ノ提携ヲ説クモノアリ然レトモ事實ニ於テ支那ノ盛衰ハ未タ曾テ帝國勃興ノ國勢ニ何等消長ヲ來タシタルコトアララス人種上又ハ地理上ノ關係ハ兩國ノ運命ヲ必然ニ連結スルモノニ非サルナリ且支那ノ休戚ヲ以テ直ニ帝國ノ休戚ト認ムルハ極メテ危險ナル推論ニ導ク所以ニシテ内政干渉ノ端竝ニ發シ黃禍恐日ノ惑之ヨリ生スヘキコトヲ思ハサルヘカラス』

三 帝國ニ於テ支那ノ諸政治系統又ハ党派中其ノ一方ニ偏シテ之ニ後援ヲ与フルカ如キコトアラハ忽チ他ノ一方ノ反抗ヲ激成シ勢ノ赴ク所竟ニ武力干渉ニ至ラサレハ止マサルヘシ其ノ帝國ノ商工業ニ及ボス禍害ノ痛切ナルヘキハ云フヲ俟タス且之カ為帝國ハ徒ニ列國ノ猜疑ヲ招キ重大ナル國際紛糾ヲ醸スノ虞ナシトセス是ヲ以テ帝國ハ北洋派タルト南方派タルトヲ問ハス進歩党タルト國民黨タルトニ関セス不偏公平ヲ以テ之ヲ遇シ其ノ内政上ノ紛争ニ全然干渉セサルヲ得策トス

四 歐米列國カ既ニ支那ニ對シ政治上及經濟上重要ナル利害

ル各自特殊利益ノ地域ヲ劃定シ以テ明治四十三年ノ秘密協約ニ依リ兩國執レモ前記地域内ニ於テ各自ノ特殊利益ヲ擁護防衛セムカ為一切ノ措置ヲ自由ニ執ルノ權利ヲ留保シ同時ニ其ノ特殊利益カ將來益々確保増進セラルルノ場合ニ互ニ何等之ヲ妨礙セサルコトヲ約シ更ニ明治四十五年ノ秘密協約ニ於テハ当初設定シタル兩國特殊利益地域ノ分界線ヲ延長シテ滿洲及内蒙古ノ全部ニ及ホシ互ニ其ノ分界線内ニ於テ各自ノ特殊利益ヲ將來益々確保増進スルノ自由ヲ承認セリ爾來四圍ノ形勢ト帝國ノ努力トハ益々帝國ノ滿蒙ニ於ケル地位ヲ鞏固ナラシメ今ヤ露國ノミナラス英仏米諸國モ自然ニ此ノ事態ヲ承認シ自余各國ニ至リテモ亦何等之ニ故障ヲ挾ムノ状アルヲ見ス從テ帝國ハ既定ノ方針ニ依リ穩健且公正ナル方法ヲ以テ益々前顯特殊利益ヲ擴充増進セムコトヲ期スヘシ

福建省ハ台湾ト密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ帝國ハ曩ニ明治三十一年支那ヲシテ同省ノ不割讓ヲ約セシメ次ニ大正四年ニ至リ支那政府ハ同省沿岸地方ニ於テ外國ニ造船所、軍用貯炭所、海軍根拠地其他一切ノ軍事上ノ施設ヲ為スコトヲ許スカ如キ又ハ支那自ラ外資ヲ借入レ前記各

施設ヲ行ハムトスルカ如キ意思ナキ旨ヲ帝國政府ニ声明セリ尚帝國ノ福建省ニ対スル特殊ノ關係ハ他國政府モ明治四十年ノ日仏協約附屬秘密文書ヲ以テ之ヲ承認セリ帝國ハ前記諸外交文書ノ認ムル地位ヲ確保シ漸次我勢力ノ扶植ニ努ムヘシ

山東省ニ至リテハ之カ終局ノ処分ハ平和克復後ニ讓ルノ外ナキモ既ニ大正四年支那政府ハ同省ノ不割讓ヲ帝國ニ声明シ又帝國政府カ同省ニ関シテ独逸ノ有スル權利及利益ノ讓受ニ付独逸政府ト協定スル一切ノ事項ヲ承認スヘキコトヲ約セリ從テ当面ノ問題トシテハ帝國ハ前記独逸ノ利權ヲ擧ケテ我ニ収メ支那政府ノ既ニ承認スル我特殊ノ地位ヲ現実ニ確保スルノ方法ヲ講スルコトヲ要ス

(欄外註記)

(四) 『内十二行』 本文ノ趣意ニ付テハ本大臣ヨリノ説明ニヨリ異議ナカリシモ誤解ヲ招クノ嫌アリトノ内務大臣ノ注意ニヨリ之ヲ削除スルコトトセリ 本野

五 一月二十日 在中国林公使ヨリ 本野外務大臣宛

復辟運動ニ関スル謝介石内話報告ノ件

附屬書 右内話

スルノ議アリ張勳モ一タヒ同意ノ返答ヲナシタルニ拘ラス其ノ瞬間ニ於テ馮國璋ハ又モヤ態度ヲ一変シテ第一回ノ如キ不得要領ナル通電ヲ發スルニ至リ張勳ハ益々馮ノ反覆常ナキヲ憤リ其後新年ニ入り徐樹錚、靳雲鵬等ハ倪嗣冲ノ南京行ヲ機トシ倪ヲ通シテ馮國璋ヲ動かサントシタルモ応セサル為蚌埠ヨリ徐州ニ會シ張勳ヲ筆頭トシ第二回ノ通電ニ於テ初期ノ目的ヲ達セントシタルモ張勳ハ第一徐州會議以來ノ經驗ニ懲リ再三彼等ノ利用スル所ト為ルヲ喜ハス寧ロ進ンテ自己ヲ中心トシ其ノ為サント欲スル所ヲ為スノ決心ヲ固クスルニ至リ一方段祺瑞ハ第一回通電ニヨリ略ホ議會及總統府ニ対スル威圧ノ目的ヲ達シタルニヨリ中途其ノ自ラ派遣シタル徐樹錚等ヲ召還シ斯クテ第二回徐州會議モ有耶無耶ニ終リ隨時局ノ表面ハ何等ノ進展ヲモ見ス依然トシテ混沌ノ状態ヲ持續スル次第ナリ。

張勳ノ馮國璋ニ対スル反感ハ近時益々其ノ度ヲ加フルモノノ如シ抑モ袁世凱暴死ノ当時馮張ノ間ニハ所謂中間勢力ヲ利用シ復辟運動ヲ主唱シ南北共和ノ局面ヲ逆転シテ國躰ノ根本ヲ君主ニ一定セシコトヲ密議シ張勳ハ之カ為兵ヲ率ヒテ北京ニ入ル手筈ナリキ之ニ関スル馮ノ親書ハ今尚張勳ノ

機密第三二二號 (二月三日接受)

大正六年一月二十日

在支那

特命全權公使男爵 林 權 助(印)

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎殿

復辟運動ニ関スル謝介石内話ノ件

本件ニ関シ最近謝介石小村通訳官ヲ來訪シ大要別紙ノ通内話シタル処右ハ如何ナル程度迄其ノ真相ヲ得タルモノナルヤ固ヨリ不明ニ有之候ヘ共時局柄御參考迄及報告候也

(附屬書)

復辟運動ニ関スル謝介石ノ談話

旧臘中徐州ニ滞留シタル謝介石カ最近天津ヨリ入京セル節小村通訳官ニ対シ同人ハ兼テ徐州定武軍營務會辦ナル名目ヲ有スルト共ニ手当ヲモ受居リ同時ニ張ノ參謀長タル万繩拭カ曾テ朱家宝ノ幕友タリシコトアル關係ヨリ徐州ニ於テハ朱家宝ノ使者トシ又ハ箇人トシテモ自由ニ密議ニ參シ得ル關係ニ在リトシ語ル所ニ抛レハ所謂徐州第二會議ハ始メ十二月二十日頃徐樹錚ノ南下梁啓超ノ南京行ニヨリ馮國璋ヲ筆頭トシ國會解散ヲ目的トスル強硬ナル通電ヲ發セント

手ニ保存セラル然ルニ馮國璋ハ上海民黨ノ遊説ト段祺瑞派ノ離間ニヨリ日本カ天津ニ二箇師團派遣ノ議アルヲ口実トシ大局ノ動搖ハ國家ニ不利ナリトノ理由ニヨリテ張勳ヲ売リ其ノ後表裏常無キ南京會議、徐州會議ニ対スル態度及ヒ一タヒ民黨トノ結托ニヨリ副總統ヲ贏チ得ルヤ忽チ又進歩黨ト接近シ從來兎角對抗的態度ヲ持シ來リシ段祺瑞トモ握手シ進ンテ第二期大總統タラントスルノ野心ヲ有スルニ至ル等之ヲ張勳ノ如キ武骨一偏終始一貫ノ態度ヲ守リ之カ為屢々他人ノ為ニ翻弄サレ独リ自ラ衆目環視ノ標的トナサレツツアル者ノ眼ヨリ看レハ其ノ心ニ慊トセサルト共ニ輕侮ノ念ヲ生シ自然ニ感情ノ乖離ヲ見ルニ至ルハ怪ムニ足ラス張勳ハ謝介石ニ対シ口ヲ極メテ馮國璋ヲ罵リ復辟密議ニ関スル馮ノ親書ニ談及シ他日之ヲ天下ニ公表シ彼レカ立場ヲ失ハシムルト否トハ我カ方寸ニ在リ彼レカ勢力ノ失墜ハ一ケ月ヲ出テサルヘシト傲語セリ段祺瑞ニ対スル張勳ノ心理ハ第一回徐州會議ノ際ニモ明カニシテ張勳ハ公然徐世昌内閣ノ出現ヲ希望シタルカ馮段共ニ張勳ノ同輩ニシテ南方民黨ニ対シ時局維持ニ対シ或ル程度迄ハ之ヲ擁護スヘキモ彼等カ共和ノ招牌ヲ仮リテ自己權力ヲ維持シ國家大局ノ為何

等断乎タル処置ニ出ツルコト能ハサルノミナラス徐樹錚等ノ如キ末輩ヲ利用シ屢々徐州會議ヲ操縦シ張勳一派ヲ愚弄セントスルハ其ノ忍フ所ニアラス且ツ馮段ノ政治的勢力ハ全ク実力アル北方各省ノ掩護ニ依ルモノニシテ一タヒ其ノ掩護ヲ撤セハ自立ノ力ナキモノナルコトヲ知ルニ至ル今日張勳等ノ眼中馮段ヲ藐視スルノ概アルハ怪ムニ足ラス現ニ北京ニ於ケル軍警ノ首脳江朝宗、吳炳湘ノ如キ張勳ト声息ヲ通シ必スシモ段祺瑞ノ味方タルモノニアラス其他北洋軍人中最後迄段ノ手足タルモノ幾何モナカルヘキハ早トニ張勳等ノ知悉セル所ナリ、

梁啓超北上ノ際徐州ニ立寄りタルハ謝介石同地滞在在中ナレトモ談話ノ模様等別段注意ノ価値ナシト思惟ストテ云フ所ニ抛レハ是レヨリ先キ憲法問題ノ為進歩党系議員カ国民党対シ民党ノ横暴ヲ讒訴シ其ノ力ニヨリ国会ヲ改造センコトヲ哀求シタルニ張勳ハ国家ノ為必要ナラバ議會ノ解散ヲモ敢テスヘキモ進歩党ノ為ニハ御免ナリト擲楯シテ立去ラシメタルコトアル等以テ張勳カ所謂政客ナルモノニ対スル態度ヲ知ルニ足ル可ク随テ梁啓超ニ対シテモ其ノ師ノ康有

為ハ却テ張勳ト復辟同志ノ一人ナルニ無定見無節操ヲ以テ定評アリ且ツ一時為ニスル所アル梁ノ言論ニ対シ真面目ニ耳ヲ飯スモノニアラサルヘキハ多弁ヲ用ヒス

張勳ノ心事略ホ前述ノ如ク結極彼ハ馮段ト云ハス梁湯ト云ハス將タ議會民党ヲ問ハス現在表面ノ政局ニ飽キ其ノ何人ヲモ信任セス彼等ニ利用セラレザル用心ヲ為スト共ニ地方各省ニ実力アリ責任アリ且ツ其ノ思想立場ヲ同クスル督軍省長等ノ第三勢力ヲ糾合シ進ンテ復辟運動ヲ首唱シテ現状ヲ打破シ国体ノ變更ニ依リテ根本ノ目的ヲ達センカ為強固ナル決心ヲ有シ来レルモノノ如ク之カ為肅恭親王升允等前清ノ宗室遺臣ニシテ節義彰明ナルモノト連絡シ内北京ニ於テハ徐世昌ヲ主トシ各省ニ於テハ安徽、河南、山東、直隸、奉天、吉林、黑竜江及新疆ノ八省ト協同シテ其ノ計画ヲ進メ専ラ其ノ密議ニ預リ若クハ之レト通謀シ自ラ死党ト称スル者ハ徐世昌ノ外ニ李經羲及ヒ朱家宝、倪嗣冲、張鎮芳、阮忠樞、金永、梁敦彥、張壽齡、及康有為等十人ニシテ金永、阮忠樞ハ張勳、徐世昌ノ間ヲ往来シテ其ノ消息ヲ通シ万繩拭自身ニモ時々北京ニ来ルコトアリ、北京ニ於テハ軍隊警察ノ間ニモ同志者多ク吳炳湘、江朝宗等モ連絡ヲ通シ

ヲ派遣スヘシトテ之ニ反对シ右書面ハ謝介石ニ於テ認メタルモノノ由ニテ陸個人トシテノ日本行ハ兎ニ角贈勳使任命ノコトハ沙汰止ミトナルヘシト語レリ

六 一月二十五日

在中國林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

復辟運動及日本行ノ使命ニ関スル陸宗輿内話

ニ関スル件

第九九号 極秘

陸宗輿ハ本月三十日頃夫人同伴当地出發奉天朝鮮ヲ經二月十日前後東京着ノ予定ナリ陸カ本使ニ極内密ニ談話セル所ニ依レハ過日同人ノ徐州ニ赴キタルハ表面交通銀行借款ニ対スル張勳ノ反対ヲ緩和スルタメト謂フニ在リタルモ実ハ右以外猶一層重要ノ用向アリタル次第ニテ即チ徐世昌ノ内命ヲ受ケ張勳ノ復辟運動ニ対シ輕率ノ行動ヲ戒ムルニ在リタリトノコトナリ最近本使カ種々ノ方面ヨリ得タル内報ニ依レハ徐ハ支那ノ将来ニ関シ共和政体カ果シテ適當ナルヘキヤ否ヤニ付深ク疑念ヲ懷キ寧ロ帝政ヲ可トスルノ説ヲ懷クモノニアラスヤトモ察セラル今回徐ノ腹心タル陸ノ有スル内密ノ使命中ニハ支那ノ前途ニ関シ日本当局ハ共和政体

ヲ以テ果シテ支那ニ適當ナリトセラルルヤ將又帝政ヲ恢復シ中心アル政体ヲ造ルヲ可ナリトセラルルヤ帝政ヲ恢復スルニハ再び清朝ヲ樹ツル外ナカルヘキカ其辺ノ意向如何ヲ知ラント欲スルコトモ含マレ居ルモノノ如シ徐カ段祺瑞ノ熱心ナル勸誘アルニ拘ハラヌ猶ホ日本行ヲ承諾セサルハ支那ノ前途ニ関シ未タ成算ヲ立ツルニ至ラス且日本当局ノ意向ヲ承知シ得サルニ因ルモノカトモ思考ス右ハ半、本使ノ推測ニ依ル義ナルモ陸宗輿内密ノ使命ニ関シ首相竝閣下ノ御参考ニ供ス

七 一月二十六日 齋藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

段祺瑞等ノ復辟論ニ関スル劉崇傑談話報告ノ

件

支極秘八

近来当地日本人間ニ於テ宣統復辟ノ説伝ハリツツアルカ其ノ謂フ所ニ依レハ徐世昌ハ復辟ノ意図ヲ有スルモ張勳等ノ急進ヲ控制シツツアリ、馮國璋ハ次期大統領タラントスルノ野心アルヲ以テ復辟ニ賛成セサルヘシ、段祺瑞ニ至リテハ果シテ如何ナル意志ヲ有スルヤ疑問ナリト、之ニ関シ最

新総長ニ対シ議會ノ協賛ヲ得ルコト困難ナルヲ以テ止ムヲ得ス憲法ノ制定ヲ待タサルヘカラスト但シ憲法ハ概ネ二三ヶ月内ニ憲法審議會ノ議決ヲ了ル筈ナルモ果シテ予期ノ如ク進捗スルヤ俄ニ判定シ難シ、

又段總理ハ浙江省ノ政変モ無事收拾シ官僚派ヲ以テ督軍トナシタレハ漸次之ヲ他ニ及シ全国ノ統一ヲ図ラントスルノ意図ヲ有ス次期大統領ハ今日ノ狀況ヲ以テハ馮國璋ナラント思ハルルモ果シテ何人カ之ニ当ルヤ結局其ノ時ニ至ラサレハ判明セス云々ト、

以上劉崇傑ノ所説ハ現在ニ於ケル本職ノ觀察ト概ネ一致シ段總理ハ復辟ニ関シ少クモ斯ノ如キ決心ヲ有セス從テ之カ実行ノ機運ニ達セサルモノト認ム而シテ復辟論ニハ二派アリ一ハ漢人ニ依リテ其ノ基礎ヲ構築シ宣統帝ハ只虚位ノ帝位ヲ受クルニ過キス、一ハ宗室ノ某親王ヲ擁シテ清朝ノ恢復ヲ計ラントスルモノ之ナリ、縱令將來四囲ノ事情變遷シ復辟論ノ実施セラルル場合アリトスルモ後者ハ到底成功ノ望ナカルヘシ之ヲ要スルニ現在ノ情況モ亦決シテ永續スヘキニアラス早晚何等カノ變遷ヲ生スヘシト觀察ス

官僚系、復辟派、民黨側三者ノ実力固ヨリ徑庭アルモ一般

近帰朝シタル在日本支那公使館書記官劉崇傑カ昨日日本職ニ語ル所左ノ如シ。

予(劉)ハ親シク段總理ニ就テ復辟論ノ実情ヲ質シタルニ段總理ハ決シテ去ル事実ナク日本人ハ未タ支那政界ノ実況ヲ詳悉セサル為ナラン、又徐世昌ト雖モ斷シテ斯ノ如キ意思ヲ有セス思フニ復辟ハ其ノ実行不可能ナルノミナラス之ヲ実行セハ更ニ一段紛擾ヲ惹起シ宣統皇帝ノ為ニモ亦決シテ有利ナリト謂ヒ難シ予ノ考ニテハ斯ノ如キ風説ノ原因ハ畢竟徐世昌ノ乾兒等カ徐ヲ担キ己ヲ利セントスル陰謀ニ過キササルヘシ、

尤モ張勳、張作霖等ハ復辟論者ナルモ彼等カ頭腦單純ニシテ經世ノ才ナキハ世既ニ定評アリ到底大事ヲ為シ得サルヘシ、

又議會ニ対スル方針ハ成ル可ク解散ヲ行ハザルニ在リ之レ一度「クーデター」ヲ実行センカ將來之ヲ濫用スルノ惡習慣ヲ生シ議會ハ常ニ恐怖ノ念ヲ以テ政府ニ対スルニ至リ余弊ノ及フ所少ナカラサルヲ以テナリ、現在ノ各部總長中ニハ適當ナラサルモノアリ、(主トシテ陳財政總長、許交通總長等ヲ指ス)然レトモ之ヲ更迭スルトキハ

ニ氣力ヲ欠キ歐洲戰役講和以前ニアリテハ日本帝國ノ後援ヲ得ントスル希望ヲ有スルハ概ネ其ノ揆ヲ一ニス、換言スレハ他人ノ同情ヲ引キ之ヲ利用シテ自己ノ慾心ヲ果サントスルノ類即チ之ナリ

閩東、天津、青島、上海、中支、濟

註 本電報写一月二十七日外務省接受

八 一月二十六日 本野外務大臣ヨリ
在上海有吉總領事宛(電報)

宗方小太郎ノ復辟ニ関スル言動ニ付取調方訓

令ノ件

第三号

宗方小太郎ハ復辟運動ニ關係シ種々奔走中ニシテ尚帝國政府部内有力者カ復辟ニ賛同シ居ルカ如ク支那側ニ吹込ミ居ル趣ノ情報アリ就テハ貴官ハ右報道ノ内情御取調ノ上詳細報告アリタシ

右参考ノ為北京へ転電アリタシ

九 一月二十九日 在上海有吉總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

宗方小太郎ノ復辟運動ニ関シ内探結果報告ノ

件

第三号

貴電第三号ニ関シ数日前青島陸軍側ヨリ当地松井中佐ニモ同様ノ情報アリ宗方ヨリ現内閣ハ復辟ニ賛成ナル旨宗社党側ニ内報シ居ル旨及最近升允カ当地ヲ経日本ニ赴キタルモ宗方ノ勧誘ニ出ヅルモノナル等ヲモ伝ヘ居リ本官モ注意中宗方ニ於テハ右ノ趣松井ヨリ内聞シ甚タ心配ノ上既ニ當時本官ニ種々弁解申出デタル次第ニテ宗方ガ有スル宗社党ノ知己ハ当地ニテハ鄭孝胥、姚文藻、胡嗣瑗等ノ二三氏ニシテ其他ニ升允等ノアル位ニ止リ仮令彼カ衷心帝政論者タルモ目下殆ント奔走運動等ノ余地ナク最近升允滞在中ニモ單ニ右等同志ノ会合アリタル位ニ止リ當時升允ハ本官ヲモ訪問セルニ付篤ト問質シタルモ差当リ何等格別ノ運動ヲモ為シ居タルモノトハ認メラレズ升允ノ来滬ニ付宗方ノ弁解ニ拠レハ旧臘東京滞在中升ヨリ上海ニテ同志ニ会シ日本ニ赴キタキ旨申越セルニ対シ再三其時機ニアラサルヲ説キ中止ヲ勧告セルニ拘ハラズ強テ決行セルモノナリトノコトニテ察スルニ右報道ノ出所ハ宗方カ旧臘恰モ内閣更迭ノ際日本ヨリ帰滬セルヲ以テ之ヲ機會ニ在當地宗社党ノ或者(姚文

藻カ)カ彼等ノ慣用手段トシテ同志ニ勢ヲ附クル為宗方ノ報道ナリトシテ青島ノ一味ニ我政府ハ復辟ニ賛成セリ等ノ内報ヲナシタルト其際恰モ升允ノ南下セル事実等ニ因ルモノナルヘク宗方ニ於テハ何人ニモ右様ノ談ヲ為シタルコトナシト申居リ同人カ平素帝政論者タルモ御承知ノ如ク用心深キ人物ニテ諸事常ニ本官トモ隔意ナク打合ヲ為シ来リ居リ其言動ト前後ノ事情ヨリ見テ同人カ差当リ此種運動ヲ試ムルカ如キコトアリトハ認メ難シ、

公使へ転電セリ

一〇 二月八日 在奉天赤塚總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

日本行ノ目的及復辟ニ関スル張作霖談話報告

ノ件

第二三三号

二月七日張作霖ハ本官ニ向ヒ中央政府モ愈々自分ノ日本行ヲ許可シタルヲ以テ自分ハ觀光ノ名義ヲ以テ不日渡日スル管ナル旨ヲ語リタルヲ以テ本官ハ其ノ渡日ノ真目的の如何ト尋ネタルニ彼モ露骨ニ自分ハ復辟論者ニシテ共和ニ反対ナリ日本ト同シク立憲君主制ヲ採用スルヲ可トスト前提シ今

ヤ支那ノ形勢ヲ見ルニ黎總統ハ徒ニ虚位ヲ擁シ段祺瑞、馮國璋等又總統タルノ野心アリト雖モ共ニ天下ノ器ニアラス内閣員ハ互ニ相反目シテ一致ヲ欠キ議會ハ徒ニ破壊ヲ事トシ從テ各省督軍省長モ亦中央ヲ輕シ命ヲ奉セス上ニ中心ナク下ニ統一ナシ斯ノ如クニシテ進マンカ支那ハ遂ニ滅亡ヲ免カレス事ノ玆ニ至リタルハ皆共和ノ罪ニシテ皇室ヲ中心トシテ政治ヲ行ヒタル前清時代未ダ曾テ斯ノ如キ惡政ヲ見タルコトナシ去レハ当今ノ急務ハ清朝ヲ復興シテ權力ヲ中央ニ集メ實力ヲ以テ天下ニ君臨スルノ外アルヘカラス此ノ見地ヨリシテ自分ハ北京ノ同志並徐州ノ張勳、浙江ノ楊督軍及広東ノ竜濟光ト力ヲ併セテ一年内ニ事ヲ起ス考ナリ南方派ハ少シモ恐ルルニ足ラス北方ノ武力ヲ以テスレハ之ヲ征服スルコト容易ナリ只憂フルハ貴州雲南ニシテ共ニ辺僻ノ地ニ位スルカ故ニ兵ヲ進ムルコト困難ナリ但シ事ノ成否ハ一ニ懸テ日本ノ対支態度ニ在リテ若シ事ヲ挙ケタル場合ニ於テ日本ニシテ第三革命ノ當時ノ如ク南方ヲ援クルカ如キコトアリテハ終ニ目的ヲ達スル能ハス聞クカ如クムハ日本ノ現政府ハ対支親善ノ方針ヲ持シ居ル趣ナルカ果シテ然ラハ日本政府ハ支那ノ何人ニ依リテ日支親善ヲ行ハントス

ルヤ自分ハ此辺ノ確タル意見ノ在ル所ヲ日本ノ当事者ニ就テ聞カント欲スルモノニシテ寺内首相トハ特別ノ關係モアルカ故ニ今回ノ渡日ヲ思立タル次第ナリト仍テ本官ハ貴督軍ノ事ヲ挙クルノ計画ハ既ニ内密ニ進行シツツアル次第ナリヤ又一年内トハ大總統選舉期ノ前後ヲ見越シタルモノナリヤト問ヒタルニ彼ハ未ダ計画ニ著手シタル訳ニハアラス日本ノ意嚮ヲ確カメタル上ニテ決定セム考ナリ一年内ト謂ヘルハ大略ノ見込ニテ別ニ大總統選舉期日トハ何等關係ナシト答ヘ東京ニ約二週間滞在ノ上帰途朝鮮總督ヲ訪問スル筈ナリト語レリ右聞クカ儘電報ス尚張ハ兩三日中出發ノ筈ナリシモ馮德麟トノ間ニ華富銀行問題ニ付悶着起リ互ニ相確執シツツアレハ出發迄ニハ多少ノ時日ヲ要スルナラント云フ、鄭家屯問題ハ張ノ出發迄ニ可成多ク実行セシムル考ナリ

公使へ電報シ都督へ郵報セリ

一一 二月二十六日 在上海原田總領事代理ヨリ
本野外務大臣宛

復辟論ニ対スル孫文ノ談話要領報告ノ件

機密第一二二号

(三月六日接受)

大正六年二月二十六日

在上海

総領事代理領事官補 原 田 万 治(印)

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎殿

近來又々復辟ニ関シ各地ニ於テ論評セラルルヲ耳ニ致候ニ付先日然ル宴会ニ於テ孫文ト同席セシヲ幸ヒ同人ニ就キ其意見ヲ尋ネ候処同人ハ復辟ハ必ス實現セラル可ク又其時期ハ近々ノ中ニ在リ而シテ自分ハ其實現セラレン事ヲ衷心ヨリ希望シ居ル旨ヲ物語リ候今其理由トスル所ヲ聴クニ元來帝制問題ハ袁世凱ノ死去ニ依リテ一旦消滅シタルカ如キモ當時帝制ヲ擁護シタル殘党ハ尚殘留シ居リ且ツ議會ノ橫暴ヲ憎ムハ豈独リ張勳倪嗣冲ノミニ止マラスシテ各省督軍等皆然ラサルハナシ殊ニ官僚派ノ重ナル者ハ凡テ支那ノ目下ノ国状ハ專制ニシテ充分ナル実力ヲ以テ臨ムニ非レハ維持シ難キヲ云為シ居リ一旦其機運ニシテ熱サンカ現状破壊ヲ企テシテ事彼等ノ均シク切望スル所ナリトナシ且此機運ハ漸ク熟シ来レルモノノ如ク陸宗輿ノ渡日モ這般ノ目的ニ出ツルモノニシテ今年中ニハ何トカ此方面ノ画策ニ於テ一大發展ヲ見ルヘシトシ而シテ右ノ運動ハ上述ノ如ク目下実力ヲ

ノト実力ノ点ニ於テ同日ノ談ニアラス今徒ラニ彼等ニ反抗セン事ハ只犬死ニ終ランノミ之彼等ノ自滅ヲ待ツ所以ナリトテ同人カ現時浪人ノ生活ニ甘ンシ居ル次第ヲ説明致候尚同人ハ升允ニ関シ彼ハ自分ト主義ニ於テハ正反對ナリト雖モ確固タル信条ヲ有シ無主義無節操ナル馮国璋等ノ如キニ比シ霄壤モ只ナラストテ口ヲ極メテ賞揚シ居リ只充分ナル実力ヲ欠クカ為メ差シタル働キモ出来難カルヘシト致居候右時節柄何等御参考迄報告申進候 敬具

本信写送付先 在支公使 南京領事

一一 三月二日

田中参謀次長ヨリ
齋藤少将、青木中將、坂西大佐、石光少將、高橋大佐、森岡少将、高山少將、松井中佐、依田大尉、山県少佐 各宛(電報)

日本ノ復辟援助ノ風説ハ全ク事實無根ナルニ

付中国人ノ誤解一掃ニ努メラレタキ件

近頃支那ニ宣統帝復辟ノ運動ヲ為スモノアルニ連レ爾親王ノ三子ノ東京游学、陸宗輿ノ来朝ノ真目的ハ復辟運動ニ在リトノ風説及爾親王カ近日来朝スヘシトノ風説等ヲ綜合シ日本ニ復辟援助ノ意アリトノ説ヲ伝フルモノアルヤニ聞ク蓋シ或ハ為メニスル所アリテ故意ニ此ノ如キ虚構ノ説ヲ流

一 張勳ノ復辟ニ関スル件 一二 一三

有スル官僚派等ノ最モ希望スル所タルニ鑿ミ必ズ成功スヘク馮国璋ノ如キモ或ハ其ノ最初ノ中コソ之ニ賛セサルヤモ知レスト雖モ其ノ旗色ノ漸次有望トナルニ及ンテハ必ス賛成スルニ至ルヘシトナセリ而シテ此クノ如クニシテ一旦ハ必ス復辟ノ成功ヲ見ル事今ヨリ予言スルニ躊躇セスト雖モ而カモ其ノ持続ノ期間ハ頗ル短期ナルヘシ蓋シ支那ノ根底ニ横ハル真ノ民情ハ到底之ヲ容認セサルヘキヲ以テ必スヤ之ヲ覆サスシテ止ムヘカラサレハナリト云ヒ斯クテ今日ノ所謂官僚派等其他帝制殘党ハ全然其影ヲ没スルニ至ルヘク世ハ真ニ理想的の共和時代ヲ現出スヘシ之一時復辟ノ成功ヲ歡迎スル所以ニシテ之ニ依リ現今ノ如キ似而非共和ノ状態ヲ形成スル官僚系ヲ驅逐セント欲スルモノナリトナシタルヲ以テ之ニ對シ其何故ニ速カニ積極的行動ニ出テテ一刻モ早く同人ノ所謂理想的の共和實現ノ為メニ其妨害ヲ除去セン事ニ努メサルヤト反問致候処同人ノ答フル所ニ依レハ如上帝制擁護者モ目下ノ処少クモ表面上ニ於テハ共和ノ擁護者トシテ自分ト同一ノ方向ニ進ミ居リ今特ニ之ヲ攻撃スルノ適當ナル言掛リヲ有セス又彼等ハ凡テ実力ヲ擁スル徒輩ニシテ自分等ノ如キ僅カニ二三督軍ノ援助アルニ止マルモ

布スルモノアラントモ思ハル日本ノ對支方針ハ支那ノ政党政派ニ對シテ不偏公平ノ態度ヲ守ルニ在ルヲ以テ復辟論者ノ一派ノミヲ援クル如キコト無キハ貴官ノ知ル通りナリ爾親王ノ三子ノ游学ハ何等政事上ノ意味アルモノニ非ズ陸宗輿ハ在京中復辟ニ関シ總理始メ何人ニ對シテモ少シモ運動セザリシノミナラス町田中將ニ對シテ却テ復辟反對ノ意見ヲ明言セシ位ナリ蓋シ或ハ来朝後帝國ノ對支方針ヲ察知シ復辟論ノ如キコトヲ言ヒ出スモ何等ノ効果無キヲ自覺セシニ因ルナランカトモ思ハル爾親王来朝ノ件ハ親王モ一時ハ其意図アリシ如クナレトモ関東都督府参謀長ヲシテ忠告セシメ断然之ヲ中止スルニ至レリ要スルニ日本ノ復辟援助ノ風説ハ全ク事實無根ナリ而シテ假令一時ニモセヨ支那人ヲシテ此ノ如キ邪推ヲ為サシムルハ大局上兩國ノ為ニ不利益ナルカ故ニ貴官ハ機會ヲ求メテ適當ノ弁明ヲ与ヘ支那人ノ誤解ヲ一掃スルヲ努メラレタシ

一三 三月三日

本野外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛

復辟運動ニ関スル町田中將ト陸宗輿トノ会谈

要旨写送付ノ件

附屬書 右会談要旨

政機密送第三六号

過般陸宗輿氏当地滞在中參謀本部第二部長町田中将トノ会談要旨今般別紙写ノ通參謀本部ヨリ内報有之候条貴官御參考迄ニ右写茲ニ及御送付候条御査閱置相成度候也

(附屬書)

(写)

(三月一日外務省接受)

陸宗輿ト会談要旨

町田 中将

二十四日夕陸宗輿來訪支那ノ時局ニ関シ約一時間余会談シタリ、彼カ談片ノ要旨左ノ如シ

一、復辟運動ハ昨今ニ至リ益其熱度ヲ高メ來リタルハ事實ナリ予ノ許ニモ各方面ヨリ之ニ関スル電報廣集シツツアリ元來予ハ前清大官ノ一人トシテ且肅親王ト旧知深キ關係上世人中予ヲ目シテ本運動者ノ主要分子ト為ス者アル様ナルモ予ハ復辟運動ヲ試シントスル者ニアラス今回ノ來遊ノ如キモ単ニ私用ト外ニ日支經濟關係ニ付若干ノ用務ヲ帶フルノミ

二、復辟論者中ニハ諸種ノ分子ヲ包有シアリテ直ニ宣統帝ヲ復位セシメ某親王ヲ撰政トシテ支那ヲ以前ノ帝政ニ立ル滿漢兩族ノ軋轢ハ其根底深ク第一革命ニ於テ稍減滿興漢ノ目的ヲ達シタル今日再滿人ヲ戴テ支那ニ君臨セシムルカ如キハ之レ大勢ニ逆行スルモノニシテ恐ラク不可能且永遠治國ノ途ニアラサルヘシ

五、成功ノ見込ナキニナマジイ復辟運動ヲ実行セハ宣統帝ヤ肅親王一派ハ其累ヲ受ケ遂ニ皇室優待条件等(年々四百萬元ノ手当ヲ受ク)ノ既得權ヲモ失ヒ悲惨ナル境遇ニ陥ルヘシ之レ前清大官ノ一人タリ且又肅親王ト關係深キ予等苦心ノ存スル所ニシテ彼等ヲシテ斯ル運命ニ陥ラシメスシテ何トカ時局ヲ救済シタシト思フ之ヲ要スルニ憲法ヲ改正シテ国会ノ權能ヲ削減シ徐世昌ノ如キ大人物ヲシテ時局ヲ拾收セシムルヨリ他ニ良策ナカルヘシ

六、予ハ寺内首相ト会見ノ際ニハ談復辟ニ及ハサリキ外相トハ若干復辟ニ関シテ談話シタルモ固ヨリ具体的ニハ深入セサリキ、

加藤高明子、犬養氏トハ旧知ノ間柄ナル故長時間談話セシモ復辟ニ関シテハ言及セサリキ其他朝野人士トノ会見談ハ大概皆經濟關係事項ノミナリキ、上原參謀總長トモ相知ノ間柄ナルモ周田ノ事情上今回ハ会見ヲ見合ハスコ

一 張勳ノ復辟ニ関スル件 一四

テ直サントスルモノノ如キハ極メテ少数者ニ止ルヘシ他ハ多クハ名ヲ復辟ニ藉リ「クーデター」ヲ行ヒ現国会ヲ解散シ民党ヲ庄迫シ以テ中央政權ヲ強大ナラシムル所ノ新憲法ヲ制定シ徐世昌ノ如キ大人物ヲ以テ名実共ニ支那統治ノ實權ヲ握ラシメント欲スルモノナルカ如シ徐世昌ヲシテ政權者タラシムルコトニ関シテハ張勳一派モ異存ナキ所ニシテ段祺瑞ノ如キハ第一革命當時共和ノ主唱者タリシ關係上宣統帝ヲ擁立シ帝政ヲ復興スルニ對シテハ反對ナルヘキモ徐世昌ヲシテ大統領タラシムルコトニ関シテハ異存ナカルヘシ蓋シ目下ノ如キ国会ノ權力無限ナル約法ト無責任、無能力ナル国会議員ニテハ支那ハ到底治マラス然レトモ約法ヲ完全ニ改正セントスルモ現在ノ議會ニテハ到底通過ノ見込ナケレハナリ

三、由來支那ニ君臨シ得ル者ハ皆實力ヲ以テ天下ヲ討平シ威名赫々タル人タラサルハナシ然ルニ今孤立無力ナル宣統帝ヲ君臨セシメテ支那カ果シテ治マルヘキヤ特ニ肅親王ノ如キ撰政王タルヘキ政治上ノ能力ナク又現在ノ有力政治家ト何等ノ連絡アルコトナシ

四、外國人ノ眼ニハ左程映セサルカ如キモ由來支那ニ於ケト然ルヘシト信シ差シ控ヘタリ何卒貴下ヨリ可然御伝聲ヲ請フ

七、目下支那中央及地方大官中徐世昌ハ勿論張勳、張作霖等ノ如キ衷心ヨリ日支親善ノ必要ヲ認メ貴國ニ好感ヲ有シツツアルコトハ諒トセラレタシ、段祺瑞モ近來日本ニ親ムノ有利ナルコトヲ認メ居レリ馮國璋ハ八方美人ナレトモ決シテ國家ノ重寄ニ耐ユル人物ナラサルコトハ袁世凱カ生前言明セシ所ナリ、

黎元洪ハ好人物ナレトモ大手腕ナク徒ニ無力ナル民党ノ徽菌ニ侵染セラレツ、アルハ遺憾ナリ

八、對獨國交斷絶ヲ決行シ尚進ンテハ連合國ニ加入スルコトニ関シテハ徐世昌、段祺瑞等ノ決心鞏キ故早晚実行ノ運ニ至ルヘシ

九、陸宗輿ハ此談話ヲ極秘ニセラレ度ト懇請セシヲ以テ為念。

一四 三月三日

在中國芳沢臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛

復辟説ト孔教國教説ニ関スル件

公第七七号

(三月十二日接受)

一七

大正六年三月三日

在支那

臨時代理公使 芳 沢 謙 吉(印)

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎殿

共和政治ノ支那ニ適合スルヤ否ヤハ民国建設以來ノ疑問ニシテ先年学者乃宣ハ毅然トシテ清朝復辟ノ說ヲ唱ヘテ輿論ノ擯斥スル処トナリ袁前總統ハ之ヲ四川ノ本籍ニ放逐看管セリ民国四年秋袁氏帝制ヲ自為シテ雲貴先ツ義ヲ起シ各省騷擾響應シ袁氏一朝ニ殞落シテ共和恢復スト雖モ共和ノ果シテ支那ニ適應スルヤ否ハ今猶依然タル疑問ニシテ政府ト国会、新人物ト旧人物、民党ト官僚党トノ間主張意見ノ衝突相容レサルヤ復辟ノ說ハ毎々各種ノ方面各種ノ状態ニ於テ運動主張セラルル亦已ムヲ得サルノ趨勢ト可申最近前在日本公使陸宗輿カ東渡スルヤ早ク已ニ復辟問題ニ関シ日本朝野ノ意嚮ヲ探リ其援助ヲ求ムルノ使命ヲ帶フルモノナリト伝フル者アリ陸カ官僚党タル出身経歴ニ顧ミ一般ノ深ク注目スル処ニシテ現ニ二月九日ノ北京発行醒華報ノ如キハ「不可思議ノ復辟風潮」ト題シ長文ノ記述ヲ為シテ此間ノ消息ヲ揣摩指摘シテ十二省督軍連名ノ主張ニヨツテ本問

題ハ火蓋ヲ切ルヘク陸ノ東渡ハ日本ノ内意ヲ探リ其援助ヲ求ムルニ在リテ日本ニ許スニ日支交渉懸案ノ要求ヲ以テシ經濟連絡ニ藉リ交通銀行ヲ合刃トシテ代理国庫ノ權利剝奪ヲ抵制スルモノナリ抔ト記載シアリシカ偶マ二月二十日ノ東京朝日新聞カ清朝復辟問題輿ト題スル記事及二月二十二日大阪朝日新聞記載ノ復辟再運動由来ナル東京電話ノ当方面ニ伝達セラレ殊ニ其末段ニ於テ我政府カ支那政界ノ新現象トシテ今後ノ成行如何ヲ傍觀スヘシ云々トアリシヨリ甚シク当国官民兩方面ノ注意猜疑ヲ喚起シ連日ノ各紙ハ競フテ之ヲ記載シ種々ノ評語ヲ加ヘテ其荒誕無稽ニシテ到底今日ニ行フヘカラサルヲ説キ且ツ共ニ日本カ唱道スル日支親善論ノ真意ヲ疑ヒ殊ニ民蘇報ノ如キハ「帝制ノ余孽復タ用フ可キ乎」ト題スル社説ヲ掲ケ本件ニ論及シ暗ニ徐世昌等ヲ攻撃スルニ至リ所謂復辟臭味ヲ有スル帝制派乃至官僚派ハ痛ク我新聞ノ不謹慎ナルヲ非難スルニ至リタルモノト見受ケラレ候將又孔子教國教問題ニ至レハ最初目下討論中ノ天壇憲法案第十一條ニハ人民ノ信教自由ヲ規定シ又第十九條第二項ニハ國民教育ハ孔子ノ道ヲ以テ修身ノ大本ト為スヘキ旨ヲ規定シアル処憲法審議會開催ノ初メ早ク已

以テ大總統國務院兩議院等ニ通電ヲ發シ孔教ヲ國教トシテ憲法ニ規定スヘク要求シ之ヲ聽カサレハ誤國ノ罪歸スル所アリ相当ノ処置ニ出ツヘシト威嚇シ且ツ孔教尊君ノ義ハ必スシモ帝王ニ限ラサルヘシ云々ト説キタルハ稍々強迫不通ノ譏ヲ免レス而カモ此通電ハ十二省連合シテ復辟說ノ火蓋ヲ切ルヘシ等ト伝ヘラルル此際トテ或ハ其前提ナリ抔ト推測スルモノアリ且ツ一般ノ注意ヲ喚起スルニ至リ候右張勳等ノ通電大要ハ往電第二四四号ヲ以テ及電報置候ヘ共為念別紙之通り訳送候條御査閱相成度候也

註 別紙省略

一五 三月二十日

森岡青島守備軍參謀長ヨリ
田中參謀次長宛

復辟ニ関スル青島守備軍司令官ト升允トノ会

談概要送附ノ件

附屬書 右會談概要

(三月二十七日外務省接受)

軍司令官升允會談ノ件通牒

大正六年三月二十日

青島守備軍參謀長 森 岡 守 成

參謀次長 田中 義一殿

三月十八日当地在支那宗社党首領升允軍司令官訪問ノ際復辟実行ニ関シ左記問答中ニ記スル三浦觀樹將軍ノ言明セラレタル如ク我政府ハ支那ノ内政ニ干渉セザル方針ヲ支持セラルルヤ否ヤ問合セ呉トノ依頼有之候ニ對シ司令官ハ其裏面ニ幾何ノ準備アルヤヲ搜ランカ為殊更ニ之ヲ承諾セラレ候ニ付左記問答御熟覽ノ上可相成ハ電報ヲ以テ何分ノ御意見御回示被下度御内報旁及御依頼候也

左記

(附屬書)

軍司令官ト升允トノ会谈概要

升允曰ク、去二月四日東京ニ於テ三浦觀樹將軍ト會シ清朝復辟ニ関スル予ノ所見ヲ詳陳シタル後若シ日本ノ現政府ニシテ果シテ支那ノ内政ニ干渉セサルコト確實ナレハ予ハ直ニ実行ニ着手セント欲スルモノナルコトヲ告ケタルニ將軍曰ク現内閣ハ決シテ支那ノ内政ニ干渉スルモノニアラス速ニ実行ニ着手スルヲ可トス躊躇シアラハ時機ヲ逸セント奨励セラレタリ依テ予ハ歸米各方面ニ交渉シ今ヤ何時ニテモ事ヲ挙クルニ差支ナキ程度ニ準備進捗セリ

ル後ニ於テ中止ノ忠告ヲ受クルコトアルモ如何トモ為シ難キ破目ニ陥ルヲ以テ若シ忠言アラハ実行前ニ承リタシ就テハ貴大人ヨリ一応日本政府ニ確メ貰フコトハ出来サルヤ

司令官曰ク、斯ノ如キ事ハ全ク予ノ職責外ニ属スルコトナルヲ以テ予ノ立場トシテハ甚タ迷惑ニ感スルモ貴下ノ國ニ忠ナル誠意ニ免シ一応其ノ筋ニ問合セ見ルヘシ(此際其ノ時機ニアラサル事由ヲ説明シ思ヒ止マラシメント思惟シタルモ彼カ裏面ニ幾何ノ準備ヲ為シアルヤヲ搜ランカ為殊更ニ斯ク答ヘタリ)敢テ問フ貴下ハ腕力ヲ以テ復辟ノ目的ヲ達セントスルモノノ如シ之カ為ニハ大ナル準備ヲ要ス果シテ相当ノ準備アリヤ

升允曰ク、十分ナル準備アリ其点ニ就テハ貴意ヲ勞セラルルヲ要セス

司令官曰ク、其準備ノ概要ヲ承ルコトハ出来サルヤ予ハ強テ貴下ノ秘密ヲ知ラント欲スルモノニ非サルモ相当ノ事由ヲ附シテ質問セサレハ質問ノ意思徹底ヲ欠キ再三反問ヲ受クルノ不利アリト信ス

升允曰ク、御尤ナリ茲ニハ其詳細ヲ具陳スルヲ得サルモ徐

一 張勳ノ復辟ニ関スル件 一六

敢テ問フ日本政府ノ意向ハ今日ニ於テモ三浦將軍ノ言ノ如ク一切支那ノ内政ニ干渉セサル方針ヲ支持セラルルヤ司令官曰ク、三浦將軍ハ予ノ先輩ニシテ且日本現時ノ政治家中相當ノ勢力ヲ有スル人ナレハ其言ハ固ヨリ尊重スルモ而モ責任者ニアラス貴下ハ当路ノ寺内首相ニモ會見セラレタルコトアリト云フ、首相ニ對シテモ同一ノ事ヲ談セラレタルヤ

升允曰ク、首相ニハ會見シタルモ之ヲ談スル暇ナカリシ而モ三浦將軍ハ首相モ予(三浦)ト同意見ナリト云ハレタリ

司令官曰ク、貴問ノ如キ事ハ予ノ職責外ニ属スルコトナレハ責任アル答ヲ為スヲ得ス然レトモ予個人ノ所見トシテハ日本政府カ支那ノ内政ニ干渉セサルコトハ事實ナリト信ス而モ支那ノ為ニ願ミテ其存立上確カニ不利ナリト認ムル事件ニ對シテハ好意的ニ忠言ヲ与フルコトアルヘシト思惟ス是レ支那ノ自滅ハ日本ノ自衛上大ナル不利アレバナリ、

升允曰ク、貴答了解セリ敢テ請フ予ハ三浦將軍ノ言ニ信頼シ早速実行ニ着手シタキ希望ヲ有スルモ一旦事ヲ挙ケタ

州ノ張勳ヲ中心トシテ倪嗣冲、張懷芝、東三省ノ三督軍、河南、浙江、北洋軍ノ一部(以上人名ヲ云ハス)トハ悉ク確實ナル連絡アリ日本政府ニシテ支那ノ内政タル復辟ノ企圖ニ干渉セサルコト明確ナルニ於テハ何時ニテモ事ヲ挙クルヲ得ヘク成效モ確實ナリト思惟シ居レリ云々。

(欄外註記)

「本庄中佐ニ尋ネタルニ三浦中將ノ談話ハ事實ナリ然レドモ支那ノ内政ニ干渉スル訳ニハ非ザレドモ目下ノ処斯カル運動ヲ為スハ第一宗社党自身ノ為ニモ支那ノ為ニモ日本ノ為ニモ其時機ニ非ザル旨升允ニ懇説スル様回訓済ナリトノコトナリ(徳川印)」

一六 四月二十三日 石光天津駐屯軍司令官ヨリ 上原參謀總長宛(電報)

倪嗣冲ノ復辟計画ニ関シ謝介石談話ノ件

天電第六号 (四月二十四日外務省接受)

今回倪嗣冲冲カ目論ミタル復辟ノ陰謀ニ関シ謝介石ノ語ル所左ノ如シ

該陰謀ハ其後政府側ノ聞知スル所トナリ之ニ對スル警戒嚴重トナリ段祺瑞ハ復辟派ノ督軍カ上京セル機会ニ於テ其自由ヲ拘束スル計画アリトノ噂サヘ伝ヘラレ注意深キ徐世昌

ハ此際復辟ノ計画ニ同意ヲ表セス又來京少キ各省督軍トノ打合せハ十分ナラサルヲ以テ張勳モ北上ヲ躊躇シアリシカ(若シ成功ノ望ミアルトキハ天津迄來リ各省督軍ノ會議ヲ開ク筈ナリシナリ)陸榮廷ハ帰南ノ途中張勳ニ向ヒ此際ニ於ケル北上ハ見合ハスヘシト切ニ忠告スル所アリシ為張勳ハ断然北上ヲ見合セタリ斯クテ同志中ニモ時機宜シカラスト称フルアリ今回ノ陰謀ハ遂ニ失敗ニ帰シタルカ如シ然レトモ倪嗣冲ハ今回ノ計画カ假令失敗ニ終ルモ最初ノ目的ヲ達スル迄ハ機會アル毎ニ此運動ヲ断行スヘシト朱家宝ニ向ヒ放言シタリト云フ。

一七 四月二十四日

森岡青島守備軍參謀長ヨリ
田中參謀次長宛(電報)

升允宗社党幹部ニ対シ復辟挙事困難ナル旨談
リタル件

青電第六号

(四月二十五日外務省接受)

升允ハ去二十一日当地在住宗社党幹部九名ヲ召集シ宗社党ノ事業ハ益々困難トナリ現在ノ状態ニアリテハ到底事ヲ舉クル見込無シ然リト雖各員決シテ黨員ノ名譽ヲ汚スコトナク自重シテ時機ノ到來ヲ待ツヘシ而シテ黨員中元革命軍、

件

第六三号

張弧カ池辺ニ内話シタル処ニ依レハ段祺瑞ト張勳トノ連絡取レ張勳ハ四十營倪嗣冲ハ二十營ノ兵ヲ率ヒテ滄州辺迄北上スルコトトナリ一兩日中ニ実行ノ運ニ至ルヘシ、右ハ北京ヲ威圧シテ大總統ヲ退位セシメ一氣呵成ニ復辟ヲ実行スル計画ナリ云々尚昨夜張勳ノ代表金永(元山西巡按使)謝介石ニ語りタル処ニ依レハ段ト張トノ意思疏通シ段ヲシ(脱)ムル見込付キタル由謝ヨリ本官ニ内話セリ真偽ハ保シ難キモ聞込ノ儘電報ス謝ハ金ト共ニ急遽二十七日徐州ニ向ヒタリ李ハ未タ北上セス。
北京公使南京濟南領事へ電報ス

二〇 五月三十日

在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

復辟ニ関シ陸宗輿時局ノ裏面消息ニ付語りタル件

第六九二号 極秘

五月三十日陸宗輿來訪極内密ニ時局ノ裏面ニ関スル消息ヲ伝ヘタリ陸曰ク督軍連カ徐州ニ張勳ヲ訪問セントシタル際

一 張勳ノ復辟ニ関スル件 二〇

馬賊社界ヨリ來レル者及黨員中ノ不良分子ニ対シテハ此際断然党籍ヨリ除名シ以テ党ノ廓清ヲ図ルヘキ旨申渡セリ要スルニ升允ノ真意ハ現在ノ状態ニ於テ当分挙事ヲ断念シタルヨリモ寧ロ末輩ヲ驅除シ事ヲ慎重ニセントスルモノナリト認メラルル而シテ目下当地在住者トシテ宗社黨員ト認メラルル者ハ約五十名内外ニ過キス

一八 五月十三日

石光天津駐屯軍司令官ヨリ
上原參謀次長宛(電報)

朱直隸省長張勳ニ復辟運動開始ヲ勸告ノ為謝
介石ヲシテ密書ヲ徐州ニ携行セシメタル件

天電極秘第三四号

(五月十四日外務省接受)

一昨十一日夜直隸省長朱家宝ハ張鎮芳、雷震春等ト協議ノ結果今次ノ中央騷擾ハ復辟決行ノ好機會ナリトシ此際張勳ニ運動開始ヲ勸告スル為秘書謝介石ヲシテ密書ヲ徐州ニ携行セシメタリ謝ハ右要件ノ外田中次長接待ニ関シテ張勳補助ノ為徐州ニ行ケルモノトス。

一九 五月二十八日

在天津松平總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

復辟ニ関シ段祺瑞及張勳間ニ意思疎通シタル

張ハ督軍連ニシテ今回ノ如キ挙措ニ出ツルトセハ寧ロ袁ノ死後直ニ宣統帝ノ復位ヲ計ルヘキ筈ナルニ事茲ニ出テスシテ北洋派又ハ段擁護ノ為メ事端ヲ引起スカ如キハ抑モ本末ヲ誤マルモノナリ從テ自分ハ斯ノ如キ不徹底ノ計画ニ付与ミスル能ハストノ理由ヲ以テ會合ヲ謝絶シタリ茲ニ於テ督軍中二三懇親者ハ更ニ張ト會見シ篤ト督軍側希望ノ存スル処ヲ説明シタルニ張ハ漸ク之ヲ諒トシ然ラハ自分ハ敢テ督軍側ノ計画遂行ニ対シ妨害ヲ加ヘサルヘシ去リナカラ時局ハ結局復辟ニ帰着スヘシト思考スル旨返答シタル処督軍等モ之ヲ首肯シテ別レタル次第ナリ總統府側ニ於テ張ノ態度ニ付頗ル樂觀的態度ヲ持シ居タルハ蓋シ如上張ノ仕打ニ関スル(不明)等ノ報告ニ依リ意ヲ安シタルモノナルヘク要スルニ張ノ立場ハ右ノ通りナルニ付素ヨリ大總統又ハ議會側トモ一致シタル次第ニアラズ現ニ馮国璋ヨリ議會ヲ尊重スヘキ旨ノ電報アリタルニ対シ張ハ説ヲ異ニスルニ付敢テ答弁セサル旨真ニ素氣ナキ返電ヲ發シタル位ナリ張ノ態度ハ右ノ通ナルカ扱テ時局ハ進行シテ或ハ大總統ノ退位ヲ見ルコト有之ヤモ計リ難シ其ノ場合ニハ約法ニ拠リ一時副總統トシテ馮ノ元首タルヘキコトアランモ馮ハ彼ノ終始曖昧

ナル態度ヨリシテ独リ張ノミナラス督軍全体ヨリ見放サレタル次第ニテ勿論同人如キモノヲ元首ト認ムル能ハス從テ結局復辟說勢力ヲ得ルニ至ルヤモ計リ難キ処右ニ関スル貴見如何ト尋ネタルニ付本使ハ之ニ対シ国政ノ目的ハ善政ヲ為スニアルカ故政府議會等要スルニ国家ノ諸機關ニシテ復辟說ニ一致セハ清室ヲ復興シテ善政ヲ布クコトトスルモ可ナランカ現下ニ於ケル大統領會議会ノ如ク復辟ニ反対ナル局面ニ於テハ素ヨリ復辟ヲ実行スルノ時ニアラズト思考スル旨程能ク挨拶シ置キタリ

二一 六月四日 在中國林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

北洋派ニ於テハ復辟見合方ニ付張勳ヲ説得中

ナル件

第七二四号

(六月五日接受)

張勳ハ最初ノ声明ニ拘ハラス北上ヲ中止シタルモノノ如クナル所張ハ李盛鐸ノ徐州訪問ノ際李ニ対シ北上ノ上調停ノ勞ヲ執ルヘキ旨ヲ語リタルタメ李ハ其ノ心中ニ於テ李經羲内閣ノ出現ヲ希望スルヨリ張ノ言ヲ其ノ儘信シテ帰北シ鈕伝善モ亦李盛鐸ト其ノ希望ヲ一ニセルヨリ同シク張ノ言ヲ

正面ヨリ解釈シ居タルモノノ如キモ元來張ノ心底ハ復辟実行ニ在リテ此ノ点ハ天津ニ於ケル徐世昌等ニ於テ疾ク之レヲ諒解シ居タルモノノ如シ然ルニ本使ヨリ陸宗輿ニ対シ此際復辟実行ノ不得策ナル次第ヲ説キタルタメ陸ヨリ其ノ旨天津ニ於ケル北洋派ニ復命シタル結果ト見ヘ北洋派ハ張カ調停ノ名義ニテ北上ノ上場合ニ依リ復辟ニ著手センコトヲ慮リ茲ニ張ノ北上見合セ方ヲ勸ムルト同時ニ往電第七二二号ノ通復辟ハ此際絶対ニ実行セサルコトニ決定シタルモノノ如シ而シテ北洋派ニ於テハ右復辟見合セ方ニ付目下張ヲ説得中ノ趣ナル所張ハ多分之レニ同意スヘキコトト予期セラルルモ只今迄ハ此点尙判明セサル模様ナリ(後略)

二二 六月六日 在天津松平總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

復辟実行困難ノ情勢及張勳ノ北上ニ関シ張弧

内話ノ件

第九四号

六月六日夜張弧カ池部ニ内話シタル所ニ依レハ時局ハ一兩日來停滯ノ姿ナリ今日迄吾々同志ハ今回ノ政変ヲ利用シテ復辟ヲ実行スル目的ニテ進行シ来リ十中八九迄ノ成算アリタ

二二 六月七日 在天津松平總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

復辟ニ関シ張勳等及北洋系間並北洋系内意見

對立ニ関スル件

第九六号

六月六日夜陸宗輿カ本官ニ語ル所ニ依レハ往電第九四号張弧ノ談ヲ全然確メ居リ又陸宗輿ヨリ復辟断行不可能ノ意見ヲ電報セシニ対シ七日夜張勳ヨリ激烈ナル返電アリテ断行ヲ主張シ来リタル為張勳トノ交渉ハ行惱ミ居リ唯張ノ来津ヲ待チ居ルノミナル由申居リタリ要スルニ過般來復辟問題ニ依リテ督軍連ノ結束ヲ広クセシ觀アルト共ニ又同問題カ分裂ノ種トナラントスルノ奇觀ヲ呈シ居レリ即チ北洋派幹部ハ兎ニ角張勳等ヲ一味ニ入レザレバ到底何事ヲモ為シ能ハザルヲ知り今日迄ハ張ノ意ヲ迎フル為復辟賛成ノ意ヲ表セルモ其実行時機ニ関シテハ種々議論アリタルモ要スルニ有耶無耶ニ為シタル所昨今時局益々進捗シテ大統領退位モ迫リタル為復辟実行ノ時機ニ付テ決定セザルベカラザルニ至リ茲ニ徐世昌曹汝霖陸宗輿等一派ノ漸進意見ト張勳雷震春等ノ断行意見ト衝突スルニ至リタルモノニシテ總統ハ直

右在支公使へ電報セリ

ニ復辟ヲ実行セントセバ延イテ南北分立ヲモ招ク虞アルヲ
氣遣ヒ此際張勳ヲ宥メントスルモ内治上ノ問題ニハ耳ヲ貸
サザルヲ知り専ラ外交上ノ困難殊ニ日本ノ同意困難ノ理由
ヲ以テ張ヲ説得セントシツアルモノノ如ク張ニシテ当地
ニ於ケル相談ノ結果漸進主義ニ服スレハ時局ハ北洋系予定
ノ通り進捗スヘキモ若シ張ニシテ断行ヲ主張スレハ徐世昌
一派及梁啓超一派（梁ハ全然復辟ニ反対シ居リ目下反對論
文ヲ起草中ナル由陸ハ語レリ）ハ手ヲ退クニ至ルヘク左ス
レハ北洋系ノ分裂ヲ来タシテ更ニ形勢一変スルニ至ルヘキ
ヲ以テ此数日ハ北洋系ニ取り最モ懸念スヘキ時機ニシテ幹
部ハ内心大ニ氣遣ヒ居ルモノノ如シ
在支公使へ電報セリ

二四 六月七日 在奉天赤塚總領事ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

張作霖復辟実行ノ意思ナシト語りタル件

第一三五号

張作霖ノ談ニ曰ク自分ハ初来復辟論者ナレトモ今回ノ運動
ニハ毫モ復辟実行ノ意志ナシ実ハ張勳ヨリ復辟ノ意味ヲ含
メル電報ニ接シタルモ自分ハ時機ニアラストテ之レヲ卻ケ
觸ヲ保チタキ趣ニテ紛争ノ速了ヲ望ム旨述ヘタルニ付本使
ハ督軍連ニシテ復辟ヲ主張スルニ於テハ事態一層重大トナ
ルヘク幸ヒ徐世昌ハ本使熟知ノ間柄ニ付徐ニ対シ全然本使
一己ノ私見トシテ復辟ノ不得策ナル次第ヲ通シ置キタル旨
ヲ語りタル処同公使ハ更ニ張勳ノ兵入京スル筈ノ処右ニ就
テハ何等措置ヲ執ルノ必要ナキヤト尋ネタルニ付目下支那
側ハ余程神経過敏トナリ居ルニ付無用ノ誤解ヲ避クル為何
等必要生セサル限り此儘傍觀スル方可然ト思考スル旨答ヘ
タル処同公使モ同感ナル旨ヲ述ヘ引取りタリ

二七 六月九日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

復辟ニ対スル張勳曹汝霖陸宗輿ノ態度ニ関ス
ル件

第七五五号

（六月十日接受）

張勳カ愈々復辟ヲ思ヒ止マルニ至リタル次第ハ往電第七五
三号ノ通ナル所襲ニ田中次長カ徐州ニ特派シタル随行者
（天津駐屯軍中島通訳ナルカ同人ハ多年支那ニ居リ相当ノ
支那通ナリ）昨日帰京復命セル所ニ依レハ同人ハ徐州ヨリ
濟南迄張勳ト同車シ具サニ田中ノ伝言ヲ陳ヘタルニ張ハ能

タリ蓋シ張勳ノ意ハ自分並ニ山東省ノ勢力ヲ後楯トシテ復
辟実行ヲ策スルニアリシナランモ自分ニ於テ之レニ反対シ
タル以上此際単独ニテ之レヲ主張スルカ如キハ万ナカルヘ
シト信ズ（後略）

二五 六月八日 在天津松平總領事ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

徐世昌ノ復辟不可能説ニ張勳同意シタル旨陸
宗輿内報ノ件

第一〇二号

六月八日陸宗輿カ本官ニ内報シタル処ニ依レハ張勳ハ徐世
昌ニ会见徐ヨリ復辟不可能ナルヲ説キタル結果張モ終ニ徐
ノ意見ニ同意シタル由右ハ事実ニ付陸ノ話トシテ林公使ニ
通報セラルルモ差支ヘナキ旨附言セリ（後略）

二六 六月八日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

中国時局ニ対シ傍觀スル方可然旨米國公使ニ
語りタル件

第七四三号

（六月九日接受）

六月七日米國公使来訪現下ノ時局ニ関シ彼我相互絶エス接
ク諒解シ此際決シテ輕挙復辟ヲ実行スルカ如キ意志ナク何
レ篤ト徐世昌ト相談ノ上措置スヘキニ付安心アリタシト表
向ノ返答ヲナシタル上実ハ自分トシテハ此際ハ多年ノ宿望
實現ニ絶好ノ機会ナリト信シ居ルヲ陳ヘ暗ニ未練ケ間敷キ
語氣ヲ洩ラシ尚督軍連ノ復辟ニ関スル態度ヲ一々色別ケシ
テ詳細ニ批評シ且曹汝霖陸宗輿ハ元来復辟論者ナルニ拘ハ
ラス近来其ノ態度ヲ一変シタルコトヲ非難シタル趣ナリ右
曹陸ニ対スル非難ハ陸カ東京ニ於テ閣下及本使ヨリ復辟ノ
不得策ナルヲ説得セラレ爾來其ノ態度ヲ変スルニ至リタル
内情ヲ承知シ居ラサルカタメト察セラル將又最近本使カ曹
陸ト会见ノ際得タル印象ニ依レハ兩人トモ内心ハ復辟賛成
ナルニ拘ハラス我國ノ意嚮ヲ慮リ近来不賛成説ヲ主張スル
ニ至リタル次第ト認ム尚此機会ヲ以テ本使カ復辟問題ニ関
シ執リタル態度ニ付一言申上ケン本使是迄曹陸其ノ他有力
ノ向ヨリ復辟ニ関スル意見ヲ徴セラレタル際常ニ其ノ不得
策ナルヘキコトヲ説示シ置キタルカ右ハ万一ニモ先方ヲシ
テ支那側ニテ復辟断行ノ上ハ我ニ於テ結局承認ノ外ナカル
ヘシトノ念ヲ看取セシムルカ如キコトアリテハ一面ヨリ見
レハ我ニ於テ暗ニ復辟ヲ慫慂スルカ如キ形トナリ面白カラ

ズト思科シ我カ前内閣カ内外ノ認ムルカ如ク民党ヲ援助シテ失敗ヲ招キタル事実ニ顧ミ飽迄不干渉主義ノ本旨ヲ徹底スルタメ帝政派ニ対シ毫モ誤解ヲ与ヘサルノ精神ニ出タル次第ナリ右御含置ヲ請フ

二八 六月十日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張勳ノ曹汝霖陸宗輿ニ対スル誤解弁明方田中

參謀次長ニ依頼シタル件

第七五八号

曹汝霖ヨリ坂西ヘノ電話ニ依レハ李經羲内閣説勢力ヲ得来レリトノコトニ有之徐世昌ハ黎元洪ノ下ニ國務總理タルコトヲ肯ゼザルベキニ付大總統ノ地位ニ變動ナキ以上結局或ハ李内閣ノ出現ヲ見ルニ至ルヤモ計リ難シト思考ス張勳ハ既報通勳クトモ此際復辟ノ実行ヲ主張セザルコトトナリタルモノノ如キモ右ハ元ヨリ同人本来ノ希望ニ背ク次第ニテ同人ノ本心ハ勿論復辟ニ在ルカ故往電第七五五号通曹汝霖陸宗輿ニ対シテモ誤解ヲ懐ケル次第ナルガ万一李内閣出現スルコトアルモ時局尚必スシモ樂觀スヘカラサルニ付張勳ヲシテ従来我方ト密接ノ関係ヲ保持シタル徐世昌一派ニ対

シ置カルル様致シタシ。

三〇 六月十一日 石光天津駐屯軍司令官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

張勳ニ復辟断行ヲ促ス決心ナル旨升允談話ノ

件

天電一四 (六月十三日外務省接受)

本日上海ヨリ来リシ升允ノ語ル処ニ依レハ彼ハ張勳カ北往以来ノ行動頗ル緩慢ナルノミナラス復辟ヲ決行スルニ躊躇セル模様アルニ依リ心配ニ堪ヘズ張勳ニ傍目ヲ振ラズ本目的ニ猛進スルコトヲ勸告センカ為メ北上セリト、而シテ彼ハ此頃日本カ復辟ニ不同意ニシテ之ヲ主張スレバ日本ヨリ干渉アルヘシトノ噂アルモ事實ニアラズシテ本春彼ハ東京ニテ寺内首相三浦將軍ニ面晤シ親シク其意見ヲ糺シタルニ兩將軍ハ復辟ヲ実行スルモ干渉セズト言明セラレタリト言ヒ且ツ兩將軍ノ真意ハ復辟ニ賛成ナリトスルモ其ハ國際關係上明確ニ其事ヲ言明セザルノミ決シテ反対ニアラザルコトヲ推知スルコトヲ得タリト断言シ復辟ハ実ニ此機会ヲ逸スベカラズ躊躇セハ意外ノ障碍ニ遭遇セン故ニ速ニ断行ヲ要スト語氣頗ル荒シ彼ハ明日張勳ニ面会シ断行ヲ

シ誤解ヲ懐カシムルハ何レノ途不利益ト認メラルルニ依リ幸ヒ田中次長兩三日中ニ出発ノ筈ニモ有之旁同次長ニ依頼シテ曹陸兩人ノタメ天津ニ於テ張勳ニ対シ然ルヘク弁解セシムルコトニ取計置キタリ御含迄

二九 六月十一日 本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

復辟論ハ成功セザルベキ旨張勳ニ明示スル様

田中參謀次長ト打合ノ上適切措置方訓令ノ件

第四三二号 至急(極秘)

六月十一日章公使本大臣ヲ来訪シ張勳ハ今猶復辟論ニ対スル參謀本部ト外務省ノ意見多少相違セルモノト考ヘ居ル趣内話セル所此際張勳ヲシテ復辟論ニ未練ヲ残サシメ置キテハ北洋派ノ結束上甚タ面白カラザルノミナラス或ハ益々親米派ノ乘スル所トナルナキヲ保シ難キニ付貴官ハ既ニ田中次長ト打合セノ上貴電第七五五号ノ措置ヲ執ラレ又近日貴電第七五八号ノ措置ヲトラルル次第ナルモ今一応同次長ト御協議ノ上此際速ニ適當ノ方法ニヨリ張勳ニ対シ此際復辟論ハ到底成效セサルヘク又此際右様ノ意見ヲ固執スルハ帝國政府ノ同情ヲ得ル所以ニ非ザル旨ヲ直截且ツ適切ニ明示

促シ若シ之ヲ容レザレバ彼ハ青島ニ歸寓スヘク張若シ意見ヲ入ルレバ張ト共ニ上京スル決心ナリト。

參謀次長、陸軍次官、北京公使館附武官、青島參謀長、關東參謀長濟

三一 六月十三日 在天津松平總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

升允ハ復辟ニ対スル張勳ノ変心ヲ憤慨シ且該

運動ヲ悲觀シ居ル件

第一一四号

在支公使ヘ左ノ通 第一〇四号

貴電第七〇号ニ関シ種々ノ都合ニ依リ漸ク六月十三日朝升允ニ面会セシ所同人ハ未タ張勳ト面会シ居ラズ依テ面会セザリシ理由ヲ尋ネタル所升允ハ今回上海出発ノ際書ヲ張ニ送り北上ノ上ハ直ニ黃龍旗ヲ懸シテ復辟ヲ断行スヘキ旨申送りタルガ昨今張ノ態度怪シキニ依リ当地著以来友人ヲ訪問其ノ態度ヲ尋ネタルニ張ハ既ニ変心セルヲ確メタルヲ以テ斯ノ如キ輩ト事ヲ談スルノ要ナキニ付張ニハ面会セズ明日青島ニ歸ルヘキ旨申居リ張ニ対シ頗ル憤慨シ居リタルニ付本官ハ張勳ノ態度ハ必スシモ変節シタルモノトモ認メラ

レズ内外有力者ノ勸告モアリ断行不利ノ事情ヲ知り一時見合セタルモノナルベシト宥メ且貴電ノ趣旨ニ從ヒ復辟尚早ノ旨ヲ適宜申シ聞カセタルモ升允ハ日本政府ハ復辟断行ヲ妨ケザルヘク万一之レカ実行ノ暁外国干涉ノ起ルコトアルモ之レカ排斥ニ尽力シ與ルルモノト信シ居リ此ノ機ヲ逸シテハ完全ナル復辟実行ノ機ナカルヘシト頗ル悲觀シ居リタルカ右ノ次第ニテ彼カ張ヲ説キ落ス如キ懸念ハナキモノト思ハル

外務大臣へ電報セリ

三二 六月十五日

石光天津駐屯軍司令官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

段祺瑞昵近者ニ對シ復辟ノ実行ハ中国ノ四分

五裂ト列強分割ノ禍ヲ招クニ到ル可シト語リ

タル件

天電第二二号

(六月十六日外務省接受)

段ハ復辟問題ニ関シ昵近者ニ左ノ如ク語レリト万一復辟実行セラレンカ支那ハ四分五裂シ遂ニ列強分割ノ禍ヲ招クニ到ルヘシ故ニ復辟ヲ主張スル者アラハ予ハ救國ノ見地ヨリ私情ヲ排シ兵力ヲ以テ争フヲ辞セサルヘシト而シテ其ノ理

回調停ノ為北上ニ際シ徐ヨリ復辟実行ノ不可ナル事情理由ヲ説示セラレタル結果多年ノ宿望遂行方ヲ断念スルノ已ムヲ得サルニ至リタルヨリ心密カニ平カナラサルモノアリ即チ徐ノ復辟ニ反対ナルハ自ラ大總統タル野心アルカ為ナラント邪推シ之ヲ口外シタルコト計ラズモ徐ノ耳ニ入りタルヨリ徐大ニ立腹シ之カ為一旦承諾シタル大元帥ヲモ辞退シ今日ニ於テハ一向煮切ラザル態度ヲ持スルニ至リタル次第ニテ又段ハ爾來復辟ニハ絶對反対ナルカ張ニ對シテ復辟ノ不可ナル所以ヲ説明シタルノミナラズ人ニ向ヒテ復辟ヲ実行セントスルモノアラハ兵力ニ訴ヘテ之レヲ压倒スヘキ旨ヲ語リタルコトアル始末ナル為之レ又張トハ意志疏通セサル状態ナルカ此ノ儘時局ヲ自然ノ成行ニ放任スルニ於テハ到底平定ノ期ヲ予想シ難キ有様ナリ(後略)

三四 六月二十二日

本野外務大臣ヨリ
在長春玉木領事代理宛(電報)

復辟助成ノ結果トナルベキ借款ハ進行セシメ

ザル様訓令ノ件

第二〇号

貴電第一五号ニ関シ本件借款成立スルニ於テハ復辟助成ノ

一 張勳ノ復辟ニ関スル件 三四 三五

由ハ、一、復辟ハ一般民意ニ違ヒ世界ノ趨勢ニ反ス、二、今回ノ拳兵ハ国会、總統府ノ不良人物ヲ驅逐シ共和政治ノ改善ヲ主旨トスルモノナレバ全ク其主旨ニ反ス、三、私情ニ於テ復辟ヲ希望スル督軍アランモ之ヲ実行セハ清室ヲ救ハントシテ却テ殺ス者ナリ、四、督軍中ニハ幼帝ヲ夾ンテ政治ヲ独占セントスル野心家アリト云フニアリ

段ハ尚ホ復辟牽制策トシテ国会解散目的達成セラレタルヲ理由ニ其親戚タル第七師長張敬堯ニ内命ヲ含メ河南直隸奉天ノ各督軍等ヲシテ自ラ独立取消ヲ發議セシムヘク運動シ又河南督軍察哈爾都統等ヲシテ復辟反対意見ヲ發表セシメテ暗ニ張ヲ威嚇シツツアリト

次長、公使館武官、旅順、青島スミ

三三 六月十七日

在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

復辟問題ニ関連シ中国ノ時局收拾ノ期予想シ

難キ狀況ナル旨報告ノ件

第七九〇号

六月十六日曹汝霖來訪目下張勳滯京時局收拾ニ尽力中ナルカ(中略)張勳元來徐ニ推服シ居タル人物ナリシモ偶々今

結果トナリ政府ノ態度ニ疑惑ヲ招クヲ免レザルニ付貴官ハ右趣旨ヲ体シ關係者ヲシテ借款ヲ進行セシメザル様致サレ度尚本件ノ成行ニ付テハ注視ヲ怠ラズ隨時報告セラルヘキハ勿論ナリトス

右為參考 北京、哈爾濱、齊々哈爾ニ転電アリタシ

註

喀喇沁王ガ蒙古各王ヲシテ復辟ニ贊同セシムルニ付テノ資
金差当リ五十万円ヲ日本人ヨリ借入レントスルモノナリ

三五 七月一日

在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張勳復辟実行ヲ決定シ清室ニ上諭宣布ヲ請ヒ

同時ニ大總統ニモ右決定ヲ通報シタル旨謝介

石來談ノ件

第八四三号(至急)

七月一日午前七時謝介石張勳ノ内命ニ依リ佃信夫ト共ニ本使ヲ來訪シ今朝午前四時梁鼎芬、王士珍、江朝宗、李經羲、吳炳湘張勳邸ニ会合シ復辟ヲ実行スルコトニ決定シ直ニ滿洲皇室ニ代表者ヲ派遣シ上諭宣布ヲ請ヒ同時ニ大總統ニモ代表者ヲ以テ復辟決定ノ次第ヲ通報シタル旨ヲ語り尚ホ左ノ通附言セリ

(一)、上論文ハ冒頭ニ光緒皇帝ノ遺詔ニ因リ立憲君主政治ヲ実行スルコトヲ宣明シ惡税ヲ廢止スルコト滿洲親貴ヲ起用セサルコト列國トノ條約ヲ恪守スヘキコト等十一ヶ条ヲ列記シアリ本日中ニ發布ノ筈

(二)、今回ノコトハ予メ北京内外ノ軍隊及警察首腦者ト打合セノ上決行シタル次第ナルヲ以テ北京ノ秩序ヲ紊乱スルカ如キ虞斷シテ之レナク一滴ノ血ヲモ流ササル積リナリ

(三)、黎元洪ニハ十分優遇ヲ与フル積リナルニ付其ノ一身ニ危害ヲ与フルカ如キコト絶対ニ之レナシ

(四)、復辟善後処置ヲ講スルタメ差向キ張勳、馮國璋、陸榮廷ノ三名ヲ御前大臣ニ任命セシムル筈、

(五)、今回ノコトハ頗フル秘密ニ計畫ヲ進メタルモノニテ自分(謝介石)モ只今承知シタル位ナレハ徐世昌段祺瑞其ノ他ノ督軍連ト如何ナル程度迄話合アリタルヤ一切不明ナリ

最後ニ謝ハ張勳ハ何事ニテモ本使ノ指図ニ従フ考ナルニ付万事宜敷願ヒタキ旨張ノ伝言トシテ特ニ申添ヘタリ、以上謝ノ談話ハ如何ナル程度迄事実ナルヤ不明ナルモ不取敢電報ス

天津へ転電セリ

三六 七月一日 在中國林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

黎大總統ハ梁鼎芬等ノ退位及国体変更ノ勸告ヲ拒否シタル旨土肥原ヨリ坂西ニ電話アリタル件

第八四四号 至急

往電第八四二号ニ関シ只今總統府へ青木中將ト同行シタル土肥原ヨリ坂西へ左ノ通電話アリタリ

大總統ハ梁鼎芬等ノ退位及国体変更ノ勸告ニ対シ此際国体変更ノ如キハ世界ノ大勢上実行困難ナリト思ハルルノミナラズ斯クノ如キ重大事件ハ国民全体ノ意向ニ従フヘキモノニテ少数者ノ意見ニテ決定スヘキモノニアラズト考ヘラルルニ付自分ハ絶対ニ承認スル能ハズト答ヘ尚其ノ際王士珍ハ本問題ノ如キハ國際上重大ノ關係アルヲ以テ特ニ慎重ナル措置ヲ要スヘシト云ヘルニ対シ梁ハ其ノ点ハ既ニ梁敦彥ヲシテ各国公使ト打合セ濟ナリト答ヘタルヲ以テ大總統ハ本件ノ如キ予メ各国使臣ト打合セ出来得ヘキ性質ノモノニアラズト考ヘラルル旨弁駁シテ結局不得要領ニ了リタル由

来ザル限り成効先ツ覺束ナカルヘシト思料スル旨答ヘタル由。
天津へ電報セリ

三八 七月一日 在中國林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

復辟ノ成否予斷シ難ク一方ニ偏セズ形勢ノ推移ニ注意シ適宜措置スル方針ナル旨報告ノ件

第八四八号 至急

(七月二日接受)

今回ノ復辟実行ハ余程秘密裡ニ計畫サレタルモノノ如ク現今朝張勳ノ使者トシテ本使ヲ來訪シタル謝介石ノ如キモ今朝迄ハ何等承知セザリシモノノ如シ且佃カ謝ト同道シタルハ過日本使カ佃ニ対シテ目下ノ場合復辟実行不得策ナル所以ヲ張勳ニ勸説方竝徐世昌段祺瑞ト連絡ノ必要ヲ説カシメタルコトアルヨリ張ハ態々佃ヲシテ謝ニ同道セシメタルモノニテ從テ佃モ亦今朝迄何等関知セザリシモノト認ム但陳光遠其他軍憲ノ一部竝警視總監等ハ疾ク張勳トハ氣脈ヲ通シ居タルモノノ如ク現ニ數日來北京ニ於ケル軍隊ノ配置ニ変更アリタルノ事実ヲ始メ今朝張勳ノ兵カ宮中ニ入りタル際衛兵力直ニ門ヲ開キテ之ヲ迎ヘタルカ如キ之ヲ証明シ

ナルカ目下總統府ト外間トノ交通全然遮斷セラレ通信ノ方法ナク從テ刻下ノ狀況各省地方官ニ知レ居ラザルニ付此際尠クトモ馮國璋、陸榮廷、唐繼堯へ右ノ狀況電報方願ハレ間敷ヤト依頼アリタリ云々
天津へ電報セリ

三七 七月一日 在中國林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張勳ノ復辟挙事ハ徐段ト妥協出来ザル限り成
功セザルベキ旨曹汝霖語リタル件

第八四六号

張勳今回ノ挙事ニ就キ徐世昌段祺瑞ト予メ何等打合ノ有無ニ関シ船津ヲシテ曹汝霖ニ尋ネシメタル所曹ハ自分ハ去月二十九日夜天津ヨリ入京シタルカ今朝張勳復辟ヲ断行セントスルノ報ニ接シ事ノ余リ突然ナルニ一驚ヲ喫シタル位ナリ自分ノ承知スル限りニ於テハ張ハ徐段ト何等打合ナカリシコトト信スルノミナラズ近來張ト徐段トハ意志ノ疏通ヲ欠キ殊ニ段ノ如キハ同人是迄ノ言動ニ顧ミ必ス極力張ニ反對スルナラント考ヘラル又倪嗣冲ノ如キモ同様反対スヘシト信セラルル節アルニ付張勳今回ノ挙事ノ徐段トノ妥協出

テ余リアリ將又王士珍カ今朝來張ノ謀議ニ参加シ居ルノ事
 実ニ顧ミ或ハ予テ張ノ密謀ニ加ハリ居タルヤノ疑ナキニア
 ラサルモ段免官ノ際ニ於ケル同人ノ態度ニ顧ミ或ハ再び単
 ニ北京方面ノ警備ヲ以テ其ノ任トスルノ見地ヨリ評議ニ加
 ハリ政体ノ變更ニ関スル根本問題ニ付テハ只管成行觀望ヲ
 以テ主義トナスモノナルヤモ計リ難シ謝介石カ辞令案ヲ暫
 見シタリトテ今朝本使ニ内話シタル処ニ抛レハ張勳、馮國
 璋、陸榮廷ノ三人ハ御前大臣タルヘシトノコトナルニ付馮
 ハ或ハ場合ニ依リ予テ密議ニ参与シ居タルモノナルヘク殊
 ニ過般來滯京セシ馮ノ參謀長カ昨三十日突然南京ニ歸任シ
 タルカ如キハ或ハ此ノ辺ノ消息ヲ語ルモノナルヤモ計リ難
 シ尚謝ノ談ニ抛レハ廣東廣西ノ督軍ヨリ張ニ宛今回地方ノ
 事情上已ムヲ得ス独立ヲ宣言シタルモ素ヨリ本意ニ出テタ
 ルニアラス宜シク此際復辟ヲ断行セラルヘキ旨電報シ來リ
 タリトノコトナリ而シテ茲ニ最重要ニシテ看過スベカラサ
 ルハ北洋系ノ中心トモ云フヘキ徐世昌、段祺瑞ノ一派竝北
 洋系督軍連ノ態度如何ニアル次第ナルカ張勳ハ倪嗣冲、張
 懷芝等ハ元來飽迄段擁護ノ精神ヨリ事ヲ挙ケタルニアラス
 シテ自己ノ地位ヲ維持スルノ見地ヨリ獨立宣言ノ舉ニ出テ

タルモノナルカ故一朝復辟断行ノ上ハ之ニ附隨シ來ルヘシ
 ト見縊リ居リ又徐世昌ニ付テハ張ハ徐ヲ以テ因循吝嗇ニシ
 テ到底大事ヲ共ニスヘカラサルノ人物トナシ全然之ヲ考慮
 ニ入レス將又段ニ付テハ其ノ復辟反対ハ明白ナル次第ナル
 カ故是亦全然今回ノ謀議ヨリ除外シタルモノナリトノコト
 ナリ(徐世昌ハ入京スヘキ報道アリ内密張勳ト打合セノ上
 ナルヤ否不明ナリ)事情右ノ通ニテ今回ノ事全ク張ヲ首腦
 トセル一派ノ秘密計画ニ基ク次第ナルカ北洋派中ノ徐段一
 派カ此ノ儘黙視スヘキヤ否ヤ尚疑ヲ入ルヘキ余地アルノミ
 ナラス殊ニ段ハ予テ復辟ノ民國ハ勿論清室ニモ不利益ナル
 所以ヲ切言シ居レル行懸モアリ此際果シテ如何ノ態度ニ出
 ツヘキヤ注意ヲ要スル次第ナルト張勳ニシテ成効スレハ兎
 ニ角若シ今回ノ舉ニ失敗スルニ於テハ復辟ハ多分再ヒ頭ヲ
 擡クルコト困難ナルニ至ルヘシ要スルニ其ノ成効不成効ハ
 只今ノ処執レトモ断言シ難ク旁本使トシテハ差当リ一方ニ
 偏スルカ如キコトハ之ヲ避ケ深ク形勢ノ推移ニ注意シ適宜
 措置スル方針ニ付右様御含ヲ請フ

三九 七月一日 在中国林公使ヨリ
 本野外務大臣宛(電報)

復辟ノ上論大要報告ノ件

第八四九号 (至急)

(七月三日接受)

復辟ニ関スル上論ハ今一日午後一時發表ノ答ナル由ナルカ
 謝介石ヨリ本使ニ送リ來リタル右上論ノ大要ハ左ノ通り
 国体ヲ共和ニ變更シテヨリ以來紛争止ムトキナク絶エス干
 戈ヲ起シ暗路公行暴斂誅求歲入ハ増シテ四億ニ至ル何ゾ不
 足ヲ憂ヘン然ルニ外債ハ増スアリテ減スルナシ海内囂然生
 ヲ樂シムノ機ナシ朕深ク宮中ニ居リ日夜天ニ祈リ傍徨飲泣
 出ヅル処ヲ知ラズ今ヤ党争兵火ヲ激成シ天下恟々トシテ久
 シク定マルナシ共和解体シ之ヲ救フノ道ナシ張勳、馮國
 璋、陸榮廷等國本動搖シ人心旧ヲ憶フヲ以テ復辟ヲ実行シ
 生靈ヲ救ハンコトヲ奏請シ又瞿鴻機等モ國政危フキニ瀕シ
 人心渙散セルヲ以テ登極政ヲ聽カンコトヲ奏請セリ黎元洪
 又大政ヲ奉還シ以テ中国ヲ恵ミ生民ヲ救ハンコトヲ請フ因
 テ已ムヲ得ズ其奏請ヲ許シ宣統九年五月十三日ヲ以テ朝ニ
 臨ミ政ヲ聽キ大權ヲ回收シテ民ト更始シ今後綱常名教ヲ以
 テ憲法ノ精神トナシ禮儀廉耻ヲ以テ潰決ノ人心ヲ収メ以テ

危急ヲ救フヘシ今光復ノ始ニ方リ改革スヘキモノ大略左ノ
 如シ

- (一)、德宗景皇帝(光緒皇帝)ノ諭旨ニ從ヒ大權ハ之ヲ朝廷
 ニ統ヘ庶政ハ之ヲ輿論ニ諮リ大清帝國ヲ定メ列國ノ君主立
 憲政体ニ則ルヘシ
- (二)、皇室ノ經費ハ從來ノ通毎年四百萬元トシ毫モ増減スル
 ヲ許サス
- (三)、本朝ノ祖制ニ從ヒ親貴ハ政治ニ関与スルヲ得ス
- (四)、滿漢ノ區別ヲ融和シ滿蒙官制ニシテ既ニ裁撤シタルモ
 ノハ一切之ヲ復活スルヲ許サス、
- (五)、宣統九年五月十三日ヨリ以前東西各國ト正式ニ締結シ
 タル條約及借款契約ハ一切引續キ有効ナルヘシ
- (六)、民國施行スル所ノ印紙稅ハ直ニ廢止シ以テ民苦ヲ緩ム
 ヘシ其ノ余雜稅モ各省督撫ニ命シ夫々調査ノ上裁撤スルコ
 トアルヘシ
- (七)、民國ノ刑律ニテ国情ニ適セサルモノハ直ニ廢止シ暫ク
 宣統初年發布ノ現行刑律ヲ以テ標準ト為スヘシ
- (八)、党派ノ惡習ヲ禁除シ政治犯ハ總テ赦免スヘシ
- (九)、我臣民剪髮スルト否トニ論ナク宣統三年九月ノ諭旨ニ

従ヒ悉ク人民ノ勝手タルヘシ
以上九条ハ誓テ共ニ遵守スヘシ云々

四〇 七月一日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

復辟後ノ官制及主要人事ニ関シ曹汝霖内報ノ件

第八五〇号

七月一日曹汝霖ヨリ船津ニ内報スル所ニ拠レハ復辟ニ関スル上論ハ愈々本日発表セラルル筈ニテ大体前清時代ノ官制ヲ復活セシメ恰モ前清ノ軍機処同様ノ最高政治機關ヲ設ケ内閣議政処ト名ツケ内閣議政大臣七名ヲ設ケ張勳其ノ首班ニ列シ北洋大臣ヲ兼ネ馮国璋、陸榮廷等何レモ内閣議政大臣ナル由、而シテ各部尚書中自分(曹)ノ聞知スル所ニテハ外務部尚書ニ梁敦彦陸軍部尚書ニ雷震春度支部尚書ニ張鎮芳等任命セラルル筈ナル由又黎總統ハ一等公爵ニ封セラレヘシトノコトナリ

天津へ電報セリ

四一 七月一日 齋藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

「予ハ元來貴下ニ対シ何等ノ異議ヲ有セズ、唯國家ノ為意見ヲ異ニセル事アルニ過ギス、今ヤ民国ノ危機ニ臨ミ貴下モ亦黙視スルニ忍ビザルモノアラム、希クハ速ニ民国救済ノ為ニ起タレム事ヲ熱望ス、但シ予ノ一身ノ榮枯ノ如キハ元ヨリ問フ処ニアラズ」

四三 七月一日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張勳ノ復辟決行ニ至ル前後事情報告ノ件

第八五六号

(七月三日接受)

船津ヲシテ七月一日梁敦彦ヲ往訪セシメタル処梁ハ只今張勳ノ所ヨリ歸リタル所ナリトテ今回張カ復辟ヲ決行シタル前後ノ事情ニ関シ大要左ノ通内話シタル由

張カ愈々本日復辟ヲ決行スルコトニ関シテハ極メテ秘密ニシテ自分等モ一向聞ク所ナカリシ、張勳ハ昨夜同郷人ノ招待ニ応シ一時過迄江西會館ニ芝居ヲ見物シ居リタルコト故朝來張ノ兵カ紫禁城ニ入ルヲ見テ内外人何レモ一驚ヲ喫シタルハ当然ナリ陸榮廷馮国璋ヲ除ク外各省督軍ト雖愈々本日決行スルコトヲ知ルモノナカリシナラン尤モ先般各省督軍等カ參戰問題ノ不結果ニ終リタル後徐州ニ会合スルヤ

張勳ノ兵紫禁城ニ入り復辟運動ヲ開始シタル件

(七月二日外務省接受)

昨夜來張勳ノ兵約二營紫禁城(宣統帝ノ居城)ニ入り復辟運動ニ着手セリ只今大總統府秘書劉鐘秀ヨリ坂西大佐ヘノ電話ニ依レハ梁鼎芬(宣統帝ノ教師)、江朝宗、王士珍、李慶璋ハ大總統ニ謁見シ國家ノ為大總統ハ退位スヘシト勸告シツツアリ但シ王士珍ハ唯沈黙ヲ守リ梁鼎芬主トシテ勸告シ居レリ

青木中将ハ即刻大總統ヲ往訪スル筈

四二 七月一日 在北京坂西陸軍大佐ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

黎元洪ヨリ段祺瑞ニ伝達方坂西宛依頼ノ内容報告ノ件

極秘電第百拾号

(七月二日接受)

黎元洪ヨリ左ノ件ヲ段祺瑞ニ伝ヘラレ度旨依頼アリシニ依リ之ヲ石光少將ニ伝ヘタリ、
黎元洪ヨリ段祺瑞ニ左ノ件ヲ伝ヘラレ度旨依頼アリ御取計ヲ乞フ

張勳ハ各方面ノ意嚮ヲ充分探知シ主義ニ於テハ彼等カ断シテ復辟ニ反対セサルヘキヲ確信シ徐世昌モ同様ナレハ縱令少数者ノ反対ハ免カレストスルモ意ニ介スルニ足ラストノ見地ヨリ別ニ拳事ニ先チ予メ相談セサリシ次第ナリ殊ニ徐世昌ハ時機尚早論ヲ唱フルノミナラス復辟実行ニ関シテハ種々ノ注文アリテ一々之ニ応スルコト困難ナリシタメ旁拳事前ニ何等打合ヲ為ササリシ由只此際少シク懸念スヘキハ段祺瑞ノ態度ニテ同人ハ民党成立ノ際清室ニ退位ヲ迫リタル關係上勢復辟ニハ反対セサルヲ得サル羽目ニアルヲ以テ彼ハ必ス熱心ニ反対スルナランカ彼ノ実力ノ案外微弱ニシテ左迄恐ルルニ足ラス且彼モ其ノ実力ノ微弱ナルヲ自覺スレハ或ハ積極的反抗ノ態度ニ出テサルヤモ計リ難シ只此上ハ日本ノ好意的援助ニ待ツコト極メテ切ナリ自分ハ明日多分就任執務スルコトナルヘシ高次長過刻病軀劇務ニ堪ヘストノ理由ヲ以テ辞任ヲ申出テタルモ今暫ク留任スヘキ旨勸告シ置ケリ何レ兩三日中ニ林公使ヲ訪問シ万事教ヲ請フ積リナリ尚梁鼎芬カ今回復辟実行ニ先チ外國公使方面ハ自分(梁敦彦)ヨリ打合ヲ了シタル旨大總統ニ説明シタリトノコトナルカ自分ハ最近外國公使館ニ出入シタルコトナク

右ハ全然事実無根ナリ梁鼎芬ハ大總統カ国際ノ關係ニ論及シタル際今後各国ニ対スル各般ノ措置ニ関シテハ梁敦彥ニ於テ万事遺漏ナク進行セシムヘケレハ其ノ辺ハ懸念ニ及ハスト答ヘタル迄ナリ決シテ予メ打合ヲ済マシタリト答ヘタル次第ニアラズ云々

四四 七月一日 齋藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
上原参謀総長宛(電報)

復辟運動ノ勃発ニ関シ詳報ノ件

支極秘二七 (七月四日外務省接受)

復辟運動ノ勃発ニ就テハ今朝支極秘二六ヲ以テ取敢ヘス報告セシ如クナルカ今其詳細ヲ重ネテ報告ス。

本一日午前六時半頃梁鼎芬、王士珍、江朝宗、李慶璋ノ四名大總統ニ謁見シ梁ハ最早復辟ノ已ムヲ得サルヲ説キ大總統ニ承認ヲ求メタルモ大總統ハ今日世界ノ大勢上其実行困難ナルヘク而カモ国体変更ノ如キハ国民ノ多数ニヨリテ決セラルヘキモノニシテ少数者ニ於テ実行スヘキモノニアラス予ハ絶対ニ之レヲ承認スル能ハスト答ヘタリ、尤モ王士珍、江朝宗ハ復辟ハ外交上困難ナル事アルヘシトテ反対ノ意ヲ洩セリ尚梁鼎芬ハ外交上ノコトハ既ニ梁敦

スト述ヘタリ、談話中張勳ヨリ王士珍ニ電話ヲ以テ至急來談ヲ求メ来リシカ王等ノ去ルニ臨ミ大總統ハ次ノ意見ヲ述ヘタリ、

- 一、予ハ国民ノ委託ヲ受ケテ大總統ノ官ニアリ若シ退位スルヲ要セハ位ヲ国民ニ返還スヘク国民若シ復辟ヲ希望セハ予ニ於テ異存ナキモ窃ニ位ヲ宣統帝ニ讓ルカ如キハ断シテ之ヲ為サス、
- 二、外交方針ノコト憂慮ニ堪ヘス他国ハ果シテ帝制ヲ歡迎スルヤ否ヤ、
- 三、北京及地方ノ治安維持セラルルヤ否ヤ氣遣ハシ是カカメ紊乱スルコトナキヤ否ヤ(十一字脱)ヲ示セリ。

四六 七月二日 在奉天赤塚總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張勳ヨリ張作霖宛電報内容報告ノ件

第一五三号

七月一日張勳ヨリ張作霖ノ許ニ達シタル電報訳文左ノ通
曹錕、朱家宝、張作霖、張懷芝、倪嗣冲、王占元、趙倜、田文烈、張敬堯、劉存厚、孟恩遠、許蘭洲、姜熱河都統宛

一 張勳ノ復辟ニ関スル件 四六

彦、各国公使ト交渉シ承認ヲ得居ル筈ナリト云ヒシニ対シ大總統ハ斯ルコトハ事前ニ発表シ得ヘキコトニアラストテ之レヲ信セサリキ目下張勳ノ兵及近畿混成第二旅合計約十二營紫禁城内外ニ配置セラル第十三師第二十五旅(長劉金標)ノ兵入城セントセシモ歩軍統領之レヲ止メタリ。

青木中將ハ午前七時土肥原大尉ヲ隨ヘ大總統ノ許ニ至リ以上ノ情況ヲ聴キ取り談話シ來レリ、目下大總統府ト外部トノ電報連絡ハ断絶ス市中一般無事ナリ。

大總統ハ林公使ヨリ馮国璋唐繼堯陸榮廷ニ右ノ意味ヲ至急伝達センコトヲ青木中將ニ依頼セリ。爾後坂西大佐ノ得タル情報モ本職ノ名前ニテ發電スルコト多カルヘシ、為念。

閩東、天津、上海、青島、中支、台湾スミ

四五 七月二日

齋藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
上原参謀総長宛(電報)

復辟運動ニ対スル黎大總統ノ意見報告ノ件

支極秘電第二九号 (七月四日外務省接受)

本日大總統ノ青木中將ニ語ル所ニ依レハ今朝梁鼎芬王士珍等四人黎大總統ニ謁見ノ後王士珍及ヒ李經羲ハ大總統ニ謁見シ復辟ハ大動乱ヲ惹起スルノ兆アルヲ以テ同意スル能ハ

特別至急電報

今回ノ政争タル思慮ヲ勞シ且ツ徐州會議ニ於テ既ニ定ムル所ナリタルモ形勢ノ推移ニ依リ暫ク收束ヲ計ラサルヲ得ス而シテ外交ヲ慎重ニシ且西南諸省ヲ顧慮スルカ故ニ氣ヲ鎮メテ發スルヲ待チツツアル次第ナルコトハ皆諒トセラルル所ナラム大總統ノ威信ハ既ニ墜チテ之レヲ擁護スルモ其ノ効ナカルヘク選挙モ亦瞬時ニ迫リ競争正ニ盛ンニシテ乱源已マス治平期シ難ク大總統就任ノ如キハ一時ヲ糊塗スルニ止マルモノナレハ各省ニ於テ賛成ナラハ必ス之レヲ取消スナラム曩ニ要求セル所ハ既ニ批准ヲ得タルモ主旨相異リ実行望ミ難ク又他日抵触スル所アリテ他ニ枝節ヲ生セム慮アレハ早ク根本ヨリ解決シ一勞ヲ以テ永遠ノ計ヲナスニ如カサルナリ勳上京後カタミニ各方面ノ人ト接洽シ各既ニ普ク談合成リ各国素ヨリ駁言ナク東隣先ツ其ニ贊助ヲ表ス外交方面既ニ慮ナク西南各省假令稍々異議アリトスルモ亦虚勢ニ過キスシテ又実力ノ言フヘキナク機会ノ良好之レニ過タルナシ茲ニ本日内外紳士ヲ連合シ連署シテ復辟以テ大位ヲ正クセンコトヲ懇願セリ貴名ヲ共ニ書キ連ネテ奏上シ置ケリ右通電スルト共ニ各管下ニ令シ正朔ヲ奉シテ龍旗ヲ掲ケ

一面朝廷ニ殿賀シ一面地方ニ曉諭シ以テ皇礼ヲ盛ニシ民志ヲ定メラレンコトヲ祈ル

北京へ電報セリ

四七 七月二日 本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

中国ノ新政變ニ関シ我方行動ノ不統一ヲ避ク
ル為在中國武官ニ対シ注意方電訓シタル件

第四七三号

貴地今回ノ新政變ニ関シ我方ノ不統一ナル行動ヲ避クル為メ參謀本部ヨリ青木、齋藤、坂西及石光ニ対シ万事貴官ト歩調ヲ合ハセ個々ノ行動ニ臨ラザル様注意スヘキ旨電訓シタル趣ニ付右様御含置相成タシ

四八 七月二日 在奉天赤塚總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張作霖ニ於テ復辟ニ関スル日本政府ノ方針ヲ
承知シ度キ旨申出ノ件

第一五四号

往電第一五三号ノ外曹錕ヨリ復辟ノ賛否ニ付張作霖ノ意見ヲ電報ニテ求メ来リタル由ノ処張ハ之ニ対シ不取敢不賛成

ノ返電ヲ送リタル趣語ルト同時ニ自分ノ意向ハ全然日本ノ方針ニ従ヒ行動スルニアレハ此際日本政府ノ方針ヲ承知シ度キ旨申出テタリ張ハ兼テ復辟論者タルハ既報ノ通りナルモ日本ノ方針ニ反シテ迄所信ヲ貫徹スル決心ナカルヘキニ付此際日本ノ方針ヲ承知シ度キハ無理ナラスト思考スルヲ以テ張ニ対シ如何ナル挨拶ヲナスヘキヤ何分ノ義御電訓ヲ請フ

在支公使へ電報セリ

四九 七月二日 在奉天赤塚總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張作霖復辟ニ関シ其時機ニ非ザル旨並南方派
ノ憤怒ヲ招キ天下復乱ルベキ旨語リタル件

第一五五号

菊池顧問カ七月二日張作霖ニ面会ノ節彼ハ張勳カ前以テ何等ノ相談ナクシテ突然復辟ヲ実行シタルヲ大ニ憤怒シ居リ曹錕、倪嗣冲、張懷芝等ヨリ之ニ対スル自分ノ態度ヲ電問シ来レルニ徴スルモ張勳ハ他ノ督軍連並ニ徐世昌段祺瑞等ニモ予メ相談ナカリシヲ察スルニ足ルト称シ自分ハ復辟論者ナレトモ此際ハ時機ニアラスト思考スルモノニシテ張勳

解ヲ免レシメムトス

註 本電報写ハ七月三日參謀本部ヨリ外務省ニ送付セラレタリ

五一 七月二日 在天津松平總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

時局ニ関スル段祺瑞談話報告ノ件

第一四一号

(七月四日接受)

七月二日段祺瑞ヲ訪問シ時局ニ関シ談話セルカ本官ノ問ニ対シ段ノ為シタル話ノ要領左ノ通り、

張勳今回ノ挙ハ何等自分等ニ相談スルコトナク国内ノ状態及外交ヲ無視シ全ク自分一己ノ考ヲ以テ突然断行シタルモノナリ過般当地ニテ張ト会見ノ際復辟実行ノ時機ニアラサル旨ヲ説キタルニ張ハ之ヲ承諾シナカラ今回突如断行シタルコトハ甚タ当ヲ得サルコトナリ徐世昌ニモ今朝面会シタルカ徐モ張ノ処置ニハ反対シ居リ張勳ヨリ使ヲ以テ再三上京ヲ促シ居ルモ徐ハ之ニ応セス此際若シ或一人カ一タヒ反对ヲ叫ヘハ全国必ス之ニ応シテ蹶起スヘク如何ニ張勳ナリトテ全国ノ反对ニハ對抗スルコト能ハサルハ明カニシテ而カモ其時機タルヤ極メテ急速ナルヘシトテ暗ニ時局ノ切迫セルヲ示シ尚ホ反对実行ノ手段ニ関シテハ茲ニ明言シ難シ

五〇 七月二日 在北京坂西陸軍大佐ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

黎元洪ノ各省宛通電内容ノ件

本日黎元洪ヨリ左ノ如キ電報ヲナルヘク広ク各省ニ知ラシムヘキ様尽力方依頼アリタルニ依リ公使ト相談ノ上、上海、漢口、天津、旅順、奉天、台北へ電報セリ

「天未タ乱ヲ嫌ハスシテ復辟ヲ実行セシム、聞ク本日清室ノ上諭ニ黎元洪国政ヲ奉還スル等ノ言アリト驚愕至極ナリ、惟フニ中華国体カ帝政ヨリ共和トナリシハ五族人民ノ行為ニ基クモノナリ、元洪国民ノ委託ヲ受ケ重任ニ当ル以上、民国ト終始スルノ外其ノ他ヲ知ラス、特ニ電報シテ誤

トテ武力ニ訴フル口吻ヲ洩ラシ本官カ近来独逸ト張勳ト密接ノ關係アル噂ヲ耳ニスルモ事實ナルヤト尋ネタル処右ハ事實ニシテ独逸公使ガ過般帰国ノ際徐州ニ泊シテ一通ノ書類ヲ張ニ渡シタルカ一ハ武器ノ供給他ハ資金ノ供給ニ関スルモノニシテ独逸ハ極力支那ヲ反乱状態ニ陥レンコトヲ目的トシ居ルモノノ如ク自分カ總理ノ地位ニ居リタルトキモ独逸ハ莫大ノ金ヲ用ヒテ国会議員竝ニ当路者ノ買収ヲ試ミ現ニ自分ニ対シテモ人ヲ遣ハシテ執拗ニ忌ハシキ話ヲ持掛ケ来リタルモ自分ハ之ヲ拒絶シ其モノノ出入ヲ禁シタルコトアリ斯カル形勢ナリシヲ以テ自分ハ一氣呵成ニ參戰ヲ実行セント試ミタルモ不幸ニシテ失敗ニ帰シタリト語リタリ右段ノ話ニ依レハ北洋系ニ於テ武力ヲ以テ張勳ヲ倒サントスル計畫ハ事實ナルノミナラス張勳今回ノ起事ニ由リ北洋系ハ更ニ舉事ノ名義ヲ得タル事トナリ時機ヲ早メテ速カニ反抗運動ヲ開始セントシツアルモノノ如シ、公使、南京、濟南、奉天へ電報セリ

五二 七月二日 在天津松平總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

天津地方諸官衙商店等黃龍旗ヲ掲揚シタル件

五四 七月三日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

梁敦彥新政府樹立ニ付日本ノ援助ヲ請ヒタル件

第八六五号

七月二日梁敦彥新任ノ挨拶旁來訪新政府樹立ニ就テハ何分トモ日本ノ援助ヲ請ヒ度且ツ新政府承認方ニ関シテハ好意の考慮ヲ望ム旨申出テタルニ付之ニ対シ本使ハ自分ヲシテ遠慮ナク謂ハシムレハ此際徐世昌及ヒ段祺瑞ノ態度ヲ輕視スルカ如キコト有之ニ於テハ必スヤ後累ヲ貽サント陳ヘタル処梁ハ早速其意ヲ張勳ニ伝フヘキモ徐ハ元來復辟説ノ人物ニテ又段ト雖モ兵力ニ訴ヘテ迄復辟妨害ノ拳ニ出ツヘシトモ思考セラレサル旨ヲ語り極メテ樂觀的口吻ヲ洩ラシ居タリ本使ハ尚本日ノ公使會議ノ決議ノ次第ヲ語りタル処梁ハ黎ノ身上ニ危害ノ及フカ如キコトハ断シテ無之モ是又為念張勳ニ其趣伝フヘキ旨ヲ答ヘタリ、

五五 七月三日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

黎元洪日本公使館武官官舎ニ來リ身元保護依

第一四二号 (七月四日接受)

七月二日ヨリ当地省長公署警察庁其ノ他諸官衙学校等ハ黃龍旗ヲ掲載シ尚市内数多ノ商店ニ於テモ同様黃龍旗ヲ掲ケタリ目下ノ所市中平穩ニシテ何等ノ異状ナシ北京へ電報セリ

五三 七月二日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

黎元洪王士珍ニ宮中立退ヲ勸告サレ青木中将

二意見ヲ求メタル件

第八六九号 (七月四日接受)

昨一日夜王士珍ヨリ黎元洪ニ宮中ヲ立退キ他ニ転居方ヲ勸告シタル結果黎ハ昨夜青木中将(同中将ハ黎ノ希望ニ依リ昨日來宮中ニ宿泊中)ニ転居ノ可否ヲ協議シタル趣ニテ二日同中将來訪本使ノ意見ヲ尋ネタルニ付何レノ途張勳側ヨリ立退キヲ要求セラルル節ハ之ニ応スルヨリ致方ナキ次第ナルカ故穩便ニ転居スル方然ルヘク又一身上ノ安全ニ関シテハ本使ヨリモ張勳側ニ適當申入レ差支ナキ旨答ヘ置キタリ

頼ニ付我方ノ措置報告ノ件

第八六七号 (至急)

黎元洪ハ侍衛武官陸軍少将唐仲寅秘書劉鐘秀従者一名ヲ從ヘ七月二日午後九時半突然当公使館内齋藤少将ノ官舎ニ來リ一身ノ保護ヲ依頼セルニ付事情已ムヲ得サル次第ト認メ何分ノ御訓令ニ接スル迄駐屯軍營舎内ニ收容シ置クコトニ決定セリ

黎元洪カ斯克突然脱走スルニ至リタル動機如何ハ最重要ナル事柄ト認メ齋藤少将ヲシテ篤ト黎ニ尋ネシメタルニ其語ル所ニ拠レハ本日教育部參事曹寿堃天津ヨリ上京黎ニ内謁シ梁啓超湯化竜等段祺瑞ト連日密議ヲ重ネ其結果倪嗣冲及馮国璋近ク徐州ヲ襲フコトニ決定シタルコトヲ内話シタルタメ該計画効ヲ奏スル迄ノ間中華民國ノ元首トシテ一身ノ安全ヲ保持シタシト云フニアルモ举措頗ル平靜ヲ欠キ頻リニ妻子ノ身上ヲ憂慮シ居ルニ顧ミ右説明以外主トシテ一身ノ安全ヲ計ランカタメ窮余脱走シタルモノト認メラル

尚脱走ノ道行ヲ聞クニ黎ハ參謀次長蔣作賓ト共ニ予テ用意シ置キタル自動車ニテ竊ニ總統府裏門ヨリ出テ唐少将劉秘書及従者ハ 門(表門)ヨリ總統府ノ自動車ニテ当公使

館正門ニ来リ蔣次長ノミハ齋藤少将ニ面会セズシテ直ニ立
歸リタル由ナリ將又黎ノ当公使館ニ逃込ミタルコトハ早晚
世上ニ知レ渡ルルニ相違ナキニ付我方ヨリ進シテ発表シ世上
ノ疑惑ヲ積クコト必要ト認メ今夜直ニ張勳ニ向ツテ其事實
有ノ儘ヲ通報シ(蔣作賓同行ノ事實及覃參事ノ黎ニ語りタ
ル事柄ハ之ヲ秘スル積リ)本使ニ於テ黎ヲ収容スルニ至リ
タルハ國際ノ通義ニ顧ミ已ムヲ得サルニ出テタル次第ニテ
毫末モ政事上ノ關係ナキコトヲ明瞭ナラシメ尚明朝列國使
臣ニ向ツテ同様説明ヲ為シ同時ニ新聞等ニモ適當ナル報道
ヲ与フル積リナリ
在支各領事ニモ可然電報スヘシ

五六 七月三日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

梁外務部尚書ヨリ復辟ニ関スル上諭ヲ日本政
府ニ轉達方照会アリタル件

第八七〇号 (七月五日接受)

宣統九年五月十四日(七月二日)附公文ヲ以テ外務部尚書
梁敦彥ヨリ復辟ニ関スル五月十三日ノ上諭ヲ本使ニ通報シ
帝國政府ニ轉達方照会シ来リ同時ニ上諭ニ依リ内閣議政大

臣及外務部尚書ニ任セラレ五月十四日就任執務セル旨ヲモ
照会シ来レリ右二通ノ照会ニ對シテハ本使ヨリ何等回答ヲ
發セズ

五七 七月三日 在上海有吉總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

孫文及南方派ニ於テ日本政府力張勳ヲ後援セ
ル旨難詰並復辟ニ對スル態度談話ノ件

第一四六号

昨日孫文ニ面会セル処彼ハ劈頭非常ノ權幕ニテ我政府カ
張勳ヲ後援シ甚シキハ武器迄供給セル旨ノ内報ニ接セリト
云ヒ其ノ不条理ナルヲ難詰セルニ付本官ハ右様ノ事實ノ有
リ得ベカラザルヲ縷々説得シ彼ノ意稍々積ケタルモノト認
メラレタルニ付徐々ニ何方ヨリ此種報道ヲ得タルヤヲ糺シ
タル処東京及北京ノ一知人ヨリノ消息ナリトシ東京ヨリセ
ルモノハ現内閣与党ノ一人ナリト云ヒ十数日前ヨリ復辟ノ
實現ヲ飛報シ来リ居リ北京ノ分ハ信スベキ自己ノ友人ヨリ
セルモノナリト為シ居レルニ付我邦在野ノ士乃至當國ニ在
ル浪人等カ時々要路ニ關係アルモノノ如ク吹聴シテ為ニス
ル所アラントスルモノノ勘カラズ往々誤解ノ原因ヲ作ルノ例

アルヲ指摘シ彼モ或程度迄之ヲ諒解シ居タリ彼ハ進シテ今
回ハ何レニシテモ軍閥掃蕩ノ覚悟ナリシ際復辟ノ實現ハ吾
人ニ有利ナル立場ヲ与ヘタルモノニシテ寧ロ至幸トスヘク
軍閥ノ勢ヒ今ヤ盛シナルカ如キモ、風潮ニシテ一度方向ヲ
變ゼンカ形勢立ドコロニ地ヲ代フヘク要ハ事ヲ挙クル當初
ニ於テ最モ困難ヲ感スル次第ニ付切ニ日本ノ援助ヲ請ハザ
ルヲ得ズト云ヒ政府ニシテ援助シ能ハズバ民間ヨリニテモ
可ナリトシ不幸日本ニ得ル所ナクバ米、独何方ヨリニテモ
其ノ後援ヲ請ハザルヲ得ズトセルニ付本官ハ世上ノ風説ヲ
指摘シテ独逸側ヨリ資金ヲ仰ギタルノ実否ヲ質シタル所彼
ハ平ラタク若シ出来得ベクバ独逸ノ資金トテモ亦歡迎スル
所ニシテ多少此方面ニモ運動ヲ試ミタルモ今ニ於テ成効ニ
至ラズト云ヒ此際米國側ヨリナラバ或ハ資金ヲ得ラルヘキ
モノニ對スル日本朝野ノ思惑ヲモ慮カリ居レリ但シ支那人
側ヨリモ二三百万元ハ醸出シ得ヘシト為シ更ニ其ノ計画ト

シテハ先ツ海軍ヲ主トスルノ口吻ヲ漏シ資金出来次第直ニ
出発上海ヨリ広東沿岸ノ各港等ニ向フ管ナリトテ暗ニ軍艦
搭乗ノ意ヲ述ヘ唐紹儀トハ依然十分ノ打合セアルモ昨日ノ
會議ニ於テ岑春煊ハ中立ノ態度ニ出ツヘキ旨突然申出ヲ為

セリ即チ今次復辟ハ純共和派ト官僚ノ區別ヲ分明ナラシメ
タルモノ岑ノミナラス陸榮廷馮國璋モ疑ハシク斯ノ如クシ
テ今次ノ拳事ノ第一革命乃至袁帝政反對ノ場合ヨリモ困難
ナルコトハ之ヲ承知シ居ルモ而カモ尚ホ國民ノ同情我ニア
ル以上最後ノ勝利ヲ信シ居レリトシ繰返シ我方ノ援助ヲ請
ヒ居レルニ付本官ハ政府從來ノ方針ヲ述ヘテ程好ク應對シ
置ケリ

林出ヲシテ唐紹儀孫洪伊ヲ訪問セシメタル処彼等ハ又何レ
モ我政府筋力張勳ニ援助シ居ルモノト確信セルモノノ如ク
唐紹儀ハ猜疑ノ眼ヲ以テ荐リニ我方ノ態度ヲ確メ若シ右ノ
如キ報道ニシテ事實ナルニ於テハ兩國ノ將來ノ為極メテ悲
ムヘキコトナリト云ヒ勃興シ来レル支那ノ新氣運ニ乗セス
央衰退ニ附セル滿廷遺物ノ表面ノ空氣勢ニ眩惑サルルカ如
キハ將來國民ノ反感ヲ贖フ所以ナルヘシトシ孫洪伊ハ一層
激越ニ我方ノ態度ヲヤジリ唐略ホ同様ニ復辟側ノ認ムヘ
キ基礎ナキヲ云為シ張勳等二三子ノ畢竟遂ニ為スナキヲ縷
述シ之ヲ助ケテ新氣運ニ逆フノ兩國國交ノ根柢ニ害アルヲ
説キ居タル由ニテ林出ハ右等ニ對シ我政府不偏不党ノ方針
ヲ拳ケテ一応ノ弁明ヲ試ミ置ケリトノコトニテ今後彼等ノ

方針ニ付テハ唐紹儀ハ共和擁護ニ極力努力スルノ決心ナル旨及海軍カ当初ヨリ其ノ味方タルヲ説キタル外余リ打明ケサル態度ナリシ趣ニテ孫洪伊ハ寧ロ樂觀ヲ持シ北京方面ニテハ既ニ陳光遠等ニ檄シテ兵ヲ動かサシメントシツアル旨及陸榮廷馮國璋ニシテ尚ホ態度ヲ曖昧ニスルニ於テハ之ヲ処分スルノ方案亦定マリ居リ浙江ノ楊善徳ノ如キ殆ン下組上ノ魚ナリト云ヒ彼モ亦海軍ハ其ノ与党ナリト打算シ暮月ナラスシテ彼等軍閥ヲ一網打尽シ得ヘシト大言シ居タル趣ナリ

今朝岑春煊ニ面会セル処彼ハ督軍等カ勝手ニ行動ヲナシツツアル間ハ之ニ反対セシモ今ヤ復辟ノ実現ヲ見ルニ至レル以上若シ之カ正当ノ手段ニテ行ハレ能ク国家ヲ統御シ得ルニ於テハ又甚タ不可トセス依テ姑ラク觀望ノ態度ヲ執ルヲ最善ト信シ昨日公然孫文等ニ対シテ北方ニ味方セス又南方ニ与セサル旨斷言シ置キタル次第ニシテ十数日ヲ経過セハ終始ノ顛末モ明白トナルヘク同時ニ復辟ヲ以テ全国ノ望ヲ繫キ得ルヤ否ヤヲ知り得ヘク貴國ノ態度モ其上ニテ決定ヲ願ハシキ旨申居リ其口吻寧ロ復辟ヲ歡迎シ居レルモノト認メラレ我方カ張勳ヲ後援シ居レリ等ノ説ハ孫文等ヨリ聞込

サルカ如ク商務總會朱總理ノ如キ之ヲ公言シ居リ只タ滿廷ノ復活ハ多少之ヲ遺憾トスル言ヲ洩ラシ居ルニ止マルモ諸新聞ノ論調ハ直間接追々之ヲ支配スヘク之ヲ綜合シテ革命ノ根拠地タル当地方ニ於テハ復辟ハ寧ロ甚タ不人氣ト認メラレ馮國璋以下官憲及ヒ在野有力者間意嚮ノ一致ニ依リ地方的ノ擾乱ハ之ヲ避ケ得ルトスルモ復辟ノ將來ハ從テ甚タ樂觀ヲ許ササルモノアリト認メラル

五八 七月三日

在天津松平總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)張勳復辟実行ニ対スル京津タイムズ紙社説報
告ノ件

第一五〇号

当地英人機關新聞タル P. T. Times ハ七月二日及三日ノ社説ニ於テ張勳復辟実行ヲ激烈ニ攻撃シ二日ノ紙上ニ於テハ若シ張勳ニシテ清朝ノ為メ豚尾兵ヲ以テ支那ヲ征服セント試ムルニ於テハ外国干涉ノ起ルハ必然ニシテ条約國ハ張勳個人ノ野心ヲ満スタメニ支那ヲ永ク内乱状態ニ置クコトヲ許スヘカラスト云ヒ三日ノ紙上ニ於テハ更ニ詳細張勳ノ行

ミタルコトアルモ右ハ公使カ張勳ヲ欲待セラレタル事實等ヲ根拠トセル彼等ノ臆測ニ出テタルニ過キストシ馮國璋ノ態度ニ付テハ南京ニ急派セル使者ノ齎ラセル回答ニテハ尚ホ未定ナリトノ事ナリト謂ヒ要スルニ復辟ノ成否ハ二三週間ノ時日ヲ待タサレハ判明シ難ク目下偏ニ希フ処ハ皇帝左右ノ臣カ能ク人民ノ希望ヲ繫キ得テ今次ノ挙カ却テ清朝覆滅ノ因タラサランコト之ナリトナシ居レリ

以上ノ如ク民党側有力者間ニ我方カ張勳ニ援助ヲ与ヘツツアリトノ誤解アルハ將來ノ為メ甚タ面白カラサルモノト認メラレ之ニ対シテハ何レモ相当弁明ヲ与ヘ居リ尚ホ孫文ヲ始メ若シ北京ヲ脱出シ南下シ得ハ之ヲ擁シテ復辟ニ對抗セント希望シツツアル黎元洪カ我公使館ニ保護セラレ居ル等ノ事實追々彼等ノ耳ニ達セハ多少諒解スルニ至ルヘキカトモ考ヘラル要スルニ岑春煊等尚ホ清朝ノ恩ヲ感シ居ルモノヲ除ク外何レモ益々決心ノ膽ヲ固メタルモノト認メラレ革命後數年間ニ勃興セル新氣運ハ到底之ヲ圧迫シ去ル能ハサルヘク加フルニ馮國璋楊善徳盧永祥薩鎮冰等カ差当リ復辟ニ反対ナルニ於テハ益々之カ氣勢ヲ加フルニ至ルヘク一般人民ハ偏ニ平和ヲ望ミ政体ノ如何ノ如キ敢テ問フ処ニアラ

動ヲ攻撃シ大總統、副總統、陸榮廷等ノ提出セリト称スル復辟ノ建議等ハ全然詐欺ニシテ内外人共斯ノ如キ瞞着手段ニ欺ムカルモノナク目下北京天津等ニ於テ比較的平穩ナルハ復辟ヲ承認シタルニアラスシテ唯タ啞然タルニ過キス必スヤ數日内ニ暴風一陣張勳ハ孤立スルニ至ルヘシト云ヒ段祺瑞カ副總統、山東奉天等ノ督軍連及ヒ倪嗣冲等ヨリ既ニ援助ノ保証ヲ得タルコトヲ記シ徐世昌、梁啓超、湯化竜等ノ反対ヲ掲ケ清朝復辟ハ一ヶ月継続スルコト能ハサルヘシト云ヒ尚ホ支那人間ニハ張勳カ独逸人ニ唆カサレ財政上ノ援助ヲ受ケ居レリトノ噂アルカ右ハアリ得ヘキコトナリト云ヒ「ハンネツケン」「コルベス」等ノ活動ヲ述ヘ今回張勳ノ拳ニ最モ関係シタル數人ノ徒カ「ヒンツエ」ト親交アルコトヲ記シ愈々支那全国カ復辟ニ反対ナルコト明カトナリタル場合ニハ聯合諸國ハ一步ヲ進メテ措置ヲ講スルコトヲ疑ハス北京及ヒ北京海岸間鉄道沿線ニ於テ戰鬪ノ起ラン当ニシテ聯合諸國ハ茫然トシテ尚ホ独逸化スルコトヲ傍觀スルコト能ハズ速ニ張勳ニ之ヲ警告スルニ於テハ血ヲ見ルコトヲ防キ得ヘシト結ヒ居レリ

五九 七月三日 石光天津駐屯軍司令官ヨリ
上原参謀総長宛(電報)

黎元洪ヨリ坂西大佐ニ副總統各省督軍省長新
聞社等宛通電方依頼アリタル件

天電第五〇号 (七月五日外務省接受)

坂西大佐ハ黎元洪ヨリ適當ノ方法ヲ以テ左ノ電文ヲ副總統、各省督軍、省長、省議會、広東陸榮廷、各都統、各護軍使、竜濟光、海軍總司令等及新聞社等ニ通電スル様頼マレタリ又大佐ヨリ本職ニ転電ヲ依頼シ来レリ右ハ既ニ林公使ノ承認ヲ受ケタリトノ事ナルヲ以テ本職ハ取り敢ス当地ニ在ル藍天蔚ニ右通電方ヲ交渉セリ然レトモ当地官憲ハ復辟賛成ナルヲ以テ右通電ノ送達ヲ期シ難ク恐ラク不成功ト信セラルルニ依リ更ニ上海松井中佐ニ電報シ上海ヨリ通電方尽力アリタシ

通電案「天未タ乱ヲ厭ハスシテ復辟ヲ実行セシム本日清室ノ上諭ニ黎元洪國政ヲ奉還スル等ノ言アリト恐縮至極ナリ惟フニ中華國体ハ帝制ヨリ共和トナリシハ五族人民ノ公意ニ基クモノナリ元洪ハ國民ニ附託ヲ受ケ重任ニ当ル以上民國ト終始スルノ外他ヲ知ラス特ニ電報シテ誤解ヲ免レント

六一 七月四日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

黎元洪大總統官印及其位ヲ副總統ニ讓リタキ
旨ノ文書ヲ南京ニ携帶セシメタル趣ヲ芳沢ニ
談話ノ件

第八七一号

黎元洪ハ七月三日芳沢ニ対シ今朝大總統官印保管人該官印ヲ持參シタルニ付早速窃ニ人ヲシテ右官印ノ外大總統ノ位ヲ副總統ニ讓リタキ旨ヲ記述シタル文書ヲ携帶セシメ南京ニ向ケ派遣シタル旨語リタルニ付芳沢ハ之ニ対シ目下段祺瑞ヲ中心トセル北洋系督軍竝南方民党ノ氣勢頗ル揚リ張勳ノ前途モ稍ヤ悲觀スヘキ時ニ際シ大總統讓位ノ決心ハ頗ル早計ノ嫌アル旨陳ヘタル処黎ハ自分ハ現在身ヲ外國公使館ニ寄セ國政統轄ノ責任ヲ尽ス能ハザルト且ツ健康上ノ理由竝從來ノ行懸リ上巳ムヲ得ザルニ出デタル措置ナル旨ヲ弁明シタル処傍ニ在リタル總統秘書ハ右黎ノ弁明ニ対シ大總統ハ副總統ニ讓位ノ使者ヲ発セラレタルモ副總統ハ果シテ之ヲ引受けラルルヤ不明ナルノミナラス使者自身本件ノ如キ悲ムヘキ使命ヲ正直ニ執行スヘキヤ大ニ疑ヒナキ能ハザ

ス

六〇 七月四日

本野外務大臣ヨリ
在中国林公使
在中国各領事(香港英分館)各宛(電報)
主任ヲ含ム
関東都督

張勳ノ復辟計画及之ニ伴フ中国ノ政変ニ対ス
ル日本政府ノ態度ニ付電訓ノ件

今回張勳ノ企テタル復辟計画竝之ニ伴フ支那ノ政変ハ今後如何ノ發展ヲ見ル可キヤ今日ニ於テ逆睹シ難キモノアルニ當リ帝國政府ノ態度ヲ明確ニシ為ニ将来ノ行動ヲ羈束スルノ結果ヲ来スコトハ不得策ト認メラルルニ付苟モ我重要ナル利益ノ侵犯セラレザル限り依然従前ノ方針ヲ繼續シ支那政界ノ各方面ニ対シ蔽ニ不偏不党ノ態度ヲ持シ暫ク時局ノ推移ヲ監視シ其發展ニ応シ臨機ノ措置ヲ執ルコトニ廟議決定シタリ、尚右ニ関シ參謀次長ヨリモ在支各陸軍官憲ニ対シ帝國ハ依然公正不偏ノ態度ヲ保持シ暫ク形勢ノ推移ヲ觀望セムトスルニ付蔽ニ此主旨ヲ体シ一切從來ノ行掛リ感情等ヲ抛チ慎重ニ行動スヘク又右ノ意味ニテ所在外交官憲ト打合セテ遂ケ一致ノ行動ヲ取ルコトニ注意スヘキ旨電訓シタリ

ル旨附言シタル由

尚黎ハ芳沢ニ対シ段祺瑞ハ先般自分ニ張勳ニシテ入京セバ復辟ヲ実行スヘキ旨申出デタルニ付自分ハ二三百ノ手兵ヲ率ヒタリトテ復辟ヲ実行スヘシトハ思考セラレザルモ万一張勳ニシテ復辟ヲ実行スルカ如キコトアランカ段ハ宜シク兵ヲ挙ケテ之ヲ討伐スヘク自分ハ後日ニ至リ之ヲ追認スヘキ旨申渡置キタル旨語リタル由以上ハ黎ノ談話ナルガ天津上海等ヨリノ電報ニテ御承知相成ヘキ通段祺瑞馮國璋ハ相結託シテ愈々張勳討伐ニ決定シタルモノ、如ク本日曹汝霖カ坂西ニ内話シタル所モ亦之ヲ確認スル次第ニ付右ノ情報ハ大体ニ於テ誤ナキモノト察ス本使ハ予テ斯ノ如キ形勢ニ至ラムコトヲ慮リ張勳側ニ対シテハ累次間接ニ適當ノ忠告ヲ与ヘ置キタルニ拘ハラズ張勳側ニ於テハ今日ニ至ルモ尚樂觀的態度ヲ持シ形勢ノ日ニ不可ナルヲ察知セザルモノ、如シ尚段ノ挙事ニ付テハ自然資金ヲ要スルコトモ之アルヘク右ノ如キ場合ニハ差支ナキ名義ニ於テ適當ノ金額ヲ貸付ケラル、コト或ハ必要ナランカト思考セラル、ニ付予メ此辺然ルヘク御詮議相成様致シ度シ黎ハ都合ニ依リ今夜ヨリ本使官舎ニ収容ノ答

六二 七月四日 在奉天赤塚總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張作霖菊池中佐ニ復辟実行ニ対スル日本側ノ
意向ヲ尋ネタル件

第一五七号

七月三日菊池中佐ニ対シ張作霖ノ語ル所ニ依レハ段祺瑞ト馮国璋トノ間ニハ最近十分ナル結合出来民党側モ亦諸事段ト打合ヲ為シ居リ目下南北融和ノ状態ニアリ不日馮国璋ハ江蘇、浙江ノ兵ヲ、倪嗣冲ハ安徽ノ兵ヲ、張懷芝ハ山東ノ兵ヲ率ヒテ徐州ニ迫ルヘク又馬廠ノ兵ヨリハ段祺瑞ノ許ニ使者ヲ派シ之ト生死ヲ共ニスヘキ旨誓言シ来リタルニ依リ段ハ愈々天津ヲ出テ馬廠ニ向ヒタル次第ニテ其兵ハ專ラ津浦線ヲ扼シテ張勳ノ帰徐ヲ喰シメントスルモノナリ而シテ張勳モ今ヤ窮地ニ陥リタルモノト見ヘ曹錕、倪嗣冲、張懷芝、趙倜及自分ニ対シ其来京ヲ求メ来リタルモ何人モ之ニ応スルモノナク各督軍ハ目下盛ニ電報ヲ往復シテ專ラ結束ヲ図リツツアリ、自分トシテハ場合ニ依リテハ出兵スル心底ナレドモ曩ニ張勳復辟実行ヲ通知ノ電報中東隣最モ贊成ストノ文句モアリ日本ノ意向モ懸念セラレ且ツ馮德麟カ張勳

北京、南京、濟南、奉天へ電報セリ

六四 七月四日 在南京高尾領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張勳復辟断行ニ対スル馮副總統ノ意向報告ノ
件

第八八号

七月三日北京坂西大佐ヨリ黎大總統ノ依頼トシテ今朝張勳兵ヲ率ヒ城ニ入り突然復辟ヲ行ヒ交通ヲ断絶シ梁鼎芬等ヲ總統府ニ遣ハシ遊説ス本大總統ハ辞ヲ敵ニシテ之ヲ拒絕シ誓テ承認セス專ラ共和ヲ擁護ス必スヤ善後ノ策アルヘシトノ旨副總統ヲ初メ各省督軍、省長其他へ電報アリタキ旨多賀へ電報アリタル処各省督軍等へ多賀ヨリ転電スルコトハ面白カラス副總統ヲシテ之ヲナサシムヘキコト然ルヘシト存シ多賀ニ於テ早速右様取計タリ其節副總統ハ多賀ニ対シ、

(一)復辟ニハ絶対反対ニシテ飽迄共和ヲ擁護スル決心ナリ之カ為ニハ各省督軍ヲ率ヒテ復辟破壊ニ努力スヘシ

(二)政府ハ一日モナカル可カラス自分ハ姑ク大總統ニ代リテ南京ニ在リテ内政ヲ処理シ外交ニ関シテハ北京ニ機関ヲ設

ノ味方タル關係モアレハ未タ其態度ヲ明カニスルヲ得サル次第ナリ就テハ此際一刻モ速カニ日本政府ノ御真意ヲ承リタシ云々
公使、天津ニ電報セリ

六三 七月四日 在天津松平總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張勳ノ復辟断行ヲ攻撃セル段祺瑞ノ檄文大要
報告ノ件

第一五二号

七月三日夜段祺瑞ハ討伐軍總司令ノ名ヲ以テ長文ノ檄文ヲ發表セルカ其ノ大要ハ張勳カ幼帝ヲ挾ンテ復辟ヲ断行シタルヲ攻撃シ其ノ処為タルヤ国民ノ公敵ニシテ前清ノ大罪人ナリト喝破シ共和ヨリ帝政ニ帰リ成効シタルモノ未タ世上ニ其例ヲ見ストテ仏蘭西カ三度帝政ヲ繰返シテ三回ノ革命ヲ見千八百七十一年ニ至リ遂ニ共和確立シタルノ先例ヲ拳ケ自カラ護国ノタメ率先シテ兵ヲ拳ケ国民ノタメニ此ノ賊ヲ平ケンコトヲ誓テ同志ノ蹶起ヲ促シ尚前清皇室ハ今回ノ事変ニ与リ居ラス又左右ノ臣モ大義ニ明カナルヲ以テ皇室優待条件ハ永ク之レヲ維持シテ変ルコトナシ云々

クルコトトスヘシ

(三)共和擁護ノ宣言ヲ發表シ内外ニ向ツテ自分ノ立場ヲ明カニスヘシトノ意ヲ明言セル趣ナリ

在支公使及天津、濟南、上海各領事へ電報セリ

六五 七月四日 在中國林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

黎元洪ノ日本公使館滞留中何等政治的行動ニ
出ツルコトナキ様忠告方蔡廷幹ニ依頼シタル
件

第八七七号

七月四日蔡廷幹黎元洪訪問旁々來訪シタルニ付本使ハ蔡ニ対シ黎ノ当館滞留中何等政事的行動ニ出ツルコトナキ様念ノタメ忠告方並ニ黎ヲシテ政事上ノ活動ヲ断念セシムルノ見地ヨリ張勳ノ復辟成功ノ咄ニハ大總統ノ地位ノ消滅スヘキコト勿論ナルカ張ノ復辟不成功ノ場合乃チ民党側並ニ段ヲ中心トスル北洋系ノ張討伐ニ成功スル場合ニ於テモ多分段ノ勢力大ニ加ハルコトナリ其ノ結果黎ハ最早ヤ從來ノ地位ヲ維持スルコト能ハサルニ至ルヘク結局何レノ途黎ハ政事上ノ将来ヲ有セサルモノト認メラルルニ付政事上ノ活

動ハ之レヲ断念スル方得策ナルヘキ旨婉曲ニ黎ニ説明方依頼シタル所蔡ハ之レヲ快諾シタル後右依頼ノ通然ルヘク取計ヒタル由

六六 七月四日 在天津松平總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

段祺瑞兵ヲ北倉ニ集中ノ模様ナル件

第一五五号 至急

七月四日陸宗輿ヨリ内報ノ次第左ノ通、

段祺瑞ノ兵ハ愈々出動北倉(天津中央停車場ヨリ六哩ノ京奉線上ニ在リ)ニ集中スル管段祺瑞ハ張勳討伐總司令官ニ、段芝貴ハ東部司令トナリ曹錕ハ段祺瑞ニ左袒シ西部司令トナレリ徐州ニ居ル統領張文生ハ張勳ニ反対シテ独立ヲ宣言シタル由ナリ王士珍李慶璋ハ既ニ北京ヲ遁レ出タルモノノ如ク李慶璋モ亦張勳ニ反対スヘシ云々

前段ハ事実ト思ハル徐州以下ノ部ハ未タ確ムル邊ナキモ聞込ノ儘電報ス

公使、南京、濟南、奉天ヘ電報セリ

六七 七月四日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

シテ遂ニ来会セサリシ由ニテ民党側ニ於テハ愈々其ノ挙動怪シムヘク当初為ニスル所アリテ行動ヲ共ニスル様見セカケタルモノナルヘシト想像シ始メタル趣ニテ海軍ハ全然孫文等ト同一行動ニ出ツルコトニ決セル由ナリ尚馮國璋ヨリ共和擁護ヲ唱ヘ副總統トシテ姑ク總統ノ職ヲ代理シ政府ヲ南京ニ置キタキニ付同地ニ来集ヲ望ム旨ノ電報海軍及民党領袖側ニ到達シ本日右ニ対シ態度ヲモ協議セル趣ノ所結局一同右ニ不同意ヲ表シ目下軍艦ヲ秦皇島ニ派シテ黎總統ヲ迎ヘントシツツアル旨ヲ陳ヘテ拒絕スルコトニ決セル趣ナリ右廬護軍使ノ態度ニ付テハ彼レカ商總會總理等ニ対シ浙江及雲貴省トハ常ニ態度ヲ同シクシ治安ヲ維持スヘキニ付意ヲ安ンスヘキ旨内諭セル等ニ見テ曩ニ独立當時ノ如ク地方治安維持ヲ專一トシ居ルモノニシテ民党側ト同一行動ニ出ツルモノトハ認メ難シ

北京南京ヘ電報セリ

六九 七月四日 齋藤在中國日本公使館附陸軍武官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

仏国公使ノ黎ニ元洪訪問並蔣作賓參謀次長、李經羲、呉警視總監ノ行動ニ関スル件

一 張勳ノ復辟ニ関スル件 六九

我居留民保護ノ為天津ヨリ軍隊招致ニ関シ報告ノ件

第八七八号 (七月六日接受)

段祺瑞既ニ兵ヲ拳ケ形勢日々危殆ニ赴ク所当地ニハ張勳ノ兵三千内外アリテ此等ハ素ヨリ旧式軍隊ナルカ故万一ノ變ナシトモ計ラザルニ付此場合ニ於ケル帝國居留民保護等ノ為本月一日天津ヨリ招致セル一中隊ヲ其儘当地ニ駐留セシムルコトニ齊藤少將ト打合セ置キタリ右ニテ当地駐屯ノ兵數ハ總テ三個中隊トナリ從來ニ比シ一個中隊ヲ増加シタル訳ナリ右ノ次第ハ七月四日米国公使ニモ之ヲ告ケ米國側ニ於テモ同様一個中隊ヲ天津ヨリ呼寄スルコト然ルヘキ旨勸告シ置キタリ市民ニシテ地方ニ逃避スルモノ陸統帥ヲ接セリ

本電ハ念ノ為別ニ奉天經由發電セリ、

六八 七月四日 在上海有吉總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

南方各派ノ動靜ニ関シ報告ノ件

第一五一号

本四日孫文宅ニ於ケル会見ニハ廬永祥ハ軍務多忙ヲ口実ト

支極秘第三十六号

本日仏国公使ハ大總統ヲ訪問シ閣下ハ目下御病中(輕キ糖尿病アリ)ナレハ仏國医師「プウシエル」カ侍医ナル關係上仏國病院ニ御入院アリテハ如何ト申出デシヲ以テ大總統ハ病氣トハ云ヘ至テ輕微ナリ今後若シ重症トナル傾向アレハ林公使ト協議ノ上何分ノ返答ヲナスヘシト答ヘタリ同公使ハ統テ鈴木隊長ト会見シ以上ノ希望ヲ述ヘ且此事ハ貴下ノ御意見ニテ何トモ決スルコトナレハ御同意ヲ得タシト述ヘタルヲ以テ鈴木隊長ハ本官ノ一存ニテ回答出来ザレハ何レ公使ノ命ヲ待チテ御返事スヘシト答ヘタリシニ後刻仏国公使自ラ林公使ヲ訪ヒ実ハ大總統ハ天津ニ遁レントスルノ意思アリト聞ク就テハ昼間ハ仏國病院ニ収容シ夜間ハ貴館ニ来ルコトトセハ大總統ノ天津ヘ遁ルルヲ予防スルヲ得ヘシト信シ大總統ニ面会シ入院ヲ勸告セシ次第ナリト述ヘタル由而テ公使ハ之ヲ拒絕シ依然我公使館ニ在リテ小菅軍医正ヲ主治医トスルコトセラレタリ、二、參謀次長蔣作賓ハ今朝大總統ヲ來訪シタル後危難ヲ避クル為天津ニ去レリ、三、李經羲ハ本日午前六時發天津ニ去レリ、四、復辟勃發後警察總監吳炳湘ハ各新聞社ニ対シ時局柄記事ヲ慎ム

ヘキ旨注意スル所アリシカ昨二日以来当地進歩党及国民党系ニ属スル新聞ニシテ休刊スルモノ十余種ニ及ヘリ、
關東、天津、青島、上海、中支那済

七〇 七月四日 在南京多賀陸軍中佐ヨリ
田中参謀次長宛(電報)

馮国璋現下將ニ執ラントスル処置ニ付語リタル件

(七月六日外務省接受)

三日夜馮国璋ハ刻下將ニ執ラントスル処置ニ就テ次ノ如ク語レリ、
一、絶対ニ復辟ヲ認メス共和ヲ擁護スル為ニ督軍等ヲ率ヒテ之ヲ破壊スル手段ヲ行ハントス
二、国家ハ一日モ政府ナカルヘカラサルヲ以テ自ラ大總統ニ代リ先ツ南京ニ在リテ内政ヲ執リ外交ハ北京ニ機関ヲ設ケントス
三、意見ヲ發表シテ態度ヲ明白ニシ内外ニ向テ共和擁護ノ精神ヲ明白ニセントス
此際馮国璋ハ右決心ヲ為シ居ルモ其手段ハ数日中ニ決スヘシトテ未タ具体ノ決定ヲ認メス

入城シタル為将来万一段祺瑞一派ノ軍隊カ此等訓練アル部隊ト衝突スヘシト懸念スルモノアルモ元来右第十三師ノ一部カ入城シタルハ李進才カ復辟ヲ賛成シタル為ニアラス張勳ノ幕僚及吳炳湘等ヨリ愈々復辟実行ノ場合張勳ノ手兵及警察ノ力ノミニテハ北京ノ秩序維持困難ナルヤモ計リ難キニ付是非第十三師ノ一部ヲ借リテ万ニ備ヘタシトノ相談ヲ受ケ謂ハハ全ク李進才カ張勳側ノ詭計ニ陥リタルモ同様ナリ從ツテ李一己ノ取計ニ出テ陸軍部当局ヨリ正式ニ命令シタル次第ニアラス去レハ第十三師ノ一部ハ今日中ニ夫々所屬兵營(何レモ城外ニアリ)ニ帰還セシムル筈ナリ又總統府ノ衛隊モ不日南苑ノ本隊ニ復歸セシムルコトトナリ居ルヲ以テ外間ニテ懸念セラルル様ノ事態發生スルカ如キコトナカルヘシト信スル旨答ヘタル由、
在天津総領事ヘ転電セリ

七二 七月五日 在天津松平総領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

天津地方官衙ノ国旗掲揚等ニ関スル件

第一六一号

(七月六日接受)

七月四日迄省長公署警察庁其他ノ官公署学校並市民ノ掲ゲ

馮国璋ト段祺瑞トハ復辟反対意見一致シタリト

七一 七月四日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

北京ノ秩序維持ニ関シ王士珍ニ申入レタル件

第八八一号 (七月六日接受)

張勳今回ノ復辟ニ対シテハ外部ノ反対頗ル盛ンニシテ段祺瑞一派ハ早晚武力ヲ以テ張勳ヲ圧迫スヘシトノ風説伝ハルヤ北京ノ人心恟々トシテ昨日来京漢京奉兩鉄道ニ依リ避難スルモノ非常ニ多ク外国人間ニテモ張勳ノ軍隊ニ対シテハ頗ル不安ノ念ヲ抱クモノ尠ナカラサルヲ以テ本使ハ北京ノ秩序維持ニ関シ支那当局ノ注意ヲ喚起シ置クタメ船津ヲシテ四日王士珍ヲ往訪シ右ノ趣ヲ伝ヘシメタル所之レヨリ先王ハ既ニ天津ヘ避難セリトカ或ハ張勳ノタメニ幽閉セラレタリナトノ風説アリシモ同人ハ平常ノ通極メテ落付タル態度ニテ昨今形勢益々非ナルヲ以テ自分ハ余リ政事上ノコトニ容喙セスト前提シ北京ノ秩序維持ニ関シテハ如何ナル政事上ノ變動アリトモ決シテ外国人ノ生命財産ニ害ヲ及スカ如キコト之レナキヲ保障シ尚ホ復辟決行ノ当日第十三師團ノ一部隊(約三千人)カ劉金標、吳長植兩人ノ指揮ノ下ニ

タル黄龍旗ハ七月五日朝ニ至リテハ全ク其影ヲ潜メ警察庁ハ民国旗ニ復シ省長公署以下ハ何レノ国旗ヲモ出タサズ昨日来北京ヨリノ避難民非常ニ増加シタルモ目下ノ所市中ハ比較的平穩ナリ
北京、奉天、濟南、南京ヘ電報セリ

七三 七月五日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

黎總統ノ日本公使館避難ニ関スル王士珍並仏

国公使談話報告ノ件

第八八二号 (極秘) (七月六日接受)

七月四日船津ヲシテ王士珍ヲ往訪セシメタル際黎總統今回日本公使館ニ避難セラレタルハ閣下カ黎總統身辺ノ安全ニ対シ十分ノ保証ヲ与ヘラレザリシ為メナリトノ噂アルカ事実ナリヤト尋ネタル処王ハ右ハ全然誤伝ナリ去ル二日自分カ黎總統ニ東廠胡同ノ私邸ニ引移リ方ヲ勸告シタル真意ハ現在總統府ノ護衛隊約三千人ト張勳部下ノ兵カ城内ニ駐劄シ双方ニ於テ不意ニ襲撃ヲ受クルコトナキヤト疑惧心ヲ抱キ互ニ警戒ヲ怠ラサル形跡アリ頗ル危険ノ感アルニ付此際黎總統ヲシテ總統府外ニ移転セシムルニ如カスト考ヘタル

カ為メ黎カ引続キ總統府内ニ止マルコトハ一身ノ安全モ十分ニ保証スルコト困難ナルノミナラス既ニ復辟実行サレタル以上宮中ノ一部タル總統府ヲ皇室ニ奉還スルハ当然ナリト注意シタルニ過キズ從テ黎カ總統府外ニ移転シタル後ハ身辺ノ安全ニ関シ何等懸念スルノ必要ナキハ勿論ナリ去レハ黎カ日本公使館ニ避難セシハ頗ル了解シ難キ処ナルヲ以テ種々内探セシ処去ル二日自分カ移転ノ相談ヲナセシ際彼ハ翌三日移転ノコトニ決シ且多少病氣モアルニ付或ハ当分仏国病院ニ入院静養スルヤモ計リ難シト話シ居リタルカ其後彼ハ愈々仏国病院ニ入院スルコトニ確定シ其旨予メ通知方羅虔(仏国留学出身陸軍少将)ニ命シタルニ羅ハ病院ノ事ナレハ何時ニテモ差支ナカルヘシト考ヘ其儘ニ打捨テ置キタル為メ同夜九時頃突然病院ニ駈付ケタルモ病院ニテハ夜中ノ事故暫ク門外ニ待タセ彼此レ押問答スル中十五分余モ経過シタルヨリ若シ張勳ノ部下ニ追捕サルル様ノ事アリテハ一大事ト大ニ焦慮ノ結果随行セル劉秘書ノ勸メニ從ヒ急ニ日本公使館ニ避難スルコトトナリタル次第ニテ全ク黎總統ノ小胆ナル為メ演セラレタル喜劇ニ過キスト冷笑的ニ説明シタル由ナリ

黎總統ハ本件ハ秘シテ語ル所ナシ然ルニ昨三日朝仏国公使ハ黎ヲ我兵管内ニ來訪シ我守備隊長ニ向ヒ黎總統ハ是迄仏国医師ノ診察ヲ受ケ居リ仏国病院ニハ充分ノ設備モ出來居ルニ付黎總統ノ希望モアリ旁同病院ニ移転セシメテハ如何ト申出テタルニ付隊長ハ右ハ自分ニ於テ何等返答出來ス追ッテ本使ト相談ノ上何分ノ挨拶致スヘシト答ヘタル由ノ処同公使ハ間モナク(脱)書面ヲ以テ前述ノ意味ヲ申越シ一面是迄黎總統ノ主治医タリシ仏国医師某ヲ遣ハシ仏国病院ヘ入院ヲ勧誘シタル由ニ付黎總統ニ医師ノ必要アル場合ニハ我公使館ニモ相当ノ医師アルヲ以テ其辺御配慮ニ及ハスト婉曲ニ拒絶セシメタル所統イテ仏国公使ハ親シク本使ヲ來訪シ過刻黎總統ノ仏国病院入院ノコトニ関シ手紙ヲ差上ケタルハ他意アルニアラス右ハ黎ノ侍從武官羅少将ヨリ依頼ヲ受ケタルタメナルカ察スル所黎總統ハ入院ノ後更ニ天津ニ脱走セント欲セシモノノ如シト弁解セリ本使ハ仏国公使ノ行動怪訝ニ堪ヘス思ヒ居リタル所前記王士珍ノ曰フ所ニヨリ初メテ其真相ヲ推測シ得タリ、尚「フレーザ」カ出淵ニ語ル所ニ拠レハ米国公使館ニ於テモ相当ノ用意出來居リシトノコトナルカ真否確カナラス右何等御参考迄

七四 七月五日

在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張勳側ハ防衛上段祺瑞ト開戦決定及責任ハ段側ニ在ル旨梁敦彥來談ノ件

第八八七号 至急

五日午前九時外務部尚書梁敦彥本使ヲ來訪シ段祺瑞愈々兵ヲ進ムルコトトナリタル結果北京政府ニ於テモ防衛上已ムヲ得ス開戦スルコトニ決定シタルニ付右様承知アリタク且ツ事ノ茲ニ至リタルハ其責任全然段側ニアル次第故此点モ特ニ承知ニ入レタク前記ノ趣ハ只今首席公使ニモ申入レタル旨申出タリ因テ本使ハ責任ノ何レニアルヤハ之ヲ認ムル能ハザル旨明確ニ申入レ置キタリ梁來訪ノ際恰モ往電第八八六号ノ情報ニ接シタルニ付北京海口間交通自由ノ主義ハ条約ニ依リ規定セラルル所ナルヲ以テ此際北京側ニテ作戰計畫上京奉鐵道ノ交通ヲ阻害スルガ如キ行為ハ絶対ニ承認シ得サル所ナルニ付直ニ軍隊ニ向ツテ必要ノ訓令ヲ發セラレタク尚本使ヨリ段側ニモ同様警告ヲ与フヘシト告ケ尚又聞ク所ニ依レハ昨夜張勳ヨリ京奉鐵道当局ニ對シ北京ヨリ一切發車ヲ見合スヘキ旨訓令セル趣ナルカスル訓令モ直ニ

取消サレタキ旨申述ヘタル所梁ハ早速張勳ニ協議スヘシトテ引取りタリ其後間モナク梁ヨリ電話ヲ以テ張勳ノ軍隊防衛ニ責任ナキ旨通報シ來レリ
天津ヘ転電セリ

七五 七月五日

在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

北京方面ニ於ケル張勳側軍隊ノ異動大要報告

ノ件

第八八九号

諸般ノ情報ヲ綜合スルニ北京方面ニ於ケル軍隊ノ異動大要左ノ通

張勳ハ愈々武力ヲ以テ討伐軍ニ對抗スルコトニ決定シタル結果五日午前一時半北京前門外停車場ヨリ汽車ニテ先ツ百七十名(士官多数ヲ占ムル由)ヲ万莊ニ送り次テ前十一時更ニ一列車(約五百名)ノ兵ヲ同方面ニ派遣シ尚引続キ一列車差シ立テ準備中ナリ是等軍隊ハ何レモ万莊附近ニ集中スヘシ又從來總統府ニ駐屯セル南苑十一師所屬四十三、四十四ノ二個聯隊ハ今朝北京ヲ出テ南苑ニ向ヒタリ右ハ張勳ノ軍隊ト行動ヲ共ニスヘキヤ否ヤ不明ナリ又北京西苑ニ駐

屯スル十三師所屬一旅團ハ京漢線砲馬廠ニ出動シ張勳ノ兵約一千之レニ合シ南方ヨリ進軍シツツアリ第三師十一聯隊ハ蘆溝橋ニ涉リ尚後統隊長辛店ヨリ北上シツツアリ以上ハ全部正確トハ断言シ難キモ不取敢天津へ電報セリ

七六 七月五日 在奉天赤塚総領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張作霖復辟反対ノ旨各省ニ通電ヲ發シタル件

第一六一号

張作霖ハ七月五日愈々其態度ヲ決シ復辟反対ノ旨各省ニ通電ヲ發シタル由ニテ尚同人ノ語ル処ニ依レハ目下明ニ反対ヲ唱へ居ルハ奉天、山東、山西、江蘇、浙江、湖南、湖北、広東、広西、直隸、江西ノ十一省ナリト謂フ
在支公使、在天津総領事、在吉林領事、在齊々哈爾領事へ電報セリ

七七 七月五日 在本邦米國大使館ヨリ
日本外務省宛

中国在留外國人ノ保護措置ニ関シ日本政府ノ見解問合ノ件

ラス痛心シタル次第ナルカ元來張ハ何等政治上ノ野心アリテ事ヲ起シタル次第ニアラス從テ徐世昌、段祺瑞ニ於テ後事ヲ引受け呉ルルニ於テハ張トシテハ満足此上ナク喜ンテ北京ヲ引揚クヘク尤モ復辟丈ハ之ヲ完成シテ立憲君主政体トナスコトヲ必要トスルニ付右ノ次第徐、段ニ転達セラレ兩人ニ於テ之ヲ容ルル様力ヲ請フ旨申出タルニ付本使ハ單ニ転達丈ヲ承諾シテ引取ラシメタル処其後更ニ万ヨリ張ハ万ト本使トノ会谈ニ満足ヲ表シタル上段側トノ詳細ノ協定ハ後日ニ譲リ差向キ相對峙セル両軍間ニ砲火ヲ交ユルコトナキ様取計方希望シ居ル旨申越タリ右様ノ次第ナル処本使ニ於テ張ノ依頼通り措置ヲ執ルコトハ何分干渉ノ嫌アリテ面白カラサルニ付只張ノ意向ヲ徐、段ニ転達スルコトニ止メタキ所存ニ付右様御承知ノ上徐、段ニ於テ何等誤解ナキ様單ニ転達方ノミ然ルヘク御交渉相成リタシ
外務大臣へ電報セリ

七九 七月六日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

黎總統ノ家族仏國公使館ニ入りタル件

第八九七号

一 張勳ノ復辟ニ関スル件 七九 八〇 八一

The Government of the United States being concerned for the safety of foreigners residing in China is considering the advisability of measures for their protection. It would be glad to have the view of the Imperial Japanese Government on this subject.

Tokio, July 5, 1917.

七八 七月六日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

復辟ニ関シ張勳ノ意向ヲ徐世昌及段祺瑞ニ轉

達方万參謀長ヨリ依頼申出ノ件

第八九五号

本使發在天津総領事宛電報七月五日第一三九号、七月五日張勳ノ參謀長万繩拭張ノ命ニ依リ謝介石同伴來訪今回ノ復辟ハ最初張勳ノ関知セサル処ナルモ部下ニ於テ万事準備ヲ整ヘタル為メ張モ遂ニ意ヲ決シテ之ヲ断行スルニ至リタル次第ナルカ扱テ右断行後ニ於ケル形勢ヲ見ルニ確カニ復辟賛成ノ意ヲ表シ居タル人物ニシテ其態度了解シ難キモノアリ要スルニ多少意外ノ發展ヲ生シ張ニ於テモ渺カ

大總統夫人子息一人娘一人都合三名五日午後仏國公使館ニ入レリ右ハ仏國公使ニ於テ往電第八八二号ノ行懸モ有之外最初ヨリ約束モ有之モノノ如ク切メテ家族ナリトモ収容セント頻リニ努力シタル結果ナリ大總統長男ハ總統ノ希望ニ依リ昨夜当館ニ連レ來タリタル上ホテルニ投宿セシメタリ

八〇 七月六日 在天津松平総領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

段祺瑞省長衙門ヲ討逆軍總司令部ト定メタル

件

第一七〇号

往電第一六三三号ニ関シ段祺瑞ハ七月五日午後十時湯化竜、靳雲鵬、許世英、梁啓超、李長恭、丁士源外隨員三十名ヲ從ヘ馬廠ヨリ帰り直ニ省長衙門ニ入り同衙門ヲ討逆軍總司令部ト定メタリ又段芝貴ハ午後六時頃当地ヲ出發シテ郎坊方面ニ向ヒタリ
北京、濟南、奉天、南京へ電報セリ

八一 七月六日 在漢口川越総領事代理ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

王督軍ノ復辟反対宣言並段祺瑞及馮國璋ト打

五九

合ヲ計リタル件

第九四号

(七月八日接受)

本六日漢口警察厅长周際芸ノ当館謀報員ニ語ル所ニ抛レハ王督軍ハ復辟反對ヲ宣言スルト同時ニ段祺瑞及馮国璋ト打合セヲ為サシムル為メ去三日第二師旅团长孫伝芳ヲ天津ニ昨五日軍務課長楊文愷ヲ南京ニ急派シタルカ一方督軍ハ既ニ北伐軍トシテ特別混成旅ノ編成ヲ了ハリ段祺瑞ヨリノ命令アリ次第第二師長王金鏡之ヲ率ヒ北上スルノ準備成レリト云フ

在支公使へ転電セリ

八二 七月六日

在南京高尾領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張勳ノ罪科ニ関シ馮副總統及段祺瑞連名ニテ

各省督軍省長等へ通電ヲ発シタル件

第九六号

(七月八日接受)

左ノ通副總統及段祺瑞ノ連名ニテ各省督軍省長等へ通電ヲ発シタル趣ヲ確聞セリ

張勳反逆ヲ図リタルヲ以テ国璋祺瑞曩ニ既ニ各別各地ニ通電シテ之ヲ討伐セムコトヲ声明セリ今茲ニ更ニ反逆張勳ノ

北京、天津、濟南、上海ニ電報セリ

八三 七月六日

在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

段祺瑞軍攻撃ヲ開始シ張勳ノ兵ヲ破リ目下追

撃中ナル旨報告ノ件

第八九八号

(七月八日接受)

只今郎坊ニ在ル我將校ヨリ齊藤少将ニ達シタル電話ニ抛レハ今朝四時頃ヨリ段ノ軍隊ハ攻撃ヲ開始シ其ノ結果張勳ノ兵破レ段軍目下之ヲ追撃中ナル由尚他ノ情報ニ抛レハ進撃軍ハ北京ヲ距ル三十七哩ノ地点ニ達シタリトノコトナリ不取敢、(六日正午)

天津へ電報セリ

八四 七月六日

在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

開灤炭鈹株ヲ担保トシ七十万弗融通方書汝霖

ヨリ小田切ニ依頼アリタル件

第八九九号

(七月八日接受)

六日朝天津曹汝霖ヨリ電話ニテ小田切ニ対シ開灤炭鈹株ヲ担保トシ七十万弗至急融通方依頼アリタル趣ヲ以テ小田切

一 張勳ノ復辟ニ関スル件 八三 八四 八五 八六

罪ヲ數ヘ以テ天下ニ聞ント欲ス夫レ民国ハ既ニ茲ニ六年ヲ経タリ然ルニ今此ノ行為ニ依リ建設セラレタル国家ノ基礎ヲ只一人恣ニ其ノ破壊ヲ行フ之レ其ノ罪ノ一ナリ清室ヲ危地ニ陥レ優待条件ヲ無効ナラシメ先朝ニ孤負ス之レ其ノ罪ノ二ナリ清室大妃及師父等カ死ヲ決シテ復辟ニ從ハサリシニ張勳ハ脅スニ死ヲ以テシ眼中論旨ヲ認メス之レ其ノ罪ノ三ナリ幼帝ヲ挾ミ頻リニ虚偽ノ上諭ヲ発ス之レ其ノ罪ノ四ナリ同僚ト共和擁護ヲ約束シ其ノ舌未タ乾カサルニ忽チ友ヲ売ル之レ其ノ罪ノ五ナリ大總統及国璋ノ上諭ヲ捏造シ以テ天下ヲ欺ク之レ其ノ罪ノ六ナリ辮髮軍ヲ北京ニ引キ入レ市民ヲ騷擾セシメ又土匪遊民ヲ募集シテ暗ニ銃器ヲ与ヘ京師ヲ紊乱ニ陥ル之レ其ノ罪ノ七ナリ列強承認ノ民国ヲ一旦ニシテ破壊シ紛紜ヲ列強ニ買ヒ干渉ノ端ヲ開ク之レ其ノ罪ノ八ナリ之ノ八大罪ハ其ノ最モ顯著ナルモノ他ノ罪惡ニ至テハ殆ント挙テ數フヘカラス国璋国家ノ重任ヲ忝クシ祺瑞又野ニ在リト雖モ終始傍觀シ難シ今京旅將サニ南北策応シテ近畿ヲ清メ逆賊ノ巢窟ヲ覆滅セムトス我レト志ヲ同クスル者ハ立ロニ義憤蹶起速カニ妖雲ヲ掃蕩セムコトヲ望ム重ネテ国光ヲ捍スルヲ得ハ喜何ソ極マラン

ヨリ本使ノ指図ヲ求メタルニ付該金員ハ政事上ノ目的ニ使用スルモノトハ認メラルルモ金額モ少額ノコト故此ノ機會ヲ利用シ右担保ヲ取得スルコト将来ノ為得策ナルヘシト存シ差障ニナラサル方法ニテ応諾然ルヘキ旨ヲ答ヘタル結果小田切ハ天津支店長ニ対シ成ルヘクハ交通銀行ヲ借主トシ且ツ銀行業務上ノ融通ヲ名義トシ金融ノ許ス範圍内ニ於テ貸出ス様訓令ヲ發シタル由、

天津へ電報セリ

八五 七月六日

在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

各国守備隊長會議ヲ開キ公使館区域防衛及居

留民保護方法ヲ決議シタル件

第九〇一号

(七月八日接受)

五日各国守備隊長會議ヲ開キ公使館区域防衛及ヒ居留民保護方法ヲ決議シタルヲ以テ同夜日本居留民会ニ於テモ當館及ヒ守備隊ト協議ノ上万一ノ場合ニ処スヘキ方法ヲ打合せ今六日民会ヨリ一般居留民ニ内達セリ、

八六 七月六日

在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

戦闘中止方斡旋ヲ請フ旨梁敦彦申出ノ件

第九〇三号

(七月八日接受)

六日午後梁敦彦再ヒ来訪形勢ハ益々険悪ニ赴キツツアル次第ナルカ只今自分ノ王士珍ヨリ聞キタル処ニ依レハ政体ノ如何等ハ姑ク之ヲ措キ兎ニ角徐世昌ノ出京ヲ求メ万事徐ニ仲裁善後方ヲ依頼スル旨ノ上諭發布セラレ張勳ハ徐州ニ婦ルコトニ同意スヘキ趣ナルニ就テハ何トカ戦闘中止方斡旋ヲ請フ旨申出テタリ又張勳ノ部下「トウ」ナルモノ来訪同様ノ申出ヲナシタリ事態果シテ同人等ノ言ノ如キニ於テハ或ハ斡旋ノ余地ナキニアラサルヘシト語り居タル際佶信夫来訪其語ル処ニ依レハ張ハ最後迄決戦ノ覚悟ニテ自ラ前線ニ出陣スル決心ナリトノ事ニテ梁「トウ」ノ説トハ正反対ナル処謝介石カ当館齊藤少将ニ語りタル処ニ依レハ張勳ノ幕中ハ混乱ヲ極メ謝自ラ齊藤ノ許ニ身ヲ投シタキ希望ナル旨ヲ陳ヘタリトノコトニ付察スルニ或ハ張自身ハ潔ク決戦セント希望セルモ其幕僚ハ到底事ノ成功スヘカラサルヲ見テ外国側ニ調停ヲ依頼セントスルモノカト思考ス尚公布セラレタル上諭ヲ見ルニ梁ノ談トハ大ニ相違シ居ル処梁ハ電話ニテ上諭中ニハ張勳ノ徐州ニ引揚グルコトハ記載之ナ

ヲ以テセハ右希望通りノ發展ハ到底之ヲ望ムヘカラス今日ニ於テハ張ハ先ツ全線ニ在ル兵ヲ撤退シタル上自分モ亦層々辞職スヘク左スレハ時局ハ直ニ解決スヘキ旨申渡置キタリ
本電ハ往電第九〇三号(張勳側ノ内幕)ヨリ以前ニ發送スヘカリシモノナルモ間違ニテ遅延セリ(六日)
在天津総領事ハ転電セリ

八八 七月七日

日本外務省ヨリ
在本邦米國大使館宛

中国在留外国人保護措置ニ関スル日本政府ノ

見解ニ付回答ノ件

MEMORANDUM

The Japanese Government highly appreciate the friendly spirit in which the American Government have sought their views as to the advisability of taking measures in the present crisis for the protection of foreigners residing in China. As Dr. Reinsch has already been informed by Baron Hayashi, the Japanese Legation guards at Peking, formerly consisting of two companies of infantry, have just been reinforced by

キモ其希望ハ確實ナル旨申越セリ

在天津総領事ハ転電セリ

八七

在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

梁敦彦康有為等外国公使ノカヲ以テ戦闘中止

方斡旋サレタキ旨申出ノ件

第九〇四号

(七月九日接受)

七月六日梁敦彦来訪昨日トハ打ツテ替ハリ悄然タル態度ニテ南苑ニ在ル陳光遠ノ軍隊モ復辟反対側ニ立タントスルヤノ疑アリ現ニ今朝ノ如キモ同軍隊ヨリ張勳ニ対スル示威トシテ飛行機ヲ飛ハシ来リタル始末ニテ時局ハ頗ル重大ナル次第ナルカ此際外国公使ノカヲ以テ戦闘ヲ中止セシムルコト叶ヒ難キヤトテ他ノ二三公使ヲモ訪問シテ同様ノ希望ヲ申出タル旨ヲ述ヘタル処統テ康有為来訪是又右梁乃至昨日ノ万繩拭ト同一ノ趣旨ヲ述ヘ張勳ハ何等政治上ノ野心ナク君主政体スラ維持セラルルニ於テハ張ハ直ニ北京ヲ引揚ケ一切公事ニ干与セシメス且ツ不取敢戦闘中止方斡旋ヲ請フ旨申出タルニ付右ノ趣旨ハ昨日既ニ在天津総領事ニ電報シテ徐、段側ニ転達方ヲ訓令シタル次第ナルカ本使ノ見ル所

another company dispatched from the garrison at Tientsin. In time of emergency, those guards are prepared to afford due protection to foreign residents in Peking, in co-operation with the American and other Legation guards, and, if necessary, they could be readily strengthened by further reenforcement. Reports so far received from Peking do not seem to warrant the conclusion that the troops actually maintained by foreign Legations there are quite inadequate to protect foreign residents, more especially when no feature of anti-foreign character is involved in the whole conflict. As the matter stands at present, the Japanese Government do not consider it advisable to proceed immediately to further measures of military precaution which might create suspicion and misgiving among the Chinese.

Ministry for Foreign Affairs,

Tokio. July 7, 1917.

(中和文)

覚書

日本政府ハ米國政府ニ於テ支那現下ノ事変ニ際シ在留外国人保護ノ手段ヲ執ルノ可否ニ付日本政府ノ意見ヲ求メラシ

タル友誼の精神ヲ深く多トスルモノナリ然レトモ在支米國
公使ニ於テ既ニ林男爵ヨリ通知ニ接セラレタル通在北京日
本公使館護衛兵ハ從來歩兵二箇中隊ヨリ成レル処今ヤ在天
津駐屯軍ヨリ派遣セラレタル一箇中隊ヲ之ニ増加シタルヲ
以テ万一ノ場合ニハ右護衛兵ハ米國其他ノ公使館護衛兵ト
協同シテ北京外國居留民ニ適當ナル保護ヲ与フヘク尚必要
ノ場合ニハ更ニ増援ヲ行フコト難カラス今日迄北京ヨリ接
到シタル諸情報ハ現ニ同地公使館ノ有スル軍隊ハ外國居留
民ヲ保護スルニ全然不十分ナリトノ結論ヲ確ムルニ足ラサ
ルモノノ如シ況ヤ該紛事ニ何等排外的性質ヲ帶フルコトナ
キニ於テヲヤ之ヲ以テ日本政府ハ目下ノ情況ニ於テハ支那
人間ニ猜疑誤解ヲ誘起スルニ至ルヤモ計リ難キ軍事上ノ予
防的措置ヲ此上直ニ執ルコトハ面白カラスト思料ス

八九 七月七日 在中國林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張勳戰鬪中止方申出ニ段祺瑞徐世昌応スル意

嚮ナルニ於テハ仲介ノ勞ヲ執リ度キニ付段徐

ノ意嚮確メ方松平總領事ニ要請ノ件

第九〇八号 (七月九日接受)

第九一二号 (七月八日接受)

七月七日張勳等宮中ニ赴キタル趣ニ付船津ヲシテ梁敦彥ヲ
往訪セシメタル所梁ハ大要左ノ通内話シタル由今朝議政大
臣一同御前ニ伺候シタル際張勳ハ各省督軍中曾テ熱心ニ復
辟ヲ賛成シタル者モ拳テ之ニ反対シ今ヤ自分ハ殆ント包圍
ノ中ニ在リ此上ハ如何トモ致シ方ナキニ付潔ク辭職シテ後
事ハ一切王士珍ニ依頼シタキニ付右様御承知ヲ請フト伏奏
シタル所皇帝ハ十二歳ノ幼齡別ニ何等意見ノ有ルヘキ筈ナ
ク只此際張勳ノ辭職ハ困ルト仰セラレタルノミナリシ其ノ
際王士珍ハ別ニ辭退セサリシ所ヨリ察スレハ同人ハ今後ノ
事ヲ引受ケタルモノト認メラル張ハ更ニ暇乞ノ辭ヲ述ヘ一
同ト共ニ退出シタル後昨夜同人ヨリ各省地方長官ヘ發シタ
ル長文ノ通電ヲ自分ニ示シタルカ其ノ大要ハ今回復辟ヲ決
行シタルハ過去五年間共和政治ノ弊害ニ懲リタルニ依リ國
家民衆ノタメ之レヲ断行シタルニ過キス決シテ一身一己ノ
タメニアラス併シ今ヤ諸方ノ反対アルヲ以テ自分ハ潔ク責
ヲ負フテ隱退ス功罪共ニ世ノ公論ニ任ストノ意味ナリシ尚
ホ張勳ハ其際ニ於ケル態度ヨリ察スレハ最早北京ヲ引揚ケ
永定門方面ニ赴キタルニアラスヤト疑ハル或ハ手兵ヲ提ケ

一 張勳ノ復辟ニ関スル件 九一

本使發天津宛電報
第一五〇号(至急)

昨六日張勳側ヨリ梁敦彥康有為及唐營務處長等相踵テ來訪
シ本使ニ於テ張ト徐、段トノ間ニ立チ何トカ仲介ノ勞ヲ執
ル様懇請シ最初ハ切テ復辟丈ハ飽迄維持シタキ希望ナル旨
ヲ申居タルモ夕刻以後ニ至リテ終ニ徐、段ニ於テ復辟ニ反
對ナレハ之ヲモ撤回スヘク但シ自己ノ兵ヲ率ヒテ徐州ニ歸
ルコト丈許諾ヲ得タキ旨申出テタル次第ナルカ若シ今後張
自身又ハ王士珍ノ如キ責任アリ確實ナル向ヨリ同様ノ申出
テヲナシ來ル節ハ段竝ニ徐ニ於テ之ニ応スヘキヤ本使ニ於
テ予メ右兩人ニシテ之ニ応スルノ意嚮ナルニ於テハ張、王
ノ如キ向ヨリ交渉有之場合ニ本使ニ於テ其含ミヲ以テ應對
ノ上仲介ノ勞ヲ執ルヘキ所存ニ付右様御承知ノ上至急可然
段、徐ノ意嚮御確メノ上其ノ結果電報アリタシ

九〇 七月七日 在中國林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張勳辭職シテ後事一切ヲ王士珍ニ依頼シタキ

旨伏奏シタル件

テ包圍ヲ突破シ徐州ニ歸ラントノ策戰計畫ニアラスヤトモ
想像セラルル尤モ右ハ自分ノ想像ニ過キサルヲ以テ確否ハ請
合ヒ難シト附言シタル趣ノ処其後宣統帝ノ師傳梁鼎芬本使
ヲ來訪シ(不明)日陳光遠ノ飛行機カ皇居ノ上ヨリ爆彈ヲ
投下シタル為メ皇室ノ恐慌一方ナラス此ノ際皇室ニ對シテ
ハ害ヲ加フル如キコト之ナキ様警告方依頼アリタル際今朝
張勳ハ辭職ヲ願出テ同時ニ暇乞ヒヲナシ一面宮中ヲ護衛シ
居リタル張勳ノ軍隊モ既ニ宮中ヲ引揚ケタル旨語リタルカ
其他ニ分駐セシ張ノ軍隊モ漸次ニ天壇方面ニ集中シツツア
ル様察セラルル今後張勳ノ意ハ戰鬪ノ上進退ヲ決スル積リナ
ルカ或ハ王士珍等調停ニ依頼セント欲スル積リナルカ精探
中ナリ

在天津總領事ヘ転電セリ(七日午後五、三〇)

九一 七月七日 本野外務大臣ヨリ
在中國林公使宛(電報)

在本邦章中国公使ヨリ現下同國ノ時局ニ付意

見ヲ求メラレタル件

第四九一号

七月七日章公使來訪シ段祺瑞ハ既ニ天津ニ帰還シ同地ニテ

一切ノ指揮ヲ為スコトニ決シ馮国璋トノ連絡モ十分ニ成立シ曹錕ハ西路司令トシテ段芝貴ハ東路司令トシテ又倪嗣冲張懷芝ハ徐州ニ在ル張軍牽制ノ為夫々任務ニ当ル事ニ決定セル趣及黎元洪ヨリ送致セル大總統ノ印璽ハ馮国璋既ニ之ヲ受領シ同人カ大總統ノ職務ヲ代撰スルコトハ段祺瑞ニ於テモ異存ナキ旨既ニ馮ニ申送り又徐世昌ト段祺瑞トノ間ニ於テモ既ニ十分意見ノ疏通ヲ見ルニ至レル旨陸宗輿ヨリ電報シ来レルコトヲ内話シ尚章公使ヨリノ電報ニ対シ馮国璋ヨリ張勳國ニ叛シ國人共ニ憤ル国璋既ニ檄ヲ伝ヘ師ヲ起シ罪ヲ鳴シ討伐ヲ行ハムトス黎元洪職務ヲ執行スル能ハサルニヨリ各省ヨリ来電アリ均シク總統選挙法第五条第二項ニ拠リ代理ヲ行ハムコトヲ請ヒ推諉スルヲ許サス既ニ發表ノ準備ヲ為セリ右ノ次第口頭ヲ以テ予メ日本政府ニ通告シ置カレタシトノ返電ニ接シタル旨陳述セルニ付本大臣ハ右通告ニ対シ正ニ之ヲ聴キ置ク旨ヲ答ヘ置ケリ次ニ最後ニ章公使ハ支那ノ時局ニ対スル帝國政府ノ態度ニ関スル意見ヲ求メタルニ付本大臣ハ此際帝國政府ハ支那ノ時局ニ対シ彼此レト意見ヲ述フル限リニアラズ支那ノ内争ニ対シテハ予テヨリ声明シアル不偏不党ノ主義ヲ益忠実ニ実行スル外アラ

団會議ヲ開キ同僚ニ通知シタル上首席公使ニ回答スル筈ナルカ支那電信通セサルヤモ知レサルニ付右ノ次第首席公使へ御伝ヘテ請フ大臣へ電報セリ

九三 七月七日

在広東太田總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

陸榮廷等連名ヲ以テ約法ニ依リ大總統ノ職權

代行等ヲ副總統ニ電請シタル件

第六七号

(七月八日接受)

七月五日陸榮廷陳炳珉及譚浩明連名ヲ以テ副總統ニ宛テ目下大總統ノ行動自由ナラサルヲ以テ約法ニ依リ大總統ノ職權ヲ代行セラレンコト竝陸榮廷等討逆出師ノ準備ヲ為シ居レルモ唯南北相隔タリ一時ニ兵ヲ出シ難キニヨリ副總統自ラ大軍ヲ督シ北伐セラレタキ旨電請セリ又朱省長ハ六日副總統ニ宛テ至急法ニ依リ大總統ノ職權ヲ代行シ且ツ南京ニ臨時政府ヲ設立シ国会ヲ召集セラレタキ旨電請セリ

尚ホ広東省議會ハ七月四日副總統トシテ大總統ノ職權ヲ代行セシメ南京ニ臨時政府ヲ設立スルコトヲ承認セル旨議決シ又広西省議會モ五日同様ノ議決ヲ為シ其旨通電セリ

ザル次第ナリト答ヘ置ケリ右貴官御含迄

九二 七月七日

在天津松平總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

北京海浜間ノ交通及電信保全ニ関シ段祺瑞ニ

申入レタル件

第一七五号

本官發在支公使宛電報第一六二号

北京外交團首席公使ヨリ首席領事トシテ本官ニ電報アリ天津官憲ヲシテ千九百一年議定書及ヒ千九百一年八月六日公文ニヨリ保障セラレタル鐵道及ヒ電信ニ依ル北京海岸間ノ自由交通ヲ妨クルカ如キ一切ノ行動ヲ取ラシメサル様ニシ万一從ハサルニ於テハ列國ハ京海間ノ交通ヲ保全スル為メ自由行動ヲ取ルコトヲ留保スル旨電報アリタルニ付本官ハ七月六日正午段祺瑞ニ会见シ首席領事トシテ右ノ警告ヲ与ヘタルカ段ハ味方ノ関スル限リ鐵道電信ノ開通ヲ計リ破損ノ箇所ハ現ニ修理シ居ルモ何分張勳側ニ於テ退却シツツ破壞ヲナシタル処モアル模様ニ付是等ハ味方ノ進ムト共ニ着々修理スヘキ旨命シ置キタル旨答ヘタリ本日午后三時領事

在支公使へ転電セリ

九四 七月七日

在南京高尾總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

馮国璋大總統代理ニ就任並極力時局收拾ニ努

ムル決心ナル旨語リタル件

第一〇一号

七月七日就任ノ祝賀旁々馮国璋ヲ訪問シタルカ馮ハ周囲ノ事情巴ムヲ得サルトキ昨夜段祺瑞ヨリ最後ノ電報ニ接シタルニ依リ直ニ代理ノ任ニ就キタル次第ニテ元ヨリ一時的ノ任務ナレトモ極力時局ノ收拾ニ力ムル決心ナレハ此ノ上トモ切ニ同情アラントラ望ムト述ヘ次テ政府ハ便宜上一時天津ニ設クル筈ニテ自分モ職責上当然同地ニ赴クカ順序ナレトモ当方面ノ事態重要ナルト西南各省ヲモ控ヘ居ルコトナレハ依然当地ニ止マリ職權ヲ行フ積リニテ北京ノ事態解決ノ上ハ直ニ總テノ政治機關ヲ同地ニ復歸セシムルコト勿論ノ義ナリト謂ヘリ

北京、天津、濟南、上海へ電報セリ

九五 七月八日

在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張勳武装解除ニ当リ生命ノ保障ヲ段側ニ交渉
方並身柄收容方英国公使館ニ懇請シタル件

第九一八号

本使発天津宛第一六一号

英国代理公使七月七日夜來訪張勳ヨリ其ノ部下ヲシテ武装解除セシムヘキニ付生命ノ安全丈ハ之ヲ保障スル様段側ニ交渉ヲ請フ旨並ニ右保障ノ方法トシテハ英国公使館ニ於テ自分等ヲ收容セラレタキ旨懇請シ來レル趣ヲ以テ本使ノ意見ヲ承知シタキ旨申出タルニ付本使ハ右ハ至極結構ノ事柄ニテ本使ニ於テモ助力スヘキニ付張ノ申出ヲ容レラレ然ルヘキ旨答ヘタル上生命ノ外私有財産ノ保護ヲモ与フルコトトスル方宜シカルヘキ旨附言シタリ右ノ結果同代理公使ハ直ニ在天津同國総領事ニ電訓ノ上張勳申出ニ付段側ト必要ノ交渉ヲ開始セシムル筈ナリ張カ英国代理公使ニ右ノ申出ヲナスニ至リタルハ当館ニハ既ニ黎元洪ノアルアリテ身ヲ寄セ難キヲ慮リタルカタメト察セラル就テハ貴官ニ於テモ右ニ付英国総領事ト御協議ノ上同總領事ヨリ段側ニ会谈シタル後同總領事ノ交渉ヲ援助スル意味ニ於テ然ルヘク段側ニ話合ヲ遂ケラルル様致シタシ

復辟問題ニ関シ在神支那人ノ行動ニ就テハ既報ノ通りナルカ愈々本日午前十時五十分ヨリ神戸市中華會館ニ於テ大会ヲ催シタリ

出席者、吳錦堂、王敬祥、楊寿彭、鄭祝三其ノ他約二百名
(内同文学校生徒及婦女子等約百三十人ニシテ大阪ヨリ來會者数名アリシカ如シ)ニシテ吳錦堂主會者ト為リ開會ノ趣旨トシテ「今回本國ノ内乱ニ對シ此際態度決定ノ必要アリ依テ諸君ノ意見ヲ求ムル為本日會合スルニ至レリ」トノ辞ヲ述ヘ続ヒテ鄭祝三、王敬祥、楊寿彭、杜孫伯及東京慶応大学生黃植三、神戸高等商業学校生徒万利憬等交々登壇シ悲憤慷慨ノ口吻ヲ以テ大同小異概略左記ノ演說ヲ為シタリ

「共和政府樹立以來既ニ五ヶ年ヲ経過シ民國ノ基礎漸ク鞏固ナラントス然ルニ這回逆賊張勳、康有為等カ輿論ヲ無視シ復辟ヲ敢行シタルハ実ニ横暴ノ極ニシテ殊ニ康ハ非常ニ奸智ニ長ケ居レハ張ヲ煽動シテ復辟ヲ断行シタルモノニシテ時機ヲ窺ヒ宣統帝ヲ斃サントスル大野心ヲ包蔵セルナラシ今ヤ革命ノ志士カ幾多ノ鮮血ヲ流シ漸ク多年ノ希望ヲ實現セル秋ニ於テ此暴挙ヲ敢テス断シテ有スヘキニ非ス飽迄

外務大臣、上海南京へ電報セリ(七日正午)

九六 七月八日 在福州森領事代理ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

福州地方官民ガ民国国旗ヲ掲揚シタル件

第二三三号 (七月九日接受)

本日当地官民ハ警察ノ諭示ニヨリ民国国旗ヲ掲ケタルカ右ハ南京臨時政府ノ成立ヲ祝フナリト云フ

九七 七月八日 清野兵庫縣知事ヨリ
本野外務大臣宛

復辟反对ニ関スル神戸在留中国人大會ノ模様

報告ノ件

兵發秘第九三九号 (七月十日接受)

大正六年七月八日

兵庫縣知事 清野長太郎

内務大臣男爵 後藤 新平殿

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎殿

警視總監 岡田 文治殿

大阪、神奈川、長崎府県知事殿

支那人大会ニ関スル件

モ其非ヲ鳴シ再ヒ起ツ能ハサラシメサルヘカラス故ニ我々ハ奮ツテ各督軍ニ後援シ共和ノ維持ニ努ムヘシ」云々

右演說終ルヤ楊寿彭ハ別紙決議文ヲ附議シ且ツ之ヲ馮副總統及全国各督軍竝ニ海軍司令官程璧光等ニ打電セン事ヲ滿場ニ謀リタルニ急激派ノ学生等ハ単ニ張、康ノミノ剿討ヲ以テ足レリトセス此際宣統帝ヲ加ヘ後日ノ禍根ヲ絶ツニ如カスト主唱シ結局決議文ノ中ニ溥儀ノ二字ヲ加フルコトニ修正滿場拍手可決シ即日打電スルコトトシ午後零時五十分散會シタリ

尚ホ吳錦堂、王敬祥、楊寿彭等ハ現今ノ模様ニテハ案外早ク解決ノ見込ナレハ軍資金醸集ノ必要ヲ認メス今後ノ形勢ニ依ツテ更ニ會合協議スルコトアルヘン云々ト語レル由ナリ

右及申(通)報候也

(別紙) 決議文

逆賊張勳康有為溥儀等謬然復辟報國殃民戰敗乞降仍須誅戮
民國締造頭顱膏血代価孔多君任梟雄竊竊叛服不常勝則受爵
膺王敗則乞憐免死狡焉思逞來軫方遵伏祈嚴懲首位并翦殲清

一 張勳ノ復辟ニ関スル件 九八 九九 一〇〇
莫以維國基而紆衆怒嚴懲切禱
神坂華僑全体泣叩

九八 七月八日 石光天津駐屯軍司令官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

段祺瑞國務總理承認政府公報及國務院二閣

スル件

天電第八十五号 (七月十日外務省接受)

(一) 段祺瑞ハ七日國務總理承認ノ宣言ヲ發シ八日ヨリ直隸公報ヲ改変シ政府公報ヲ發行スル筈ナリト、

(二) 段ハ七日國務院弁公署ノ組織ヲ改正シ内閣ト同様ノ職權ヲ行使スル筈ナルカ各総長ニ該當セル任務ヲ受持ツヘキモノ次ノ如シ

陸軍段祺瑞兼任、海軍湯壽銘、内務宋祥、外交陸徵祥、司法梁啟超、教育湯化竜、財政李恩浩、農商呂調元、交通葉恭綽、

青島北京関東スミ

九九 七月八日 在北京坂西陸軍大佐ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

張勳宣統皇帝ノ優待条件維持及徐州ヘノ安全

主政体ニ非サレハ此ノ紛争ヲ定メ人民ヲ濟フニ由ナシト幸ニシテ同胞中同志ノ者少カラス馮國璋君ノ如キ最モ深ク之ヲ賛成シ書面乃至特使ノ往復共ニ微スヘシ曾テ各省督軍ノ徐州ニ會議スルヤ本問題ヲ商議セリ其後時機尚早ノ故ヲ以テ頓挫シタルモ根本主義ニ於テハ變更スル所ナカリキ今ヤ幸ニシテ施行シ人民歡呼セリ若シ各省ニ於テ原議ニ基キ贊同ヲ表シタランニハ再ヒ泰平ヲ見ル難カラサリシモ世道陵夷人心古カラス遲疑觀望意氣私見ヲ以テ相争ヒ遂ニ兵端ヲ啓クニ至ル惟フニ今回義ヲ舉クル固ト救國濟民ヲ以テ志ト為ス毫モ權利ノ私ナシ議政大臣ヲ設ケタルハ国会成立前權宜ノ措置トシテ合議ノ制ヲ採リシノミ予ハ一介ノ武弁ヲ以テ其任ニ当リシモ本日徐太傅(徐世昌)ヲシテ完全ナル内閣ヲ組織シ国会ヲ召集シ憲法ヲ議定セシメシコトヲ奏請セリ徐太傅上京スル迄ハ内閣一切ノ事務ヲ暫ク王士珍ニ委ネ予ハ諸事解決次第隊ヲ率ヒテ徐州ニ帰ラン功罪共ニ世ノ公論ニ任ス敢テ腹心ヲ吐露シテ天下ニ謝ス云々(奉天雜報 七月八日 前一〇、四五)

一〇一 七月八日 在中國林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

一 張勳ノ復辟ニ関スル件 一〇一

七〇
歸還方ニ付我公使ニ調停ヲ哀願シタル件
(七月十日外務省接受)

本日張勳ノ參謀長方繩拭ノ言ニ依ルニ張勳英國公使館ニ通ルル件ハ単ニ一幕僚カ英國公使ノ内意ヲ偵察シタルニ過キスシテ張勳ハ依然段祺瑞側ノ提出条件カ宣統幼帝ニ害ヲ加ヘ且ツ不利ヲ來スカ如キコトアルニ於テハ更ニ最後ノ決戦ヲ為サント決心シツツアリ、張勳ハ又徐世昌ノ上京ヲ拒絶シタル今日王士珍、江朝宗、吳炳湘共ニ調停者トシテ力足ラス張勳ハ宣統皇帝ノ優待条件害セラレス又安全ニ徐州ニ歸リ得レハ他ハ何事モ問サルニ依リ此際我公使ニ調停ヲ哀願シ若シ聽カレサレハ段祺瑞側ニ北京城内ニ進入シテ治安ヲ紊乱セシメサル如キ忠告ヲセラレタシト依頼セリ

一〇〇 七月八日 在中國林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張勳ヨリ各省宛辭職ノ通電ヲ發シタル件

第九一七号 (七月九日接受)

往電第九一二号張勳ヨリ各省ヘ發シタル通電ノ大要左ノ通我國辛亥ヨリ以來政体不良ノ故ヲ以テ六年ノ間四度戦亂アリ海内困窮人民疲弊是レ皆共和ノ禍ナリ予謂ヘラク立憲君

張勳ノ復辟計畫失敗ノ場合ノ治安対策二閣シ

王士珍ニ注意シタル件

第九一九号 (七月九日接受)

張勳失敗ノ場合ニ於ケル掠奪ノ慘禍ヲ予想シテ北京市民ノ恐慌ハ今ヤ殆ト其ノ極点ニ達シ居ル処往電第九一八号ノ通張カ若シ英國公使館ニ避難スルコトモアラハ首領ヲ失ヒタル不規律ナル張ノ軍隊ハ如何ナル椿事ヲ惹起スルヤモ計リ難キ懸念アルヲ以テ張カ英國公使館ニ避難スルト同時ニ張勳ノ部下ヲシテ武装ヲ解除セシムルコトトセハ右ノ如キ危險ヲ予防シ内外人民ヲシテ安堵セシムルノミナラス段祺瑞等モ容易ニ入京シ時局ノ紛糾モ一層迅速ニ解決出來ルナラント思料セラルルニ付本使ハ昨日深更船津ヲシテ王士珍ニ右ノ趣注意セシメタル処其際王ハ御説ノ通張ノ軍隊ハ内外人憂慮ノ中心タルノミナラス自分ハ昨朝來張勳ニ於テモ勝敗ノ數歴然タルヨリ最早武力ヲ以テ抵抗スルノ決心ナキヲ看破シタルニヨリ懇々利害得失ヲ説ヒテ張ノ軍隊ヲ北京城北方ニ退却セシメシコトヲ要求シタルモ(勿論其ノ場合ハ段祺瑞側ニ向ヒテ一時停戦ヲ要求スル筈)昨晩方迄彼ハ承諾ノ意ヲ示ササリシ故ニ於テ更ニ張ノ最信任スル某氏並

直接軍隊指揮ノ任ニアル統領等ニモ同様利害ヲ説明シテ其ノ実行方ヲ勸告シ置キタルカ彼等ハ稍動キタル模様ニテ張勳ヲ勸誘シ今朝迄ニ何分ノ挨拶ヲ為スコトトナリ居ルモ張勳カ英國公使館ニ避難セムトスルニ至リシコトハ只今迄一向承知セサリシ併シ斯クナル上ハ張ノ軍隊ヲ城外ニ退却セシムルコトハ左程困難ナラサルヘキモ只今御注意ノ武装解除ハ双方ニ取り一層安全ナル方法ニテ至極賛成ナルニ付此際自分ヨリモ張ニ勸告スルト同時ニ英國公使ヲシテ愈々張ノ保護ヲ引受ケラルル場合ニハ公共ノ治安秩序維持ノ見地ヨリ張勳部下ノ武装解除ヲ条件トシテ承諾ヲ与ヘラルル様本使ヨリモ十分尽力アリタキ旨懇願シタル趣ナリ尚王ハ若シ段祺瑞愈々勝ヲ制シテ入京スルコトトナラハ徐世昌ハ是迄復辟ヲ賛成セルノミナラス寧ロ暗ニ之ヲ奨励シタル行懸上康有為等カ曾テ主張シタル虚君共和政ヲ行フ位迄折合ヘハ兎モ角純然タル共和政体ニ復旧スルコトトナラハ徐ハ断シテ此際入京政治ニ関与スル如キコトナカルヘシト附言シタル由ナリ

天津へ転電セリ

シ只今英國代理公使ノ命ニ依リ段祺瑞ニ面会シ張勳申出ノ次第ヲ伝ヘタル処段ハ昨日本官ニ向ヒ張勳ノ申出ニ応セサル意志ヲ陳ヘタルニ依リ一応本官ト相談ノ上ナラテハ確答シ難キニ付丁士源ヲ本官ノ許ニ遣ハシ相談ノ後回答スヘキ旨申陳ヘタリト語リタルニ依リ本官ハ貴電第一六一号御申越ノ次第ヲ語リ且ツ昨日段ニ語リタル事ハ全ク別問題ナル旨ヲ説明シ概略其ノ要領ヲ聞カセ尚ホ後刻段祺瑞ト面会ノ上本官ヨリモ段ニ対シ然ルヘク貴総領事ノ申出ヲ援助スヘキ旨話シタルカ英國総領事ト入達ニ丁士源段ノ使トシテ來訪英國総領事ヨリ申出ノ次第ヲ語リ尚ホ段ハ昨日本官ニ対シ回答ノ次第モ之アリタルニ付(往電第一六九号)日本側ニテハ何等調停ノ余地ナキ様執リタルヤモ知レサルニ今日英國側ノ相談ニ応スル時ハ日本側ノ話ヨリ英國側ノ話ヲ重ク執ルカ如キ誤解ヲ生センコトヲ虞レ英國総領事ニ対シテハ本官ニ相談ノ上ナラテハ何等回答出來サル旨陳ヘタル次第ナリト謂ヘルニ付本官ハ昨日話シタル事ト今日英國ノ申出テトハ全ク性質ノ異ナリタルモノニシテ英國ノ申出ニ対シテハ同國代理公使ヨリ林公使へ相談ノ結果林公使モ同意ノ上本官ニモ援助スヘキ訓令ヲ出シタル次第ナル旨語リタ

一〇二 七月九日 在奉天赤塚総領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)
飛行機ニヨリ北京城内爆撃禁止方段祺瑞ニ嚴重申入レタル件

第一六五号

天津ヨリ左ノ通 第一八四号 在支公使宛第一七〇号
貴電第一五五号ニ関シ七月七日日本官ハ飛行機ヨリ北京城内ニ爆弾ヲ擲下スルコトハ外国人ノ生命財産ニ危害ヲ及スノ虞アルヲ以テ段祺瑞ヨリ南苑軍ニ命令シテ北京城内ニ爆弾投下ヲ禁止スル様嚴重申入レタル所只今(午後九時半)段祺瑞ヨリ張弧ヲ通シテ右禁止方無線電信及普通電報ヲ以テ南苑ニ命令シ尚念ノタメ東路司令段芝貴ニモ電報シタル由申越シタリ、
外務大臣へ電報セリ

一〇三 七月九日 在天津松平総領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張勳身柄保障ニ関スル段祺瑞意向確認ノ件

第一九〇号

本官発在支公使宛電報第一七六号

貴電第一六一号ニ関シ七月八日午前英國総領事本官ヲ來訪

ルカ本官ハ貴電第一五二号ノ件ニテ段祺瑞ニ面会ヲ急キ居リタルニ付丁ト共ニ國務院事務所ニ至リ往電第一七四号ノ通り段ト会見シタルカ其節段祺瑞ハ本件ニ言及シ前記丁ノ陳ヘタルト同シキ事ヲ陳ヘタルニ付本官ハ又丁ニ語リタルト同様ノ事ヲ説明シタル処本件ニ関シ林公使モ同意ニシテ本官ニ右様ノ訓令ヲ發セラレタル以上ハ自分ニ於テ張勳兵ノ武装解除生命保障ニ異存ナク但シ弁髪ハ之ヲ斬ル事ヲ要シ張ハ政事犯人故外國公使館ニ逃ルレハ勿論如何トモスル事能ハス財産ニ関シテハ純粹ノ私有財産ハ手ヲ附ケサルヘキモ張勳ノ財産中ニハ公金ヲ私シタルモノ多キヲ以テ之等ハ嚴格ニ調ヘタル上没収セサルヲ得ス又張勳カ外國公使館ニ避難シ更ニ外國ニ逃亡スルカ又ハ外國租界内ニ入ル時ハ生命ハ安全ナルモ謀反ノ首魁逮捕ノ命令丈ハ形式上出ササルヲ得スト語リ尚ホ右ノ趣ハ之レヨリ人ヲ派シテ英國総領事ニ伝フヘシト謂ヒ要スルニ段ハ日本側ニ頗ル重キヲ措キ英総領事取次ノ申出ニハ大体異議ナキモ本官ト相談ナクシテハ回答セサリシモノナルカ林公使ノ訓令ヲ聞キ安心シタル態度ニテ英國ニ返答スル事トナリタリ、
外務大臣、在上海総領事、在南京領事へ電報セリ

一〇四 七月九日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

王士珍等ヨリ段祺瑞徐世昌等宛ニ早急入京時

局善処方要請ノ電報ヲ発シタル旨大總統内話

報告ノ件

第九二九号

七月九日早朝大總統ハ本使ニ対シ王士珍、江朝宗ヨリ七月八日附ヲ以テ段祺瑞、徐世昌、段芝貴、曹錕及ヒ前營各軍官ニ宛テ左ノ電報ヲ発シタル旨王、江兩人ヨリ通知シ来レル趣ヲ内話セリ

現ニ張勳、張鎮芳、雷震春ハ既ニ免職シ皇室ハ光緒帝皇后ノ懿旨ニ依リ統治ノ大權ヲ民国ニ帰スルコトニ定メタリ北京商民ノ驚愕非常ニシテ金融窘迫ハ既ニ極点ニ達セリ王士珍等極力維持ニ努メ幸ニ秩序ヲ安ンス依テ是非各軍ニ命令シ姑ラク入城セシメス以テ市民ノ恐慌ヲ免カレシメラレタシ昨日英、仏、日、米四国公使ハ飛行機ノ入城ニ関シ同時ニ詰問シ来レリ若シ再ヒ別ニ枝節ヲ生セハ大局何ソ想像ニ堪ヘン願クハ段祺瑞徐世昌ハ早ク北京ニ入りコノ残局ヲ維持シ北京數百万ノ生靈ヲシテ塗炭ニ逢フヲ免カレシメンコ

迄申添フ

為参考天津ニ転電アリ度シ

一〇六 七月九日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

北京公使會議ニ於テ段側ニ依ル張勳及其部下

ノ安全保障、張側ノ武装解除並右交渉ニ王士

珍ヲ当ラシムルコトニ一決ノ件

第九三二号

本使發天津宛第一七三号

七月八日雷震春陸軍部尚書辭職ト同時ニ二百萬發余ノ銃丸ヲ張勳ニ交付シタル旨江朝宗側ヨリ本使並ニ首席公使ニ内報アリ且張勳ニ於テ共和軍ニシテ城内ニ突入シ飽迄モ武力ヲ以テ對抗セハ自分モ亦自衛ノタメ決戦ヲ敢行セサルヲ得サルカ之レカタメ市街ヲ擾乱シ宮室ヲ震駭セシムルコトアルヘキモ右ノ如キ場合ニ於ケル人民財産等一切ノ損失ハ当然共和軍ニ於テ其ノ責任ヲ負フヘキ所ニシテ其ノ辺予メ外交団ノ承知ニ入レ置キタキ旨間接ニ本使並ニ首席公使ニ申出ノ次第(脱)秩序維持ノタメ此際進シテ相当ノ措置ヲ講スル必要アルヘキヲ慮リ非公式ニ各国公使會議ヲ開キ

一 張勳ノ復辟ニ関スル件 一〇六

トヲ祈ル

在天津総領事へ電報セリ

一〇五 七月九日 本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

段祺瑞側申出ノ借款ニハ応ゼザルコトト致シ

タキ旨訓令ノ件

第四九四号

貴電第八九九号ニ関シ支那ノ政局混沌タル今日ノ場合特ニ段祺瑞側ニ対スル借款ニ応スルコトハ自然内外ノ誤解ヲ招キ延テハ南方側等ノ我方ニ対スル猜疑ヲ一層深カラシメ却テ益々紛争ヲ解クニ困難ヲ増スノ虞アリト認メラルルニ付段側今回ノ申出ニハ乍残念セサルコトト致タシ尤モ将来段ノ基礎十分鞏固トナリタル場合ハ自ラ別問題ニ属ス尚貴電第八九九号ノ件ニ付テハ正金ヨリモ当方ニ伺出ノ次第アリ又別ニ河野ヨリ大倉組ヘノ来電ニヨレハ七月一日段側ヨリ山西省ノ官錢局紙幣抵当ニテ且政府確立後借款ヲナシ直ニ返済ヲナス了解ニテ百万円乃至二百万円ノ借款申込アリタル趣ヲ以テ之亦大倉組ヨリ伺出ノ次第アリタルカ当方ヨリハ右兩者共ニ之ヲ見合ハスヘキ様夫々指図シ置ケリ御舍

本件ニ関スル打合セヲ遂ケタルカ米国公使ハ苟クモ内政ニ干渉スル嫌アルカ如キ行動ハ主義上之レヲ避ケンコトヲ主張シタルモ之ニ対シ本使ハ此儘ニ放任セハ激烈ナル市街戦ヲ惹起スルナキヲ保シ難キニ付此際何トカ之レヲ未然ニ防止セシムルノ必要アリト信セラルル所元來張勳ハ復辟実行ト共ニ既ニ督軍ノ地位ヲ離脱セルノミナラス今般議政大臣等ノ官位ヲモ解カレタルコト故最早ヤ兵力ヲ維持スルノ地位及其ノ必要ヲ有スルモノニアラス從テ此ノ際速力ニ其ノ軍隊ヲシテ武装ヲ解除セシムルコトヲ勸告スルモ差支ナカクヘキ旨提議シタル所米国公使モ之ニ同意ヲ表シタルニ付之レカ方法ニ付種々協議ヲ遂ケタル末段祺瑞側ヲシテ張勳及其ノ部下ノ生命ノ安全ヲ保障セシメタル上其ノ武装ヲ解除セシムルコトトシ且右ニ付兩者ニ対シ交渉ハ兩者何レニモ密接ノ關係ヲ有シ且ツ最も好都合ノ地位ニ在ル王士珍ヲシテ之レニ当ラシムルコト然ルヘシトノコトニ一決シ早速首席公使ヨリ王ニ其ノ旨提議スルコトニ取計ヒタリ御舍迄ニ尚貴電第一七六号ニ関シテハ其ノ後往電第一六五号ヲ以テ申進シタル次第モ有之本使ニ於テハ前記公使會議ノ決議ヲ進行セシムル外斡旋ノ勞ヲ執ルコトハ姑ク見合セタキ

一 張勳ノ復辟ニ関スル件 一〇七 一〇八

所存ニ付右様御舎ノ上為念段側ニ此旨内報セシムル様致シ
タシ

大臣済ミ

一〇七 七月九日 齋藤在中國日本公使館附陸軍武官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

北京外交団ハ王士珍ニ対シ張勳及部下ノ武装

解除竝張ノ生命救助ヲ申入ルルコトヲ決議シ

タル件

支極秘六十号

(七月十一日外務省接受)

張勳ノ部下要人ヨリ今朝船津書記官ニ書面ヲ送り来リ段軍
ニシテ張軍ヲ攻撃スル為市内ニ侵入セハ已ムヲ得ス激烈ナ
ル市街戦ヲ惹起スヘク如何ニ慘憺タル状ヲ呈スルトモ其實
任段ニ在リトノ意ヲ公使ニ致サレシコトヲ申シ来レリ此ニ
於テ林公使ノ提議ニ依リ列國公使會議ヲ開キ張ハ已ニ其官
職ヲ辞シタレハ彼ノ部下軍隊ハ所謂私兵ニシテ最早戦鬪ス
ヘキ名義ヲ有セス然ルニ其背後ニ於テ責任ヲ段ニ嫁シ公使
団ヲ使噤シテ自己ノ利益ヲ計ラントスルハ甚タ卑怯ノ所為
ナルヲ以テ公使団ハ王士珍ニ速ニ彼ノ部下軍隊ノ武装ヲ解
除スヘキ手段ヲ取り其代リ張ノ生命丈ケハ之ヲ救助スヘシ

七六

ト申入ルルコトヲ決議シ主席和蘭公使ヨリ王ニ勧告スルコ
トトナシタリ

一〇八 七月九日 在中國林公使ヨリ
本野外務大臣宛

北京海濱間ノ交通阻害ニ関シ列國公使會議ノ

決定ヲ北京代表者梁敦彥及天津段祺瑞ニ夫々

申入レタル件

附屬書

七月五日附北京外交団回章第三二号写

北京首席公使ヨリ梁敦彥宛通告及松平首席領事

宛電報

テキスト回覧ノ件

公第二一〇号

(七月十六日接受)

大正六年七月九日

在支那

特命全權公使男爵 林 權 助(印)

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎殿

北京海濱間ノ交通ニ関スル件

支那軍隊ノ為北京天津間ノ鉄道及電信破壊セラレタリトノ
情報ニ接シ本月五日和蘭國公使館ニ於テ公使會議ヲ開キタ
ル結果右ハ一九〇一年議定書竝同年八月六日附公文書ニ依

CIRCULAIRE N^o. 32.

Libres Communications entre Pékin et la mer.

Le 5 Juillet 1917.

Le Doyen a l'honneur de faire circuler parmi ses
honorés Collègues le texte: 1, de la communications
qu'il a faite à Son Excellence Liang Tun-yen, 2,
du télégramme qu'il a expédié au Senior Consul à
Tientsin.

A propos de la-dite communication, Son Excellence
Liang a dit au Doyen qu'il avait déjà télégraphié à
Monsieur Foley au sujet de la réparation de la voie
fermée. Il ne manquerait pas d'ailleurs de faire part
au Général Chang Hsün de la communication du Corps
Diplomatique.

COMMUNICATION A SON EXCELLENCE

LIANG TUN-YEN.

Le Doyen du Corps Diplomatique a été prié par
ses Collègues d'inviter à Pékin les Représentants du
Pouvoir, et de faire inviter à Tientsin par le Doyen
du Corps Consulaire l'autorité Chinoise à s'abstenir
de tout ce qui peut entraver les libres communications
entre Pékin et la mer, par voie fermée et par télégraphie,
garanties par le Protocole de 1901 et par la lettre

越候間右様御了知相成度尚委細ハ別紙外交団回章第三二二号

写ニテ御承知相成度此段申進候也

本信写送付先

在天津松平総領事

(附屬書)

七月五日附北京外交団回章第三二二号写

北京首席公使ヨリ梁敦彥宛通告及在天津松平領事団首席宛電報
ノテキスト回覧ノ件

一 張勳ノ復辟ニ関スル件 一〇八

七六

officielle du 6 Aout 1901.

En cas d'observation de cette communication, les Puissances se réservent de prendre les mesures nécessaires pour assurer Elles-mêmes les libres communications entre Pékin et la mer

TELEGRAMME A MONSIEUR MATSUDAI.
RA, DOYEN DU CORPS CONSULAIRE A TIENTSIN.

Please invite Chinese authorities at Tientsin to refrain from any action that might hinder free communication between Peking and the sea, by train as well as by telegraph, guaranteed by Protocol of 1901 and by official letter of 6th. August 1901.

In case of nonobservation of this recommendation, which has also been addressed to those in power in Peking, the Powers reserve themselves freedom of action for securing themselves free communication between Peking and the sea.

(signé) Beelaerts
Dean of Diplomatic Body

一〇九 七月十日 在中國林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

ニ在ルヘシ黎元洪ハ辭職スルコトニ決定シ居リ共和政府ハ彼ヲ北京ニ置キテ優待スルコトナリ居レリト語りタリ本官ハ昨今徐世昌カ数日中ニ北京ニ入ルカ如キ噂アルモ如何ト尋ネタル所断シテ去ルコトナシト語りタリ尚段祺瑞ハ往電第一八一号ノ通り遅クモ今明日中ニハ北京ニ赴クコトナリ居リタルモ張勳側ノ武装解除意ノ如ク進捗セサルタメ二三日遅クルルコトナレリ

外務大臣、上海、南京、濟南へ電報セリ

一一一 七月十日 在上海有吉総領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張勳ト独逸側トノ關係ニ付内探ノ結果報告ノ

件

第一五七号

在支公使宛電第四八二号ニ関シ過般来当地独逸銀行カ他ノ外国銀行ノ紙幣ヲ集ムルニ努メ百万乃至百五十萬元ニ達セリトノ風説モ伝ハリ横浜正金銀行支店等ニテモ注意中ナリシモ今ニ其真相ヲ得ス若シ事實ナリトセハ其買弁等ニ於テ多少ハ形跡ヲ認メ得ヘキ筈ナルモ全然其事無キニ見テ単ニ風説ニ止マルモノト察セラレ独逸銀行カ未タニ多額ノ銀

一 張勳ノ復辟ニ関スル件 一一一 一二二

宣統帝退位ニ関スル情報ノ件

第九三六号

宣統帝退位ニ決シタル旨ノ情報ニ接シタルニ付七月九日船津ヲシテ江朝宗ニ確メシメタル所江ハ自分ハ議政大臣ニアラサルモ王士珍ト共ニ宮中ニ召サレ協議ノ結果愈々退位ニ決シ明十日正式ニ退位ノ上諭ヲ発表スルコトナレリ又同時ニ徐世昌ノ入京起用ヲ懇請シタルニ付兩三日中ニ徐モ上京スルナラント思料スル旨答へタル由ナリ

一一〇 七月十日 在天津松平総領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

時局ニ対スル段祺瑞ノ真意ニ付曹汝霖松平總領事ニ談話ノ件

第二〇八号至急

在支公使宛第一九六号
貴電第一七〇号ニ関シ七月十日曹汝霖ニ面会ノ際段祺瑞ノ真意ヲ確メタル所曹ハ共和政府ヲ北京ニ移シタル後ハ馮國璋直ニ北京ニ入りテ引統大總統ノ職務ヲ行フヘク既ニ馮國璋トモ全ク打合セ濟ナリ而シテ馮ハ来年ノ改選期迄其ノ任

ヲ貯藏シ居ルハ事實ナル趣ナルモ之ヲ他ニ融通スルヘ(脱)ニ付テハ容易ニ探知シ難シトノ事ナリ將又張勳ニ武器供給云々ノ事モ種々問合セタルモ何等形跡ヲ探リ得ルニ至ラズ英國総領事モ種々ノ噂ヲ聞クモ到底之カ事實ハ突止メ難シトナシ居レリ不取敢
在支公使へ転電セリ

一一二 七月十日 在上海有吉総領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

中国南方側ノ動靜ニ関シ報告ノ件

第一五八号(数語不足)

張勳失墜確實トナリテヨリ民党ニ於テハ引統キ段祺瑞馮國璋等ニ対シ依然反感ヲ懷キ何等カノ對抗策ヲ得ンコトニ苦心シ居ルモノト認メラレ岑春煊ハ最近更ニ四川ニ潜行シ同地ヲ根拠地トナサン計畫ヲ立テタル如キモ谷鐘秀張耀曾等ニ説カレ姑ク見合セタル趣ニテ蓋シ谷、張等ハ南京ニ於テ馮國璋ニ会合セル等ノ事實ニ見テ馮ヲ頼リテ将来ノ地歩ヲ獲得セム希望ノ外他意ナキモノノ如シ唐紹儀ハ黎元洪ニシテ南方ニ来ルノ勇氣(脱)若シクハ機会ナキニ於テハ姑ク絶望ノ外ナシトセルモ尚馮段等ノ結合ニテハ平和ハ保チ難

シトナシ孫逸仙ノ広東行ニ就テハ単ニ同地ノ情況(脱)計画ハ進メ難キモ愈々(脱)暗ニ同地方ヲ根拠トシタキ希望ヲ洩シ居レリ廬護軍使ハ去ル七日一混成聯隊ノ兵ヲ南京ニ送り全然馮ト態度ヲ一ニシ昨日ヨリ戒嚴令(脱)ナルカ如キモ彼ハ一方孫文等民党側ニモ通シ他方馮トモ脈絡ヲ保チ宜敷操リ居ルモノト察セラレ曩ニ民党側ニ於テ予期シ居タル第二艦隊ノ南下モ未タ実行セラレス薩鎮冰ハ数日前ヨリ南京ニ赴キ居リ程トモ氣脈ヲ通シ居ルモノノ如シ張繼ハ数日前来滬セル由ナルモ当館ニハ未タ近寄ラス山田等ニ対シ在天津石光少将カ張勳ヲ煽動シタルハ事實ナリトシ頻リニ憤慨シ居タル趣ナリ要スルニ民党側ハ未タ確タル對抗策ヲモ得ス尚情況見送リ中ト認ムヘク伍廷芳ノ外交総長固執モ民党側トハ格別ノ打合せモナキモノト見ヘ唐紹儀ノ如キハ余計ナルコトヲナシタルモノナリト冷笑シ居タリ商民側ニ在リテハ一ニ平和ヲ望ミ擾乱ニ倦ミ政局ノ変遷ニハ極メテ冷淡ナルコト例ノ如シ

北京へ転電セリ

一一三 七月十日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

林公使ヨリモ本大臣宛第九三五号ヲ以テ稟申ノ次第アリ且最近形勢ノ發展ニ顧ミ政府ニ於テモ更メテ慎重詮議ノ結果我資本家カ段祺瑞側ノ借款ニ応スルコトハ其ノ自由ニ任スコトニ決定致シタルニ付右ノ御含ミニテ可然御措置アリタシ就テハ目下懸案中ノ三菱借款モ決行セシメラレ差支ナシ又從テ在支公使宛往電第四九四号末段大倉組關係ノ借款談モ進行自由タルヘキ旨大倉組へ通シ置ケリ右至急在支公使へ転電シ公使ニ於テモ以上ノ趣旨ニテ措置相成度旨本大臣訓令トシテ申添ヘラレタシ

一一五 七月十一日 在天津松平総領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

段祺瑞ノ張勳ニ対スル今後ノ処置ニ関スル意
向ヲ確メタル上北京ノ市街戦ヲ見ズシテ時局

解決方申入レタル件

第二一二号

(七月十二日接受)

本官発在支公使宛電報第二〇〇号

貴電第一八四号七月十一日午前七時接到其後貴電第一八五号第一八六号第一八七号統テ接到シタルカ既ニ段祺瑞ト会見ノ約成リ居リタルニ付本官ハ午前九時段ニ面会貴電第一

一 張勳ノ復辟ニ関スル件 一一五

黎元洪我公使官舎ヨリ「グランド、ホテル」
ニ引揚希望ニ付忠告ヲ与ヘタル件

第九四二号

黎元洪ハ其ノ後別状ナク本使官舎ニ滞在中ナルカ七月八日青木中将ヲ経テ最早ヤ時局モ略一段落ヲ告ケ此ノ先左程危険ノ虞ナキヤニモ認メラルルニ付一先ツ「グランドホテル」ニ引揚ケタキ所存ナル趣ヲ以テ右ニ対スル本使ノ意見ヲ承知シタキ旨申出タルニ付不取敢同中将ヲ経テ段ノ軍隊ノ入京スルモノ一兩日ノ間ニアルヘク左スレハ北京ノ安寧モ直ニ確保セラルヘキニ付右段ノ軍隊ノ入京後又ハ張勳ノ軍隊ノ武装解除ヲ待チテ「ホテル」ニ引移ラルルコトトスル方得策ナルヘキ旨答へ置キ尚別ニ本使ヨリモ此際軽々敷進退セサル方然ルヘキ旨忠告ヲ与へ置キタリ

一一四 七月十一日 本野外務大臣ヨリ
在天津松平総領事宛(電報)

我資本家ノ段祺瑞側借款ニ応スルコトハ其自
由ニ任ス旨決定ノ件

第二二二号 至急

貴電第二一〇号ニ関シ

八四号第一八五号第一八六号ノ大要ヲ内報シ更ニ其後武装解除ヲ肯セサル由ヲ語り(第一八七号ハ語ラス)今後ノ処置ニ関スル段ノ意向ヲ尋ネタル処段ハ張勳ハ事實外国ノ法權ノ下ニ居ラハ生命ハ安全ナルモ謀叛者ノ巨魁ナルヲ以テ政府トシテハ此ノ際自然生命ノ保障ヲ与フルコトハ困難ナリ尤モ張ハ昨日徐世昌ノ許ニ人ヲ遣ハシ自分ノ死後ノ事遺族ノ保護竝財產ノ保全ヲ依頼スルノ意ヲ表示来リタルニ依リ徐世昌ヨリハ罪ハ家族ニ及ハサルコト純然タル私有財産ハ段祺瑞ニ於テ保全スヘキニ依リ身柄ハ至急支那法權ノ及ハサル地点ニ遁カレ部下ノ武装ハ遲滞ナク解除セシムヘキ旨申送リタルコトヲ語り尚ホ張勳ニ於テ依然武装解除ヲ肯セサル間ハ武力ヲ以テ解決スルノ外ナキカ天壇ニ在ル張軍ハ目下捕虜同然ニシテ抵抗スル能ハサルヘク只南池子ニ於ケル張勳邸ノ附近ニ在ル兵ノミ抵抗スル次第ナル故榴弾ヲ以テ南池子ノ地点ノミ攻撃セハ他ニ害ヲ及ホサスシテ彼等ヲ逃走セシメ得ル故愈々ノ場合ニハ右様実行スル筈ナル旨申述ヘタルニ付本官ハ城外ヨリ仮令榴弾ナリトモ南池子ヲ砲撃スルニ於テハ公使館区域ニ砲彈ノ落下スル虞アルニ付斯ノ如キハ到底列国ニ於テ黙過スルコト能ハサルヘキ旨述

へタル処段ハ目下北京城門ノ内九ヶ所ヲ守備スル兵ハ我方ノ兵ナルノミナラス天壇ノ張勳兵ハ前述ノ通ナル故北京ノ城門内ニ兵ヲ進ムルコトハ砲撃ヲ用ヒスシテ容易ニ行ハルヘキニ付自分ノ考ニテハ極メテ近距離例へハ前門ノ城壁上(外国守備区域外)ニ砲ヲ置キ以テ張勳邸ヲ攻撃スレハ他ニ危険ヲ及ホスコトナカルヘク而シテ過日来ノ經驗ニ徴スルニ数発ノ砲彈ヲ送ラハ張兵ハ武器ヲ棄テ辮髪ヲ剪リ遁カラルコト疑ナク彼等ハ既ニ生命ヲ全フスルニ汲々タルヘキニ付掠奪等ヲ為スノ余裕ナシト信ス

尚ホ公使館区域ニ彼等カ入ラサル様南池子ニ向ヒ公使館区域ヲ後ロニシテ兵ヲ配置シタキ考ナリト此後ノ計画ヲ開陳シタルニ付本官ハ目下徐世昌ヨリ張勳ニ勸告シタル次第モアリ又王士珍ニ於テモ公使館ノ申出ニ對シテ極力武装解除ニ努メ居ルコトモアルニ付貴方ニ於テモ出来ル限り北京ノ市街戦ヲ見スシテ解決スル様尽力アリタキ旨本官一己ノ考トシテ申出タルカ段ハ徐世昌カ張ノ先輩タル關係モアルニ付前記徐ノ勸告ハ大ニ効力アルコト期待シ居ルカ万一効力ナシトスルモ愈々最後ノ手段ヲ執ル前ニハ林公使及他ノ公使ニ通知スヘキ旨申述ヘタリ

断絶スルニ至レリ然レトモ傅良佐ノ言ニ依レハ王士珍、江朝宗、吳炳湘ノ三名ハ張勳ノ部下軍隊ヲ説諭シ部下ヨリ張勳ニ説カシムルノ法ヲ講シ目下交渉ヲ進メツツアリ斯クスルモ尚目的ヲ達シ得サルニ於テハ外交團ニ通告ヲ發シ攻撃ヲ開始スル管ニシテ傅良佐ノ如キ本夜ハ模範團ノ管内ニ宿泊シ攻撃ニ関スル諸計画ヲ講究スル管ナリト要スルニ情況ハ漸次險惡トナリツツアリ

台湾、上海、中支那、旅順、青島、天津スミ

一一七 七月十一日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張勳ハ段側提出ノ条件ヲ拒絶シタルニ付段ハ
兵力ニ訴ヘ張ノ住居ヲ攻撃スルニ決シタル件

第九五四号(至急) (七月十二日接受)

首席公使ヨリ、十一日午後十時汪大燮ヨリ次ノ如キ通告ニ接シタル旨通知シ来レリ

段祺瑞ヨリ電話ヲ以テ張勳ハ段側ヨリ提出シタル一切ノ条件ヲ拒絶シタルヲ以テ段ハ兵力ニ訴ヘテ其住居ヲ攻撃スルニ決シタリ但シ戦鬪ノ範圍ヲ局限シ外国人ニ危害ヲ加ヘザル様措置スヘシトノ趣通告アリタリ

外務大臣へ転電セリ

一一六 七月十一日 在北京坂西陸軍大佐ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

張勳ノ抗戦決意声明並王士珍等ヨリ張勳部下
軍ノ武装解除方ニ付説諭交渉中ノ件

坂極秘電一三一号 (七月十二日外務省接受)

張勳ノ參謀長方繩拭ノ語ル処ニ依レハ張勳ハ本日定武軍幹部ヲ集メ予ハ人ノ為ニ誤ラレ遂ニ挽回スヘカラサル失敗ヲ招キタリ其責皆我ニアリ予ハ死ヲ決シ男子最後ノ面目ヲ維持セントス汝等今ヨリ散シテ里閭ニ帰ラント欲スルモ予ハ決シテ妨ケス只尚予ト生死ヲ共ニセント欲スルモノハ我ト行動ヲ共ニセヨト述ヘタルニ衆皆武装解除ノ屈辱ニ忍ヒス進シテ張勳ト生死ヲ共ニセントヲ誓ヘリ其後歩軍統領ノ高級副官米来リ張勳ニ速ニ公使館区域ニ去ルコトヲ勸メ然ル時ハ其部下軍隊ノ生命ト位置トハ法ヲ設ケテ之ヲ確保スヘシト述ヘタルニ張ハ断然之ヲ拒絶シ其後又江朝宗自ラ來訪シ張ノ生命ヲ保証シ且其部下軍隊ノ武装ヲ解除スヘキヲ申込ミタルモ張ハ予カ生命ノ如キハ保証セラルルノ要ナシ焉ノ屈辱的降服ヲ敢テセンヤトテ亦之ヲ拒絶シ茲ニ交渉全ク

尚ホ右ト同時ニ劉崇傑本使ヲ來訪シ前記通告ト同一ノ趣旨ヲ語り且攻撃ハ明朝迄ニ行ハルヘシト想像セラルル旨内話シタリ(十一日後一一、三〇)

在天津總領事へ電報セリ

一一八 七月十二日 在天津松平總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

段祺瑞軍ノ張勳邸攻撃中ナル旨情報ノ件

第二一九号 至急

往電第二一七号当地北京間ノ電信電話一切不通ナルヲ以テ詳細ノ戦況ヲ得難キモ七月十二日午前十一時曹汝霖カ本官ニ語りタル所ニ拠レハ戦鬪ハ午前四時頃ヨリ起リ天壇ノ方ハ七時迄ニ片附キ只今張勳邸ヲ攻撃中ナル旨鉄道電話ニテ通報ニ接セル旨並南池子附近ニ火災起リタル模様ナル旨語リタリ又当地米國司令部ニ達シタル無線電信ニ拠レハ砲彈小銃彈公使館区域ノ上空ヲ飛ヒ張勳邸ニ集中シツツアリテ日本人一名米人三名米國兵一名伊太利人一名負傷シタル由同司令部ヨリ我司令部ニ通報アリタル由、

公使、上海、南京、濟南へ電報セリ(七月十二日午後一時發)

一 張勳ノ復辟ニ関スル件 一一九 一二〇 一二二

八四

一一九 七月十二日 在天津松平総領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

公使館区域ノ上空ヲ重砲彈飛来スル如キ攻撃
法ハ危険ナルニ付防止方段祺瑞ニ嚴重申入レ
タル件

第二二〇号 至急 (七月十三日接受)

往電第二一九号ニ関シ米國側通信ニシテ事実トスレハ段軍
ニ於テハ天壇附近ヨリ砲撃シ居ルモノカト思ハルルニ付本
官ハ直ニ電話ヲ以テ曹汝霖ニ対シ右情報ヲ通シ公使館区域
ノ上空ヲ重砲彈ノ飛来スル如キ攻撃法ハ昨日段祺瑞ノ本官
ニ内話シタル所トモ異リ重大ナル結果ヲ生スヘキニ付速ニ
命令ヲ發シテ右危険ヲ防止スル様段祺瑞ニ伝ヘラレタキ旨
嚴重申入レタリ曹ハ此ノ点ニ関シテハ既ニ嚴命下シアル故
万然ルコトナシト思考セルモ直ニ右採取計フヘキ旨答ヘタ
リ(七月十二日午後一時発)

一二〇 七月十二日 在天津松平総領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

段張兩軍ノ戦闘情報ノ件

第二二二号 至急

天津ニ転電セリ

一二二 七月十二日 在天津松平総領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張軍潰敗張ハ和蘭公使館ニ遁ケ戦闘終了シタ
ル旨報告ノ件

第二二八号 (七月十三日接受)

往電第二二二号北京ニ於ケル戦闘ハ八時間ニ亘リタルカ張
軍潰敗張ハ和蘭公使館ニ遁ケ其ノ家族ハ墮地利公使館ニ入
リ部下ハ逃走或ハ降服シテ戦闘終了シタル旨七月十二日午
後北京ヨリ情報アリタリ公使館ハ無事詳細ハ北京ヨリ通報
アルヘキモ右不取敢報ス
上海、南京、濟南ヘ電報セリ(奉天発十二日後一〇)

一二三 七月十二日 在北京坂西陸軍大佐ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

停戦後ノ治安問題ニ関シ土肥原ヲシテ傳良
佐ニ注意セシメタル件

坂極秘電百三十四号 (七月十三日外務省接受)

段軍ハ本日払曉ヨリ一斉ニ各門ヨリ進入シ攻撃ヲ実行午前
十時前後ニ於テ天壇ノ張軍先ツ降り十一時張勳亦力屈シテ
一 張勳ノ復辟ニ関スル件 一二二 一二三 一二四

七月十二日後二時段祺瑞ニ達シタル報告ニ依レハ段軍ハ午
前九時ヨリ張勳邸ヲ攻撃シ初メタルニ張軍ノ抵抗頗ル猛烈
ニシテ殊ニ大砲ノ照準正シク頗ル我軍ヲ悩マシタルモ遂ニ
我砲火ノ為ニ撃攘セラレタリ今張勳ハ自動車ニ乗り外国人
ニ保護セラレテ公使館区域ニ入り墮地利公使館ニ遁レタリ
張邸ニ在ル残兵ハ今尚ホ抵抗スルヲ以テ之ヲ殲滅スル筈云
々

往電第二一九号米國司令部ハ英國司令部ノ誤ナリ(十二日
午後三時三十分發)

在支公使、在上海、南京、濟南、奉天各領事

一二一 七月十二日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張軍今尚前門ヲ支持スルニ付戦闘終局迄時間
ヲ要スル旨報告ノ件

第九五六号 (七月十三日接受)

七月十二日午前三時頃ヨリ段芝貴曹錕ノ各軍城門ヲ入り四
時三十分砲撃ヲ開始シ目下張軍ト戦闘中張軍ハ今尚前門ヲ
支持セルニ付戦闘終局迄ニハ尚時間ヲ要スヘシ(午前六時
三十分)

和蘭公使館ニ走リ和蘭公使ハ攻撃軍ニ停戦ヲ申込ムニ及ヒ
午後一時ニ於テ各方面共銃砲声ヲ漸ク減スルニ至レリ仍テ
土肥原ヲ傳良佐ノ許ニ派遣シ比較的迅速ニ効ヲ収メ得タル
ヲ祝スルト共ニ從來ノ經驗ニ省ミ戦後夜ニ入り往々ニシテ
軍隊ノ不良分子ト無頼漢トカ交結シテ奪掠ヲ擅ニスルコト
アリ本夜万一斯ノ如キ不祥事アラシカ忽チ列國ノ同情ヲ失
ヒ功ヲ一簣ニ欠クニ至ルヘキニ依リ今日ヨリ予メ十分ナル
準備ヲ整ヘ万一ニモ斯クノ如キコトナキヲ期スヘキ旨注意
セシメタルニ傳ハ直ニ之ニ同意シ一面段祺瑞ノ許ニ使ヲ派
シ一面命令ヲ陸軍部ニ下シ成ルヘク速ニ張勳兵ヲ処置シタ
ル後進入軍隊ノ大部ハ之ヲ城外ニ移シ城内ノ治安ハ専ラ警
察及歩軍統領ノ部隊ニテ任スヘク処置ヲ為セリ

一二四 七月十二日 石光天津駐屯軍司令官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

軍用電線ノ中国軍ニ依ル破壊ニ関シ陸宗輿ニ
申入ノ件

天電百十四 (七月十三日外務省接受)

本日中島通訳官ヲ本職ノ代理トシテ國務院事務所ニ遣ハシ
段祺瑞ノ代理陸宗輿ニ面会シ先日段祺瑞ハ本職ニ対シ京津

八五

間ノ交通ニ関シテハ極力其保持ニ努ムヘキコトヲ約セシニ拘ハラス今朝本軍ノ軍用電線ハ再ヒ破壊セラレ我通信上迷惑一方ナラサルハ本職ノ遺憾トスルトコロナル旨ヲ述ヘ且破壊箇所ノ修繕ノタメ今朝九時半発汽車ニテ若干ノ兵ヲ派遣シタルコトヲ附言セシメタリシニ陸宗輿ハ今回ノ電線切断ハ張勳側ニテ為シタルモノト信スルモ司令官ノ申越ハ直チニ段ニ伝達スヘシ又電線破壊ノ箇所ニ就テハ段ヨリモ既ニ其処置ヲ命シ置キタリト答ヘタリ

一二五 七月十二日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張勳參謀長張勳ノ子供数名ノ保護方申出ノ件

第九五七号

(七月十三日接受)

十二日午前八時張勳參謀長万繩拭変装シテ斎藤少将官舎ニ来リ今晚頻リニ奮戦セルモ衆寡敵シ難ク頗ル苦心シ居ル趣ヲ語リ差向キ張勳ノ子供数名保護ヲ願ヒタキ旨申出タルニ付公使館区域迄送届クルニ於テハ保護ヲ与フヘキ旨ヲ答ヘシメ尚同時ニ既ニ奮戦数時間ニ及ヒタル以上張勳ノ面目モ立ツ次第故此ノ上無益ノ犠牲ヲ払フコトナク大抵ノ所ニテ白旗ヲ举ケ事ヲ収ムル方然ルヘキ旨勸告ヲ与ヘシメ置キ

一二七 七月十二日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張勳和蘭公使館ニ遁入シ調停依頼ヲ申出デタ

ルニ付善後策ニ関シ公使會議ニ於テ決定ノ件

第九六〇号

(七月十四日接受)

往電第九五九号ニ関シ十二日午後〇時半和蘭公使館ニ於テ公使會議ヲ催シ先ツ首席公使ヨリ本日午前十一時頃張勳突如来館調停ヲ依頼シタキ旨申出テタルニ付武器引渡シノ意アルヤヲ尋ネタルニ断シテ然ル考ヘナシ飽迄対等ノ地位ニテ妥協シタシト陳ヘ如何ニモ不得要領ナルニ依リ其儘館内ニ止メ置キアル旨ヲ語リ次テ善後策ニ関シ一同評議ノ結果差向首席公使ヨリ歩軍統領ヲ介シ張勳部下ニ向ヒテ張ハ目下公使館区域内ニ在リ最早指揮ヲ為シ得サル地位ニ在ル旨竝ニ張勳部下ニシテ武装ヲ解除セハ共和軍ニ於テ其生命ヲ保障スル意嚮ナルコトヲ通スルコトニ決定シタリ首席公使ノ語ル処ニ依レハ右會議ニ先チ同公使ヨリ張勳来館ノ次第ヲ汪大燮ニ伝ヘタルニ汪ハ張勳軍隊ニシテ武装ヲ解除セハ其生命ハ保障シ得ヘキ旨確言セル由ナリ(十二日後四、〇〇)

タリ(八時半)
天津へ転電セリ

一二六 七月十二日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張勳独逸兵ニ護衛セラレ和蘭公使館ニ逃込並

同家族八塊太利公使館ニ避難シタル件

第九五九号

十二日午前十時半仏国公使館一等書記官来訪只今張勳独逸兵(赤十字徽章ヲ帶ヒ居レルヤノ説モアリ)護衛セラレ自動車ニテ和蘭公使館ニ逃込ミ同時ニ張ノ家族ハ塊太利公使館ニ避難シ尚張軍ノ負傷兵若干ハ独逸病院ニ収容セラレタル旨ヲ語レリ將又他ノ方面ヨリ聞ク所ニ依レハ西山ニ抑留シアリタル独逸兵ハ最近解放セラレ其一部ハ張軍ニ加ハリ作戰計画ニ参与シタル趣ニ之レアリ張勳ヲ護衛シタルハ蓋シ右独逸兵ナルヘシト察セラル前記ノ事実ヲ綜合スルニ張勳今回ノ行動ハ独逸側ト何等カノ關係アルニアラズヤト存セラル精探ノ上更ニ電報スヘシ
天津総領事へ電報セリ

在天津総領事へ転電セリ

一二八 七月十三日 在天津松平総領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張勳兵ノ送還状況副總統ノ上京黎元洪ノ処遇

對南方策及新内閣員ニ関シ段祺瑞談話ノ件

第二三五号

(七月十四日接受)

七月十三日後五時本官ハ其後ノ形勢ヲ尋ネン為段祺瑞ヲ訪問シタルカ段ハ本日上海セントシタルモ天壇ニ在ル張勳兵ヲ数回ノ汽車ニ分乗セシメ北京ヲ出シ居ルニ付上海出来サルコトトナリタルヲ以テ明十四日入京ノコトトセリ右張勳兵ハ山東出身ナルヲ以テ濟南兗州ニ送り同地ニテ解散(脱)ノ筈ナリ

海州ニ在ル十六營ノ張勳兵ハ江蘇督軍ノ指揮ニ帰セシメ徐州ニ於ケル張勳兵ハ倪嗣冲ヲシテ節制セシメ鉄道沿線ニ在ル土匪討伐ノ名義ヲ以テ遠ク内地ニ派シ徐州ニハ我方ノ兵三營ヲ送り鉄道ノ安全ヲ期セシムル積ナリト云ヒ本官カ副總統ノ上京及黎大總統ノ処置方ヲ尋ネタルニ対シ段ハ副總統ニハ既ニ電報ニテ上海ヲ促カシタルモ前陳津浦線ノ安全ヲ保障セラルルヲ俟チ上海スルコトトナルヘク又黎大總統

ハ自分入京ノ上親シク貴国公使館ニ赴キ林公使ノ大總統保護ニ対スル厚意ヲ謝シ且ツ黎總統ニハ自邸ニ帰還センコトヲ勸告シ帰邸ノ上ハ前大統領トシテ十分ノ優待ト保護ヲ加フヘク今後復職スル様ノコトナキ旨ヲ述ヘタリ本官ハ昨今南方ニ於ケル不穩ノ状態ニ関シ尋ネタル処段ハ民党有力者数人カ広東ニ赴キタルハ事実ナルモ若シ彼等ニシテ事ヲテテ直ニ停戦スヘキ旨ヲ電報シ若シ聴カサルニ於テハ北京ニ入りタル上兵ヲ四川ニ入ルヘシト申送りタルカ此ノ如ク實力ヲ以テスルニ非サレハ到底統一シ難シト語り尚ホ新内閣員ニ就テハ過日來新聞紙上ニ現ハレ居ル(往電第一九五号)分ニ變更アルヘキヤト尋ネタル処段ハ右ハ既ニ副總統ニ相談ニ及ヘルモ未タニ正式ノ返答ナク多少ノ變更ヲ見ルコトトナルヘシト語りタリ

在支公使在南京領事へ電報セリ

帰還セシメ護衛兵ハ正午限り悉ク撤回セシメタリ

一三〇 七月十三日 在中国林公使ヨリ 本野外務大臣宛(電報)

段祺瑞ノ入京時期ニ関シ報告ノ件

第九六七号

十三日曹汝霖来訪ノ節本使ハ曹ニ対シ段ノ入京期ヲ尋ネタル所多分本日天津出發豊台ニ泊明日入京スヘキ旨答ヘタルニ付本使ハ北京ニ於ケル秩序ハ可成速ニ回復スルノ必要アルニ付本日ニモ入京セラルル様取計ハレタキ旨述ヘタル上尚序ヲ以テ曹ノ参考迄往電第九六二号ノ次第ヲ語りタル所曹ハ矢張り黎ノ復職ヲ見サルカ如キ口吻ヲ洩シ居タリ

在天津総領事へ電報セリ

一三一 七月十三日 在中国林公使ヨリ 本野外務大臣宛(電報)

張勳等独逸兵営内ニ入込ミタル件

第九七一号

張勳ハ十二日夕独逸兵営内ニ移転セリ又万繩拭ハ往電第九五八号ノ通齊藤官舎ニ立歸リタル後更ニ外出シタル所恰モ張勳和蘭公使館ニ逃ケ込ミタル報道ニ接シタルニ付同人収

一 張勳ノ復辟ニ関スル件 一三〇 一三一 一三二

一二九 七月十三日 在中国林公使ヨリ 本野外務大臣宛(電報)

復辟事変ニ際シ我居留民ノ情况報告ノ件

第九六六号

今回ノ事変ニ際シ我カ居留民ニ対シテハ時局切迫セルニ依リ必要ノ場合ニハ兼テ救護申合規定ノ通り何時ニテモ非常集合所ニ避難出来ル様準備シ置クヘキ旨予メ通知シ七月十一日形勢愈々危険トナリタルヲ以テ更ニ集合所ニ避難スル様通知シ右集合所ニハ五六名ヨリ三十余名ノ兵ヲ派遣シテ護衛セシメタルカ危険地帯ニ於ケル居留民ハ全部引上ケタルモ是等ハ比較的少数ニテ其他ハ家族ノミヲ避難セシメ大部分ハ依然各自宅ニアリテ警戒シ居リタルモノ多カリシ戦鬪中各所ニ流弾ノ飛来甚々多ク外国人ノ負傷者五名(内米四、伊太利一)ヲ生スルニ至リタルモ我カ居留民中ニハ幸ヒニシテ死傷者ナシ(但シ軍隊ノ歩哨一名輕傷ヲ受ケタルハ既報ノ如シ)尤モ窓硝子其他家屋等ニハ多少ノ損害アリシモ格別ノコトナカリシ尚ホ昨夜迄ハ戦後掠奪等ノ危険無之ヲ保シ難ク引続キ警戒ヲ加ヘタルモ本日ニ至リ最早右ノ如キ懸念ナシト認メタルヲ以テ我カ居留民ハ全部自宅ニ

容ハ之ヲ拒絶スルコトニ決シ再ヒ帰来セル際齊藤ニ於テ面会ヲ謝絶セルニ結局同人モ張勳ト共ニ独逸兵営ニ入込ミタル由和蘭公使ハ梁敦彦ヲ館内ニ引受ケ居ルカ此上張勳迄引受クルハ頗ル迷惑ナリト語り居レルニ付便宜上其ノ管理ニ属スル独逸兵営ニ移シタル次第ナルヘシ將又張勳ノ家族和蘭公使館ニ入りタル旨往電第九五九号ヲ以テ報告シ置キタル処別電第九七二号ノ通独逸兵営ニ入りタルモノノ如シ

右天津総領事へ電報セリ

一三二 七月十三日 在中国林公使ヨリ 本野外務大臣宛(電報)

張勳及家族独逸兵営ニ收容中ナル情報ノ件

第九七二号

七月十三日クウホンミンハ船津ニ対シ大要左ノ通り内話セリ

張勳ノ家族ヲ奥地利公使館ニ避難シタリトノ噂アルモ事實無根ナリ自分ハ目下奥国公使館ノ保護ヲ受ケタルカ自分ノ聞ク処ニ依レハ張ノ家族ハ十二日午前八時頃二名ノ独逸人ニ救ヒ出サレ直ニ独逸兵営ニ收容セラレ其後間モナク張自身モ前記二名独人ニ救出セラレ一先ツ和蘭公使館ニ入り同

日午後六時頃、是又同シク独逸兵營ニ赴キ家族ニ合セリ右独逸人カ何者ナルヤ承知セサレトモ張勳及家族ノ收容ハ前以テ打合アリシモノノ如シ尤モ張自身ハ多少部下ヨリ避難ヲ強要サレタル形跡アリ云々
天津へ転電セリ

一三三 七月十四日 石光天津駐屯軍司令官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

段祺瑞天津商務總會ニ二百萬元ノ借款ヲ申込ミタル件

天電第一〇九号(大臣同文) (七月十六日外務省接受)
段祺瑞ハ國務總理ノ名ヲ以テ十一月天津商務總會ニ二百萬元ノ借款ヲ申込ミタルカ該會ハ未タ何等ノ回答ヲ發セスト因ニ段政府財政甚タシク窮迫セルハ確ナリ

一三四 七月十四日 齋藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
田中參謀次長宛(電報)

北京協商國公使會議ニ於テ張勳ノ復辟計画ハ獨塊ト關係アリトシ段祺瑞ニ對獨塊戰ニ參加ヲ勸告スルコトニ決シタル件

支極秘第七六号 (七月十六日外務省接受)

努メテ入閣ヲ肯ゼズ湯化竜又梁ト相談ノ為本日天津ニ去ルト云フ次第ニテ矢張り成立難ヲ感シアリ段ハ決シテ非難スヘキ人物ニアラザルモ其左右ニ小策士多ク陰謀ヲ事トシ而モ彼等間ニモ各々其步調ヲ異ニシアルヲ以テ今後モ果シテ確定的ノ政策ヲ實施シ得ルヤ否ヤ南方ノ反抗の運動漸次具體的ナラントスル今日充分注意ヲ要ストテ頗ル氣遣ヒ居タリ
本日以後黎元洪ノ請求ニ依リ土肥原大尉ヲ毎日東廠胡同ノ寓居ニ派遣シ相互ノ連絡ヲ取ラシムルコトトセリ
上海、青島、旅順、天津、中支那、台湾スミ

一三六 七月十六日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

黎元洪仏國病院ニ入り更ニ仏國公使館へ移転セントシタル事情報告ノ件

第九八六号 (七月十七日接受)

黎元洪ハ十六日早朝自邸ヲ出テ公使館区域内ニ在ル仏國病院ニ入り間モナク仏國公使館ニ移転セントス其ノ成行左ノ通

一 張勳ノ復辟ニ関スル件 一三六 一三七

昨十三日午前協商國公使會議ノ席上各公使共張勳今回ノ舉ニ就テハ獨塊ト關係アリトノ説ニ一致セリ、其結果段祺瑞ノ上京ヲ俟テ獨塊ニ對スル宣戰ヲ勸告シ同時ニ支那ノ參戰問題ニ関スル希望条件ヲ商議スルニ決セリ、又獨逸捕虜カ復辟派ニ依リテ和蘭公使ノ管理スル獨逸兵營ニ移サレタル後漫リニ外出シアルハ黙過スヘカラサル事件ナルヲ以テ先ツ以テ協商國公使団体ハ和蘭公使ニ斯カル事實ヲ承知シ居ルヤ否ヤヲ質問スル筈ナリ、要スルニ獨塊人カ各方面ニ於テ陰謀ヲ逞シクシ今回ノ復辟ニ就テモ之ニ援助ヲ与ヘ支那ヲシテ參戰セシメサラント企図シタルカ如シ、又張勳ニ對スル一般外國人ノ感想ハ普通ノ政治犯ヲ以テセス人道ニ背キ生靈ヲ毀損シタル冒犯者トシテ目シツツアリ。

一三五 七月十五日 在北京坂西陸軍大佐ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

段祺瑞ノ新内閣組織ニ関シ黎總統談話ノ件
坂極秘電一三九号 (七月十六日外務省接受)

黎總統ノ語ル処ニ依レハ段總理ハ來京後直ニ國務院ニ出頭シ直ニ新内閣組織ノコトニ努メツ、アルモ汪大燮ノ外交、范源濂ノ内務、熊希齡ノ財政タケハ内定シタルモ梁啓超カ

リトノ説アリ)突然護衛隊將校二名ヲ殺害シ且ツ黎ノ居室ヲ目覓ケテ発砲シタル上更ニ逮捕セントシタル者一名ヲ殺シタル後往來ニ逃ケ出シ直ニ護衛隊ノ為逮捕殺戮セラレタル出来事アリ黎ハ之ヲ聞知シ俄ニ恐怖ノ念ニ襲ハレ小菅軍医正カ過日來黎ヲ診察シ居タル關係上不取敢我同仁病院ニ引移ルコトニ内定シ同病院ニ於テ夫々手配中同病院カ公使館区域外ニ在リ尚不安心ナリトノ説出テ遂ニ仏國病院ニ赴クコトトナリ一旦同病院ニ入りタルモ張勳ノ參謀長万繩拭同病院ニ滞在シ居ルコトヲ発見シ又々不安ノ念ヲ起シ仏國公使館(黎ノ家族今尚滞在中)ニ入ラントセル次第ナリ右ニ関シ仏國公使ハ特ニ書記官ヲ本使ニ遣ハシ黎ノ突如來館セントスルハ迷惑トスル所ナルカ同人カ是迄當館ニ居リタル關係上同人一時收容ノ義本使ニ於テ異存ナキヤ否ヤ承知シタキ旨申出タルニ付何等異存ナシト答ヘ置キタリ。
在奉天、天津、上海、廣東、漢口、南京各領事ニ電報セリ、(七月十六日午後一時半發)

一三七 七月十六日 在奉天赤塚總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

直隸奉天督軍等ヨリ段祺瑞ニ財政援助ヲ行ヒ

タリ件

第一八〇号

七月十六日菊池カ督軍府ニ於テ聞込ミタル処ニ依レハ今回段祺瑞ノ入京ニ当リ財政上之ヲ援助スルタメ直隸督軍ヨリ百万元奉天督軍ヨリ十万元並ニ其ノ他段派ノ督軍等ヨリ夫々応分ノ送金ヲ段ニナシタル由。
北京、天津へ電報セリ

一三八 七月十七日

本野外務大臣ヨリ
在英國珍田及在露国内田各大使宛
(電報)

黎元洪ノ辭職等中国時局ニ付通報ノ件

第五六〇号在英宛

第五八九号在露宛

支那時局統報

(一) 黎元洪ハ十四日公使館辭去ニ臨ミ林公使ニ対シ辭職ノ決意ヲ言明シ一介ノ布衣トナリテ外遊ノ素志ヲ果シタキ旨ヲ述ヘ帰邸後馮国璋陸榮廷各省督軍其他朝野ノ政客ニ宛テ長文ノ通電ヲ発シ自己ノ心事ヲ説明シ辭職ノ意ヲ宣明セリ
(二) 馮国璋ハ其日本人顧問多賀中佐ニ対シ自分ハ此際代理大總統ヲ辞シ國務院ヨリ人ヲ日本公使館ニ遣ハシ黎大總統

ノ復位ヲ便ナラシムルコトヲ段祺瑞ニ要求セリ大總統復位ヲ肯ンセサルトキハ自分ハ大總統ノ全職權ヲ正式ニ与ヘラレタル後ニ非サレハ上京セス段カ全国ヲ統一スルコトハ困難ナルヘク國務總理ハ是非共徐世昌タラサルヘカラスト内話シ余リ段ニ対シ好感ヲ有セサル口振ヲ洩ラシタル趣ナリ
(三) 七月六日以来成都ニ雲南側四川側兩軍衝突アリ雲南唐督軍ハ自ら出征シテ雲南側ヲ援助セントシツ、アリ蓋シ唐ハ第三革命以來共和擁護ノ元勳ヲ以テ自認シツ、アルモ僻地ニアリテハ其發言ニ対スル反響大ナラサルニ顧ミ此機會ヲ以テ多年ノ宿望タル四川ヲ其掌中ニ収ムル外更ニ余力ヲ中原ニ及ホサントスルニ在ルモノノ如シ。

一三九 七月十八日

本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

段祺瑞ノ馮徐兩者ニ対スル意向方針時局收拾

困難ノ場合ノ覚悟及南方民党側トノ關係ニ付

詳報方訓令ノ件

第五〇八号

松平總領事發貴官宛電信第二〇八号曹如霖ノ談ニ依レハ段馮間ノ打合セハ充分付キ居ル如ク見ユル処其後諸種ノ情報

南方民党側ニ対スル關係ヲ如何ニ処理シ得ル所存ナリヤ此辺ノ事亦等閑ニ附シガタキモノアリト認メラルルニ付充分腹藏ナク段ノ意見ヲ叩カレ貴見ト共ニ電報アリタシ

一四〇 七月十八日

齋藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

段祺瑞新内閣ハ一般ニ外人ヨリ好評ナル旨報

告ノ件

支極秘第八十二号

(七月二十日外務省接受)

本十八日日英露仏ノ四国公使ハ外交總長ヲ訪ヒ新内閣歡迎ノ意ヲ表シ且ツ參戰問題ヲ成ル可ク速カニ実行センコトヲ希望スルノ意思ヲ通告セリ新内閣ハ一般ニ外人ヨリ好評ヲ博シツツアリ、
塩税剩余金三百万弗及ヒ先月二十一日契約成立セシ二百万弗借款ノ残余百万弗ハ本日交付スル管ナリ仏國ハ從來海關鐵道借款ノ利子五〇万弗ヲ毎月塩税剩余金中ヨリ引去来リシカ段内閣歡迎ノ意味ニテ本月ハ特ニ之ヲ引去ラス以テ新内閣ニ好意ヲ表スト云フ、
関東都督參謀長、天津駐屯軍司令官、青島參謀長、上海、中支那派遣隊司令官済

等ヲ綜合スルニ兩者ノ關係必ズシモ爾カク円満ナルヲ得ザルヤニモ思料セラレ高尾領事發本大臣宛電信第一〇八号馮ノ多賀ニ対スル談話ニ依レハ殊ニ其感ヲ深ウスル次第ナルガ若シ幾何ナリトモ兩者ノ間ニ意思ノ疎通ヲ欠ク如キコトアラバ折角段ニ於テ時局ノ收拾ニ力ヲ尽サントスルモ其効ナカルヘキノミナラス政局再ヒ展開シテ一層ノ紛乱ヲ現出セズトモ限ラズ加之段ト徐世昌トノ關係モ今回ノ復辟問題ニ關連シ自然充分円満ナラサルノ虞ナシトセサルヘク旁以テ万一是等ノ込入リタル事情ノ為愈時局ノ紛糾ヲ重ヌルカ如キコトアラシカ支那自体ノ為不利此上ナキハ勿論我邦ニトリテモ支那ニ於ケル此上ノ紛争ハ甚タ好マシカラサル次第ニシテ旁我方ニ於テモ此際事態ノ真相ヲ確メ今後ニ処スヘキ方針ヲモ考慮決定シ置クコト最肝要ナリトス就テハ貴官ハ可成速ニ段祺瑞ニ面会ノ上以上ノ趣旨ヲ含ミ同人ノ馮及徐ニ対スル現下ノ意向及關係又是等ニ対シテ同人ノ將ニ執ラントスル方針竝万一ニモ時局ノ收拾ニ困難ヲ来シタル場合之ニ対スル覚悟等隔意ナク内話セラレ度キ旨ヲ求メ前記当方ノ懸念ニ対スル貴見竝右会谈ノ際ニ於ケル段ノ陳述ニ対スル貴官ノ觀察ト共ニ詳細電報アリ度シ尚又段ハ今後

一四一 七月十九日 在南京高尾領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

馮國璋ノ態度ニ関シ報告ノ件

第一一〇号

(七月二十日接受)

七月九日馮國璋ヲ訪問シ閣下ニ於テハ愈々近ク北上シ大總統代理ノ地位ニ就カルルコトニ確定セラレシヤト尋ネタルニ馮ハ自分ニ於テハ黎總統ノ復職ヲ希望シ依然當地ニ止マリテ南北調停ノ任ニ當ラムコトヲ欲シタレトモ周囲ノ事情ハ之レヲ許サズ殊ニ段總理ヨリ屢々電報ヲ以テ就任ヲ促カシ来リ又一兩日中ニ靳雲鵬ヲ特使トシテ遣スヘシトノ消息ニモ接シタルコトナレハ今トナリテハ最早ヤ之レヲ辞スルニ由ナク依テ徐州揚州其ノ他ノ各地ニ散在セル張勳旧部下ノ軍隊処分ヲ終リ次第(処分方ニ付テハ別ニ報告スヘシ)遅クモ一週間ノ後ニハ北上期日ヲ定メ得ヘク江蘇督軍ノ後任ニ就テハ最初倪嗣冲トノ議モアリタレトモ絶対ニ不適任ナリト認メ居リタル折柄幸ヒニ本人ヨリ之ヲ辞シタルカタメ沙汰止ミトナリ次テ段芝貴ニテハ如何トノ相談ニ接シタレトモ同人ニテハ南方側ノ氣受ケモ如何ト氣遣ハルルニ依リ万事ハ自分北上ノ上篤ト相談ヲ遂クルコトトシ夫迄ハ齊

兩人ニ宛テ自分ヨリ(一)国会ヲ復旧セシムルコト(二)新タニ国会ヲ召集スルコト(三)臨時參議院ヲ組織スルコトノ三者ニ付何レヲ可トスルヤ意見ノ問合セ中ナリ憲法ノ制定ニ就テハ段ノ意見ニ同意ニテ或ル程度迄ハ督軍側ノ希望ヲ容ルルノ必要アリト説キ愈々上京ノ上ハ能フ限り段トノ調和ヲ計リ無用ノ衝突ヲ引起ササル様十分注意スヘシト謂ヒ最後ニ近頃胡嗣瑗カ張勳ノ復辟実行ニ就キテハ自分ヨリ親筆ノ書面ヲ張ニ送リテ贊成ノ意ヲ表シ居リタルニ拘ハラス今ニ於テ反対セルハ不都合ナリトノ旨ヲ諸方面ニ言ヒ触ラセル由ノ所贊成ノ書面ヲ張ニ送リタルハ昨年袁世凱薨去當時ノコトニシテ今日トハ其ノ事情ヲ異ニス這般ノ消息ハ貴領事ニ於テ能ク承知ノコトナレハ適當ノ機會ニ於テ貴國政府及林公使ニ夫レトナク説明セラレ無用ノ誤解ヲ生セサル様配慮アリタシト求メ頗フル今後ノ成行ヲ氣遣ヒ居ル様子ナリシニ付試ミニ督軍等ノ張勳ニ対スル約束ノ有無等ヲ尋ネタルニ督軍等ハ徐州會議ニ於テ確カニ連判状ニ調印シ又自分ヨリハ張勳ニ対シ北京ニ赴キ調停ニ任スルコトハ差支ナキモ其ノ余ノコトヲ実行スル場合ニハ予メ相談アリタシトノ書面ヲ送リタルコトハアルモ督軍ハ勿論自分ニ於テモ直ニ実行

省長ヲシテ姑ク督軍事務ヲ代理セシメ總テノ行政機關及人員等ハ全部此ノ儘トシ一切手ヲ付ケサル積リナリト謂ヘリ口吻ニ依リテ察スルニ北京ノ形勢非ナリト認メタル際ニハ再ヒ當地ニ退却スルノ余地ヲ存シ置クモノノ如シ次テ本官ヨリ世上伝ハル所ニ依レハ閣下ト段總理トハ到底融和セサルヘク例セハ国会問題ノ如キ兩者互ニ其ノ主張ヲ異ニセル結果直ニ衝突ヲ来シ斯クシテ時局ハ再ヒ混乱ノ状態ニ陥ルナキヤヲ保シ難シト謂フモノアリト述ヘタルニ馮ハ姑ク黙思シタル後至極尤ナル觀察ニテ自分ニ於テモ段トノ關係ニ就テハ多少危フミ居レリ本日接到シタル北京ノ消息ニ依レハ段ハ已ムヲ得サレハ国会ヲ復旧セシムヘキモ之レニハ三ケノ条件アリ第一ニ協商加入ニ同意スルコト第二任命セル國務員ヲ其ノ儘承認スルコト第三ニ憲法ノ大綱ヲ定ムルコト是レナリト主張シ居ル由ナルモ斯クノ如キハ甚タ無理ナル注文ニテ議員等ニ於テ到底承認セサルヘク寧口復旧セシメサルニ如カス自分ノ考ニテハ差当リ臨時參議院ヲ組織シ次テ議會ヲ召集シ憲法ヲ制定スト云フ約法ニ定メタル通ノ順序手續ヲ再ヒスルコト至當ナリト信ス去リナカラ段ノ意見ナルモノモ一応ノ道理アルコトナレハ陸榮廷及唐繼堯ノ

ニ同意セシニハアラスト弁疏最モ努メタレトモ此ノ上ノ質問ハ寧口氣ノ毒ニ感セラレ迷惑ノ依頼トハ存シタレトモ大總統タルヘキ地位ヲ尊重シ至極御尤ノ義ト存スルニ付御説明ノ次第ハ早速夫々報告致スヘク政府及林公使ニ於テ何等誤解ノアルヘキ筈ナシト答ヘ置ケリ宜敷御含ヲ請フ
北京、天津、上海へ転電セリ

一四二 七月二十日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

段祺瑞ノ馮國璋徐世昌及南方派ニ対スル意向

二 関シ回報ノ件

第一〇一五号

(七月二十一日接受)

貴電第五〇八号ニ関シ七月十九日日本使ハ段祺瑞ト懇談ヲ遂ケタル処段ハ極メテ打解ケタル態度ヲ以テ大要左ノ通り内話セリ
(一)今回ノ政変ニ関シテハ常ニ馮ト意見ノ交換ヲ行ヒ重要政務ハ悉ク馮ト相談ノ上決行シ居ルヲ以テ自分ト馮トノ關係ハ從來通り何等意志ノ疏通ヲ欠キタル如キ覺ナシ只大總統タル彼カ南京ニ在ル為メ諸般政務ノ打合セ上甚タ不便ヲ感シ居ルヲ以テ一日モ早く上京センコトヲ督促シ居ルモ種々

ノ事情ヨリシテ未タ入京ノ運ヒニ至ラサル次第ナルカ就中第一大總統カ去ル十四日正式辭職ノ通電ヲ發表スルト同時ニ馮ハ時局モ一段落ヲ告ケタルニ付臨時大總統ノ職權ヲ奉還シ度旨ノ通電ヲ發シタル処各省督軍中之ニ對シ不賛成ノ意ヲ表シタルモノアルモ未タ何等意見ヲ發表セサル向モアルカ馮ハ今姑ク現任地ニ止マリテ各省督軍ノ之ニ對スル意嚮ヲ見極ムル積リナルヤニ察セラルルコト第二上京前ニ津浦鐵道徐州以南ノ定武軍ヲ或ル地点ニ移駐セシムルコト第三南京引上ケ前軍事上諸般ノ始末ヲ附クルコト等ハ時日遷延ノ重ナル理由ナリ併シ只今接到ノ馮來電ニ依レハ約一週間ノ後ニハ必ラス上京ノ途ニ就クヘントノ事ナルニ付自分ハ兩三日中ニ特別列車ヲ用意シ出迎ノ為斬雲鵬ヲ南京ニ特派スル筈ナリ

尚馮ノ地位ハ今尙臨時大總統代理ニテ未タ正式ニ大總統ヲ繼任シタル次第ニアラス将来或ハ正式國會ヲ召集スルニ先チ臨時約法ニ基キ新ニ參議院ヲ組織シテ民意代表機關ヲ設ケ法律上諸般ノ手續ヲ完了スルコトトナルヤモ計リ難シ此辺ニ関シテハ十分研究ノ上ニテ決定スル積リナリ

(二)徐世昌ト自分トノ關係ハ依然良好ナリ今回討逆軍ヲ起ス

フル如キコトアラハ遂ニ衝突ヲ免カレサルヘキモ福建、江西、湖南ニシテ現状ヲ持續スル限り今後雲貴兩広等連合シテ中央ニ反抗スル事アルトモ左迄憂フルニ足ラス殊ニ陸榮廷及兩広督軍等ハ馮國璋ト充分連絡ヲ保チ居ルヲ以テ孫文一派ト行動ヲ共ニスル如キコトナシト信ス万一湖南ノ譚督軍カ孫派ニ附和スルコトアリトスルモ岳州ニ於ケル吳光新ノ四個混成旅団ニテ容易ニ之ヲ牽制抑圧スルコトヲ得ヘシ唯此際聊カ懸念スル所ハ四川省ノ内訌ナルカ之ニ関シテハ目下馮國璋ト其ノ鎮撫方ニ付詳細打合中ニテ未タ馮ヨリ回答ニ接セサルモ万已ムヲ得サル場合ニハ武昌及岳州ヨリ一部隊ヲ割キテ二手ニ分カレ四川ヲ進撃スレハ直ニ討平スルコトヲ得ル見込ナリ

(四)海軍ノ向背ニ至リテハ曩ニ海琛カ孫文等一行ヲ乗セテ広東ニ赴キタルヲ以テ海軍全部カ南方派ニ与ミシタル如ク思フ者アルモ右ハ全ク海琛艦長某カ程璧光(廣東人)ノ甥ニテ程ト同シク孫派ニ属スル關係上此舉ニ出テタルニ過キス其際応瑞カ薩鎮冰ノ阻止スルヲ聴カス海琛ト同行シタルハ或ハ金錢ヲ以テ運動サレタル結果ナランモ応瑞ハ其後間モナク引還シタル筈ナリ從ツテ海軍全部カ南方派ニ加担ス

ニ付テモ万事徐ト相談ノ結果決行シタル次第ナルカ現ニ自分カ去十四日入京スルヤ其ノ翌十五日徐カ家族ヲ携ヘテ入京シタルカ如キ一面之ヲ以テ北京ニ於ケル民心ヲ安堵セシメ一面之ヲ以テ自分ト徐トハ常ニ一種ノ脈絡アルコトヲ中外ニ暗示シテ時局收拾上ノ便宜ヲ与ヘントノ用意ニ外ナラス外間徐ノ入京ハ清室優待條件維持ノ為ナリト云フモノアルモ徐ハ勿論馮ト云ヒ自分ト云ヒ何レモ清室ノ恩ヲ受ケタル遺臣ナレハ優待條件ヲ破壞スル如キコトハ斷シテ之ナシ此ノ点ニ関シテハ必スシモ徐ノ入京斡旋ヲ要セサルナリ徐ハ今後トモ自分ニ對シテ時局收拾上直接間接援助ヲ与フルハ自分ノ信シテ疑ハサル所ナリ

(三)孫文、唐紹儀、陳炯明、章炳麟等カ広東ニ赴キ何事カ画策スル処アルヲ以テ西南各省ノ形勢ニ関シ種々憂慮スルモノアルモ自分ハ左迄意ニ介セス(唐ノ廣東行ニ関シ未タ何等ノ報告ニ接セサルヲ以テ其ノ真否ニ付念ヲ押シタル処段ハ確カナリト断言セリ)孫一派ハ潮州ニ於ケル張開儒、方声濤等ト連絡シ陳炳焜ヲ抱込ミテ廣東ヲ根拠地ト為サント計畫シ居ルモ陳督軍ハ元來陸榮廷ノ部下ニテ孫文一派トハ到底一致スル筈ナシ若シ孫等カ余リ陳督軍等ニ压迫ヲ加

ル如キコトナキヲ信ス孰レニシテモ海軍ハ廣東人ノ勢力ヨリモ今尙福建人ノ勢力強キヲ以テ今回海軍總長ニハ劉冠雄(福建人)ヲ任命セシ詎ナルカ閱歷上ヨリ云ヘハ薩鎮冰ヲ任命スヘキ順序ナルモ惜ムラクハ同人ハ余リ好人物ニテ我海軍ヲ屈服スル丈ノ重ミナキ為旁々劉ヲ任命セシ次第ナリ尚ホ現任海軍次長曹嘉祥(廣東人)モ本日之ヲ免シテ新ニ是迄參事タリシ劉伝綬(福建人)ヲ任命セリ是等ハ今後中央政府ニ於テ一層自由ニ海軍ヲ操縦セントスル用意ニ外ナラス

要スルニ孫文一派ハ何事ヲカ画策シ或ハ遠カラス活動ヲ開始スルコトアルヤモ計リ難キモ其時ハ已ムナク実力ヲ以テ對抗シ之ヲ屈服スル決心ニテ又之ヲ屈服シ得ル成算アリ云々

以上段ノ談話ニ依リテ想像スルニ徐段ノ關係ハ目下ノ処何等隔意ナク馮トノ關係ニ至リテハ段ノ関スル限り矢張何等隔意ナキモノノ如クナルモ馮ハ御承知ノ通り常ニ利害ノ關係ニ依リテ如何様ニモ變化スル方ナレハ將來或ハ南方派ヲ操リテ段ヲ牽制スルカ如キ手段ヲ弄スルコトアルヤモ計リ難ク殊ニ段ト陸榮廷トノ關係ニ至リテハ今日ノ処余リ直接

ノ連絡ナク全然馮ヲ介シテ消息ヲ通シ居ル模様ナレハ馮今後ノ態度如何ハ大ニ注意ヲ要スヘキモ目下段ノ威望勢力隆々タルニ顧ミ風向キヲ見ルニ敏ナル馮ハ結局段ノ希望ニ応シテ上京スヘク但シ其以後ニ於ケル馮ノ態度ハ今日ヨリ予メ明言シ難シ將又段ノ語氣ニ依リ察スルニ彼ハ南方派トノ妥協ハ既往ノ經驗ニ徴シ到底不可能ナリト諦メ飽迄高压の態度ヲ以テ臨ムヘキ決心ナルカ如シ

南京ニ転電シ上海ヘハ南京ヨリ貴電第五〇八号ト共ニ郵送セシメタリ

一四三 七月二十日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

我政府ノ对中国方針ニ関シ意見稟申ノ件

第一〇二二号 (七月二十一日接受)

帝國政府ノ对支方針タル不偏不党不干涉主義ハ本使ニ於テモ至極同感ニ有之而シテ相当鞏固ナル基礎ヲ有スル正当政府ニ対シ正当ナル援助ヲ与フルコトハ毫モ右ノ方針ニ抵触スルモノニ非スト確信シ居ル次第ナル処今回成立セル段内閣ハ北洋派及進歩党系ノ有力者ヲ網羅シ馮国璋モ不日入京シテ大總統ヲ継任シ且徐世昌モ十分協力スヘキモノナルコト

(一) 我カ官憲ニ於テ或ル程度迄南方派ト接触ヲ保ツコト素ヨリ妨ケナキモ常ニ帝國政府ノ方針ヲ体シ苟クモ南方派ヲシテ我カ援助ヲ期待セシムルカ如キ言動ニ出テサル様充分注意スルコト

(二) 我カ権下ノ地域ニ於テ絶対ニ南方派ノ反抗の運動ヲ容認セサルコト將又我カ官民ノ一部ニハ支那ノ統一ヲ計ランカ為メ我カ指導ノ下ニ南北ヲ妥協セシムルコトヲ得策トシ且其ノ手段トシテ場合ニ依リテハ兵力ヲ提ケ調停ノ任ニ当ルコト然ルヘントノ意見ヲ有スル向キアルヤノ趣ナルカスノ如キハ畜ニ其ノ目的ヲ達シ得サルヘキノミナラス徒ニ事ヲ紛糾セシメ累ヲ国交ニ及ホスニ至ルヘキコト必然ノ数ナルヲ以テテスル考案ハ予メ防止スル様相当措置ヲ講スルコト必要ナルヘシト存ス

以上本使ノ意見ニ対シ何分ノ御回訓ヲ請フ

一四四 七月二十一日 在南京高尾領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

馮国璋ノ上京遲延事由報告ノ件

第一一三三号 至急 (七月二十二日接受)

一 張勳ノ復辟ニ関スル件 一四四

ト殆ント疑ナク連合各使臣ヲ初メトシ外国官民一般ニ之ヲ歡迎シ同内閣ニ依リ時局ヲ收拾ヲ見ルニ至ルヘキコトヲ期待シ居ル次第ナルヲ以テ将来ノ運命如何ハ暫ク別問題トシ此際帝國政府ニ於テ現ニ相当鞏固ナル基礎ノ上ニ成立セル正当政府タル段内閣ニ対シ正当ナル援助ヲ与フル見地ヨリシテ借款乃至兵器ノ供給ノ十分好意的考慮ヲ払フハ勿論各般ノ施政改善上ニモ出来得ル限りノ助力ヲ与ヘ他面此ノ機會ニ乗シ支那ニ於ケル我地歩ノ進展ヲ図ルコト肝要ナルヘシト存ス尚ホ南方派ハ段内閣ニ対シ必然反抗の態度ニ出ツヘク現ニ其鋒銳ヲ現ハシツ、アル処此ノ現象ハ既往ノ因縁ニ徴シ到底避ケ得ヘカラサル次第ナルヲ以テ我ニ於テ輕々シク南北ノ調停ヲ策シ又ハ南方ニ声援ヲ与ヘ反抗ノ氣勢ヲ助長シ徒ニ事態ヲ紛糾セシムルカ如キコト無キ様此ノ際飽迄冷靜ナル態度ヲ持スルコト最善ノ方策ナルヘシ此ノ見地ヨリシテ差向キ左ノ方針ヲ定ムルコト至当ナルヘシト認ム

(一) 南方派ヨリ我官憲ニ向テ借款兵器等ノ周旋ヲ求メ来リタル場合ニハ之ヲ拒絶スヘキハ勿論我民間ニ於テ右供給ニ応セントスルモノアルトキハ相当ノ方法ニ依リ阻止スルコト

馮国璋ハ当分上京セサルコトナレリトノ旨或筋ヨリ聞及ヒタルヲ以テ早速清野ヲ總統府參謀ノ許ニ遣ハシ実否ヲ確メシメタルニ右ハ事実ナル由ニテ其ノ動機ハ大要左ノ通りト言ヘリ

馮ノ上京ニ就テハ張勳ノ殘兵ヲ始末スル以外ニ本月十四日各省ニ黎元洪再立ノ意見ヲ通電シタル行懸リ上之ニ対スル各省ヨリノ返電ヲ俟タサルヘカラサル次第ノ処北方各省及浙江湖南等ヨリハ既ニ黎ノ再立ヲ不可トシ馮ノ就任ヲ希望スル趣意ノ返電ニ接シタレトモ広東ノ陸榮廷ヨリハ昨二十日ニ至リ黎ヲ再立セシムヘキ馮ノ意見ニ賛成ストノ意味ノ入電アリ右ハ南方派ノ意向ヲ代表スルモノナリト認メラルルニ付此際彼等ノ意志ニ反シ強ヒテ北上セハ從來彼等ト意志ノ疏通ヲ図リ或程度迄懐柔シ来リタル苦心モ一切画餅ニ帰シ今後北京ヨリスル馮ノ意見ニハ服従セサルニ至ルヘク斯クテハ時局ノ為不利益ナルノミナラス馮カ大總統ノ任ニ就キタル後黎ニシテ単ニ天津ニ居ヲ移スノミナラハ幸ナルモ万一脱出シテ上海ニ走り或ハ広東ニ赴クトキハ段ヲ喜ハサル南方派ハ必ス之ヲ戴キテ正式大總統ナリトシ別ニ政府ヲ建立スルノ挙ニ出ツルナキヲ保シ難ク收拾スヘカラサル

事態ヲ惹起スルノ惧アリト認メタルカ故ニ此際暫クノ間上京ヲ見合スルコトハ支那ノ為ニモ又自己ノ為ニモ得策ナリ從テ右ノ趣旨ヲ以テ目下段ト電報協議中ナルカ結局暫クノ間ハ依然当地ニ止マルコトトナルヘシ云々因ミニ司法総長林長民ハ十九日当地発天津ニ赴ケリ北京、天津、上海、広東へ電報セリ

一四五 七月二十二日 在上海有吉総領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

中国第一艦隊ノ反段活動ニ関スル「チャイナ、プレス」記事ニ付報告ノ件

第一六三号

今朝「チャイナ、プレス」ハ報シテ曰ク第一艦隊ハ去ル金曜日程璧光ヲ首領トシ愈々段祺瑞ニ反対シ南方側ニ味方スルニ決シ憲法維持国会ノ再開反逆督軍首魁ノ所罰ヲ要求シ右ノ実行セラルル迄ハ断シテ武装ヲ解カスト云ヒ北京現政府ハ勿論国会解散後ノ諸命令ヲ違法ト認ムル旨ノ長電ヲ各省ニ通電シ昨朝程璧光ハ旗艦海圻ニ坐乗シ唐紹儀ヲモ誘ヒ広東ニ赴クニ決シ急ニ人ヲ唐ノ許ニ走セ其旨ヲ伝ヘタル処唐モ急遽旅装ヲ整ヘ海圻ニ赴ケリトノコトニテ目下第

一四六 七月二十三日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

段祺瑞ノ時局ニ関スル談話報告ノ件

第一〇三四号

(七月二十四日接受)

七月二十二日別用ノ為船津ヲシテ段總理ヲ往訪セシメタル際段ハ時局問題ニ関シ大要左ノ通内話シタル由
丁槐ハ黎總統ノ命ニ依リ總統官印五個ヲ自分ニ手交スヘク天津ニ派遣セラレタル処当時生憎自分ハ馬廠ニ赴キ不在ナリシ為カ或ハ故意ニ出テシカ彼ハ右官印ヲ携帯シテ上海ニ直行セリ自分ハ其ノ事ヲ知ルヤ直ニ右官印ヲ馮副總統ニ引渡ス様電命シタルニ彼ハ之ニ応セス却テ右官印ヲ孫洪伊等ニ示シタル為孫等ハ奇貨居クヘシトナシ丁ヲ教唆シテ黎總統親筆ノ書面ナキ限誰ニモ之ヲ引渡サスト声言シ右官印ヲ横領セントスル態度ナリシニ付已ムヲ得ス上海司法官ニ彼ノ逮捕方ヲ電命シタル次第ナルモ最早右官印ヲ取戻シタルヲ以テ此上彼ノ罪ヲ追窮セサル積ナリ

程璧光、唐紹儀(過日唐カ既ニ広東ニ赴キタル旨申タルハ誤)モ愈々海軍ヲ率ヒテ広東ニ赴クコトトナリ既ニ上海ヲ出發シタル等ナリ彼等カ海軍ノ一部ヲ動かスニハ若干ノ費

一艦隊中ノ当港外ニ在ル右海圻及同安、永豊ノ三隻ニハ昨日三井ヨリ石炭ヲ供給セル由ニ付右等モ同時ニ出發セルモノト察セラル同新聞ニハ曩ニ北京ニテ所罰セラレタル陳友仁記者ノ一人トナリ居リ民党側ノ集会等ニ常ニ列席シ居ル模様ニ付右報道ハ正確ト認メラレタルモ為念林出ヲ唐紹儀宅ニ派シタル処不在ト称シ先行先ヲ秘シテ語ラサリシ由ニテ林出ハ更ニ孫文留守宅ニ就キ確メタルニ右ハ総テ事実ナリトノコトニテ汪兆銘モ外国船ニテ広東ニ向ヘリトノコトナリ尚孫洪伊ノ談ニ拠レハ数日来広東ヨリ頻リニ軍艦及唐紹儀等ノ来広ヲ促シ来タリ居タル由ニテ陸榮廷ノ態度モ最近大ニ変化シ必スシモ段側ニアラス今次ノ運動ハ国民党ノミノ拳ニアラス他ニ同情者モ多キ次第ニテ結局南北抗争ノ外ナカルヘシ
將又海圻等ノ行先ニ就テハ広東トノコトナルモ三井ノ手ヲ經テ石炭百五十吨汕頭ニ送リタルコトニ付或ハ一先ツ同地ニ赴クヤモ計リ難シ今次彼等ノ運動費ノ出所ニ就テハ種々偵察中ナリ不取敢(二十二日)
北京広東汕頭南京へ電報セリ

用ヲ要スルハ勿論ナルカ聞ク所ニ拠レハ孫文等ハ既ニ独塊側(重ニ独華銀行)ヨリ四百万弗ヲ借入レタリトノコトナルカ其ノ真否断言シ難キモ四月末頃約四十万弗ヲ第一艦隊ニ分配シタルハ事実ナルヲ以テ彼等ハ何レヨリカ資金ノ供給ヲ受ケ居ルニ相違ナシ彼等ハ先ツ広東ヲ手中ニ収メテ根拠地トナシ福建、浙江、江西、湖南、四川方面ニ漸次發展セント計画シ居ルモノノ如キモ自分ノ見ル所ニテハ陸榮廷、陳炳焜、譚浩明等ハ必シモ彼等ノ意ノ如クナラサルヘシト信ス

万一陸等カ今後孫等ト行動ヲ共ニスルコトアリトスルモ其ノ時ハ飽迄武力ヲ以テ彼等ヲ屈服スル決心ナリ要スルニ自分ハ過去一年間ノ苦キ経験ニ依リ今後国内ノ統一ニ関シテハ多少自ラ信スル所アリ從テ之ヲ昨年ノ今頃ニ比シ心中頗ル安ニスル所アリ(言終リテ段ハ頗ル得意ノ色アリシ由)自分ハ王士珍ニ対シ何等不快ノ感ナク幾度カ其ノ留任ヲ勸メシモ部下ノ年壯氣鋭ナル連中ハ頻リニ最近ニ於ケル王ノ態度ヲ非難攻撃スルヨリ王モ之ヲ感知シタリト見ヘ辭職ヲ懇請セリ早晚之ヲ許可スル外ナカルヘシ併シ其ノ後任ハ未タ何等考量シ居ラス段芝貴其ノ後任タルヘシトノ説アルモ

全然無根ナリ江朝宗、吳炳湘等モ多分更迭セサル積ナリ
(段ノ口吻ニ拠レハ江朝宗ニ対シテ頗ル冷淡ナル如キ態
度、吳ニ対シテハ極メテ同情ヲ有シ居ルモノノ如クナリシ
由)

黎總統ニハ仏国病院ニ入院セシ以來稍不便ノ為面会セス併
シ梁啓超其他ヲシテ往訪慰問セシメ且差当リノ費用トシテ
十萬弗ヲ贈与セリ自分トシテハ馮ノ着京迄是非黎氏ノ在京
ヲ希望シ居ルモ其ノ以後ハ何レノ地方ニ赴カルルモ彼ノ意
ニ任セ何等彼ノ行動ヲ束縛セサル積ナリ張勳ハ目下家族使
用人ヲ併セ計四十七人ノ大勢独逸兵營ニ居ル処同人今後ノ
始末ニ関シテハ未タ何等決定シ居ラス今ヤ重要政務ノ為忙
殺サレ居ルヲ以テ未タ之ヲ顧ミルニ遑アラス単ニ之ヲ監視
シ居ルニ過キス劉崇傑ノ芳沢ニ語ル所ニ拠レハ過日支那政
府ヨリ和蘭公使ニ張勳ヲ逃亡セシメサル様取計ヲ請フトノ
趣旨ヲ申入レタルニ対シ和蘭公使ハ再ヒ乱ヲナサシムルカ
如キコトナキ様注意スヘシトノ意味ノ回答ヲナシタリトノ
コトナリ

黒竜江許蘭洲ハ曩ニ朱慶瀾ヲ追出シ今回又畢桂芳ヲ追出シ
甚タ不都合ト認ムルニ付早晚更迭セシムルモ中央ノ政局未

定セラレ共和ノ恢復ヲ見タルモノ一ニ段カ敢然立テ討逆ノ
師ヲ拳ケタルノ功績ニ帰セサルヘカラサルノミナラス段カ
共和擁護ニ尽瘁セルノ例証ハ尚ホ拳ケテ数フヘカラス將又
民党ノ士ハ段ヲ責ムルニ或ハ武断政治ヲ以テシ或ハ国会制
度ノ打破ヲ以テスルモ之レ又共ニ荒唐無稽ノ所説タルヲ免
カレス段カ軍隊統帥ノ權ヲ掌握スルハ其官職ノ然カラシム
ル所ニシテ又彼ハ議會ノ何等為スナキノ過去ノ事實ニ依リ
テ直チニ其ノ制度ヲ倒潰セントスルモノニアラス今ヤ民国
ノ氣運一新ノ時ニ当リ国民ニシテ宜シク自重抑制ノ至誠ナ
クンハ何ソ此千載一遇ノ好機ヲ善用スルヲ得ンヤ思フニ過
去六年間常ニ止ムナキ騒乱ニ鑑ミレハ仮面ヲ被レル軍国主
義者ト極端ナル煽動政治家トハ断シテ永ク国政ヲ支持スル
コトヲ得ス孫文袁世凱国民党張勳ノ敗績比々皆之ヲ証シテ
余リアリト云フヘシ云々

一四八 七月二十四日

齋藤在中国日本公使館附陸軍武官
ヨリ
田中參謀次長宛(電報)

段祺瑞ニ迅速兵器供給方ニ関シ意見重ネテ上

申ノ件

支極秘第九二号

(七月二十七日外務省接受)

一 張勳ノ復辟ニ関スル件 一四八

タ十分落チツカサル際ナレハ其ノ内時機ヲ見テ決行スルコ
トトナルヘシ湖南督軍譚延闓モ余リ優柔ニテ十分地方官民
ヲ心服セシムル威望ナキヲ以テ是亦早晚更迭スル積ナリ云
々(七月二十三日午後十一時)

一四七 七月二十四日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

国民党ト國務院ト題スル「ノース、チャイ
ナ、デイリー、ニューズ」紙社説要旨報告ノ
件

第一〇三八号 (七月二十五日接受)

十九日発行 North China Daily News ノ国民党ト國務院
理ト題スル社説ハ其ノ論旨頗ル参考ニ値スルモノ之レ有リ
或ハ既ニ上海総領事ヨリ報告済カトハ思料スルモ念ノ為メ
大要御参考迄ニ電報ス

今次国民党ノ発表セル宣言カ能ク彼等ノ懷抱セル真情ヲ声
明セルモノナルハ蓋シ疑ヲ容レサル処ナルカ最近暴露セラ
レタル腐敗分子ノ醜行ニ付テハ暫ク之ヲ措テ問ハストスル
モ彼等カ只徒ラニ段祺瑞ニ対スル抗争ヲ事トセントスルハ
世上非議ノ存スル所ニシテ今回ノ事変カ幾何モナクシテ截

支極秘第八十九兵器ニ関スル貴電今朝拜誦ス林公使トモ協
議シタル所此際迅速ニ我政府ノ承諾ヲ与フルコトハ支那ノ
統治上最も必要ニシテ馮国璋ヲシテ速ニ北上スヘキ態度ヲ
決定セシムルニモ亦大ニ効果アルヘシト信ス若シ馮国璋ニ
シテ今後尚北上ヲ躊躇スルコトアリトスルモ北洋系トシテ
南方ニ附和スルカ如キコトハ彼ノ果断ニ欠ケル性行上萬無
カルヘシ此場合ニ在リテハ彼ハ南京ニ在リテ大總統ノ職務
ヲ執行シ段カ北京ニ於テ国政ヲ総理スルモ支障ナク馮若シ
大總統就職ヲ承諾セサル場合ハ國務院ニテ大總統ノ職權ヲ
代行スルニ至ルヤモ知ルヘカラス兎ニ角段ハ空論ヲ排シ実
行ヲ先ニ止ムヲ得サル場合ニハ兵力ヲ以テ制圧スルノ決
心ヲ有スルハ推察スルニ難カラス要スルニ不得要領ナル馮
ヲシテ段ト提携シテ支那ノ統一ヲ計ルコトニ決心セシムル
上ニ於テ帝國政府ノ段ニ対シテ有力ナル兵器ヲ供給スルコ
トノ承諾ハ大ニ効果アルヘク支那ノ統一ヲ迅速ナラシムル
ニモ効果アルヘシ之ニ反シ馮国璋上京内閣ノ基礎略々確立
ノ見込付キタル上之ニ応スルコト、ナレハ先方ニ取リテハ
緊急必要ノ程度及我好意ニ対スル感謝ノ念慮自ら減殺シ我
対支政策ノ機微ヲ逸スルノ恐レアリ世人ノ常ニ唱道スル所

謂支那ヲ指導スルト云フ意義ハ從來兎角空言ニ終リアルル次第ナルカ実ニ今回段ノ希望スル点ニツキ我ヨリ迅速且懇切ナル感覺ヲ与フルコトニ依リテ之ヲ実現シ得ヘシト思ハル由來支那ノ兵器統一供給ニ関スル我政策ハ之ヲ彼ニ強フルモ容易ニ実行シ難キ所ナルハ申迄モナキコトナルカ今次幸ニモ先方ヨリ有力ナル兵器ノ供給ヲ申出タルハ我兵器政策実行上極メテ好都合ニシテ而モ円滑ニ其目的ヲ達シ得ヘキ望アレハ此点ヨリスルモ機會ヲ逸セス速ニ承諾ヲ与フルノ必要アリト思考ス帝國カ支那指導上南北兩派ニ対シ何レニモ好感ヲ与フルコトハ到底實施シ難キ所ニシテ今次ノ兵器ノ供給ハ名義正シクシテ何レニ対スルモ疚シキ点毛頭之ナク問題ハ単ニ兵器ノ供給ナルモ我對支政策上重大ナル關係ヲ有シ林公使モ極メテ之ヲ重大視シ且焦慮セラル、次第ニツキ昨日支極秘九十一ヲ以テ委細上申シ置キタルモ公使ハ重ネテ上記ノ次第ヲ閣下ニ電報センコトヲ希望セラル、ニ依リ其辺御諒承ノ上一層ノ御尽力ニ依リ此際速ニ承諾ヲ与ヘラル、様御配慮アラシコトヲ切望ス

一四九 七月二十五日 齋藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ 上原參謀次長宛(電報)

馮国璋ハ多賀中佐ニ向ヒ來ル二十七日南京出發北上スヘク陸榮廷陳炳鏡ハ民党ト行動ヲ一ニスルコトナシ以テ海軍ノ一部南方ニ附加スルモ敢テ顧慮スルニ足ラズトノ意ヲ述べタルヨシ元來本職ノ意見ハ馮ノ來否ニ拘ハラズ速ニ兵器ヲ供給スルニ在ルモ馮カ愈々北上ヲ明言シタル以上段トノ提携鞏固ナルヤヲ見定ムルコトナク兵器供給ノ件ハ可成速ニ承諾ヲ与ヘテ可ナラムト思考ス

一五〇 七月二十六日 齋藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ 田中參謀次長宛(電報)

段祺瑞ヘノ援助急速決定尽力方懇請ノ件 支極秘第九六号 (七月二十八日外務省接受)

二十四日午後零時十分發貴電馮国璋上京セザル場合ニ於テハ段ヲ中心勢力トシテ之ニ援助ヲ与ヘ時局解決ノ地歩ヲ進ムヘキヤニ就キ坂西大佐ノ意見モ過日來本職ヨリ電報セル屢次ノ意見ト全然同一ニシテ且此場合速ニ段ヲ援助スルヲ必要トシ時期ノ遷延ハ最モ之ヲ戒メ且之ヲ避ケザルベカラザルノ点ニ於テ同意見ナリ林公使ノ意見ハ元ヨリ本職ト同一ニシテ實ハ支極秘八九、九〇、九一、九二、九三、九五号ハ本職ヨリ公使ニ協議ヲ遂ケ且電文モ公使一覽ノ上更ニ

段馮ノ提携如何ニ拘ラズ段ニ対スル兵器供給ヲ承諾セラレ可然旨上申ノ件

支極秘第九五号 (七月二十七日外務省接受)

兵器問題ニ就テハ屢々重複ヲ厭ハス意見ヲ上申スル次第ナルカ段内閣トシテハ西南諸省ヲ討伐スル外ニ取ルヘキ途ナク而モ其必要ハ焦眉ノ急ニ迫マリ決裂ノ到底避ク可カラサルコトハ申ス迄モナキ次第ナリ段内閣ノ希望ニ応スルヲ必要トスル理由ニ就テハ既ニ詳細述ヘタル以外ニ於テ協商國使臣ハ勿論独塊ヲ除ク一般外人ハ国民党ノ狂人的盲動ニ対シ更ニ同情ヲ寄スルモノナク何レモ嘲笑シツ、アリ故ニ段内閣ノ此吃緊ノ際ニ於テ万一我政府カ承諾ヲ与ヘザルトキハ所謂背ニ腹ハ換ヘラレズ米國等ニ交渉スルヤモ知レズ然ル場合ニハ遂ニ予期ニ反シ他ノ勢力カ支那ニ發展スヘキコトモ吾人ハ今ヨリ注意シ置カザレバ彼ノ上海船渠問題ノ如ク突然意外ノ契約成立シ狼狽セザルベカラザルガ如キ結果ヲ持來サザルヤヲ恐ルコレ本件ニ就テモ充分御考慮中ニ置カレムコトヲ希望ス林公使ハ本問題ニ付テハ其進退ヲ賭シテモ廟議ニ於テ採用セラレムコトヲ期スルノ決心ヲ有セラル、本電起草後只今接手セル松井中佐ノ電報ニ依レバ昨日

異議ナキヲ確メテ發電セル次第ナレハ即チ之レ公使ノ意見トモ認メラルベキモノナリ昨電支極秘九五号ニモ述ヘタル通り公使ハ兵器問題ニ関連シテ段援助ノ建議廟議ニ容レラレザルニ於テハ断然帰朝スヘシトテ極メテ鞏固ナル意見ヲ有セラル今ヤ時期日ニ切迫シ我政府ノ決心ニ遷延ヲ來サバ引イテ時局收拾ノ結果ニ甚大ナル影響ヲ及ホスノ恐レアレバ閣下ノ御尽力ニ依リ速ニ段ヲ援助スル様決定アラシコトヲ切望ス

坂西大佐ヨリモ全然本職ト同意見ナル旨別ニ閣下宛電報セリ

段政府ニ対シ我回答ノ遅延ハ時局收拾ニ大ナル關係ヲ有スルニ依リ至急單簡ニ政府ノ意思電報ヲ乞フ 多少南方ノ事情ニ通スル我官民中ニハ(一)段カ大ナル度量ヲ以テ条件ヲ設ケ旧国会ヲ恢復シ妥協スルヲ可トスルモノ(二)南方ヲ援助スルノ不可ナルハ勿論南北妥協モ亦不可ナルモ南方ノ意嚮モ亦顧慮スルノ必要アレハ我政府ハ段内閣ヲ援助スルコトナク今暫ク形勢ヲ觀望スヘシ等ノ議論ヲナスモノアルヤニ聞キ及フモ(一)ハ我國ニ於テモ極端ニ政府ニ反対スル政客ヲ入閣セシムルコトノ為シ能ハサルト同様旧国会

ヲ恢復セハ民党ハ直ニ段及督軍團ヲ排斥スルハ必然ニシテ
実行スヘカラザル議論ナリ(○)ハ時局收拾ニ対シ結局定見ヲ
有セザル愚論ニシテ一瞥ノ価値ナシ公使及坂西大佐等モ右
ニツキ本職ト其意見ヲ同クス御参考迄

一五一 七月二十七日
本野外務大臣ヨリ
在英国珍田大使及在露国内田大使
各宛(電報)

独塊側ノ孫文等民党側ニ対スル資金供給ニ関
スル情報ノ件

第五八二号(英宛)
第六二七号(露宛)

段祺瑞ハ七月二十二日船津ニ対シ孫文等ハ独塊側(重ニ独
華銀行)ヨリ四百万弗ヲ借入レタリトノコトナルガ四月末
頃約四十万弗ヲ第一艦隊ニ分配シタルハ事実ナレバ彼等ハ
何レヨリカ資金ノ供給ヲ受ケ居ルニ相違ナシト内話セシガ
陸軍次長傅良佐モ我公使館附陸軍武官ニ対シ独逸側ハ支独
国交断絶ノ前後民党側へ二十万元ヲ支給シ此頃五十万元ヲ
海軍ニ支給シタル外尚今次ノ民党側運動費トシテ三百万元
ヲ支出シ又ハ支出セントシツ、アル旨内話シ七月十二日ノ

North China Daily News ニモ類似ノ記事アリ又張繼ガ
一行ト共ニ上海ヨリ二十日汕頭ニ着シタル為在汕頭事務代
理ハ直ニ之ヲ訪問シタルニ在内地和蘭領事ハ既ニ船中ニ在
リ一行ノ為斡旋シツ、アリ爾來右一行ハ広東ニ向ケ出發ス
ル迄始終同領事ト往復シ居タル趣ナリ是等ノ情報ヲ綜合ス
レハ独塊側ニ於テ段政府ノ參戰実行ヲ阻害スル等ノ為民党
ノ資力充分ナラザルヲ利用シ盛ニ民党側ヲ買取セント努メ
ツ、アリトノ風説ハ未タ確証アル次第ニハ非ザルモ亦必ス
シモ根拠ナキニ非ザルヤニ認メラル

一五二 七月二十七日
齋藤在中國日本公使館附陸軍武官
ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

段祺瑞ト馮國璋トノ關係並海軍側ト南方側ト
ノ關係等ニ付報告ノ件

支極秘第九七号 (七月三十一日外務省接受)

京漢線ノ磁州(直隸省西南端)附近ト外一ヶ処ニ於テ連日
降雨出水ノ為メ鐵道破壊セラレ昨日出發ノ管ナリシ吳光新
ハ為メニ止ムヲ得ス出發ヲ延期セリ日本來訪言フ所ニヨレ
ハ馮國璋ノ決心ハ尚克ク定マラス段祺瑞ハ討伐計畫ヲ定メ

断乎タル決心ヲ有シ成ルヘク速ニ之ヲ実行セント欲シ馮ニ
モ右ノ計畫ヲ通知セリ然ルニ馮ハ討伐ヲナスコト無ク行政
手段ヲ以テ自主ヲ撤回セシメ得ルノ余地アリトノ意見ヲ有
シアルモ段ハ其到底実行シ能ハサルコトヲ確信シ有リ此点
ニ就テハ電報又ハ使者ヲ以テハ意思徹底セサルヲ以テ直接
面談ノ必要アルモ馮ハ容易ニ上京ヲ承諾セス段トシテハ非
常ニ急キアルモ尚馮トノ間ニ誤解ヲ避ケンカ為メ昨二十六
日ヨリ一週間即チ八月一日迄討伐ノ実行ヲ延期スヘシトノ
意見ニテ重ナル内閣員モ亦一週間延期ヲ勸メタルニヨリ昨

日愈々右ノ事ニ確定セリ(本日松井中佐ノ電報ニ依レハ馮
ハ八月一日南京出發ニ決セシ由一週間延期ノ議ハ之ヨリ起
リシモノナラン)陸榮廷陳炳焜等ノ態度ハ表面丈政府側ナ
ルカ如キ感有ルモ其内実ニ到リテハ既ニ国民党ト連絡アル
如ク思ハル是等ノ事情モ又段カ急速討伐ヲ可トスルノ意見
ヲ有スル所以ナリ第一艦隊ノ大部ハ目下汕頭ニ集合シアル
カ實際南方側トシテ行動スルモノハ先ツ二隻位ニ過キサ
ルヘシト考フ艦長等ニシテ軍艦ヲ脱出シ今明日中ニ北京ニ到
着シテ情況ヲ報告セントシツ、アルモノアリ是レ程壁光ノ
勢力ハ艦隊ニハ余リ大ナラス劉冠雄ノ方關係深キ結果ナリ

ト信ス(上海駐在我海軍武官ノ電報ニヨレハ海籌海容ノ二
隻ハ既ニ約ニ背キ南下セスト)又上海ニ於ケル民党ト独逸
人トノ關係ニ就テハ着々証拠物件表レツ、アリ故ニ宣戰ノ
暁ニハ独逸人ヲ嚴重ニ拘束スル積リナリ
尚復辟突発兩三日前略之ヲ察知シ得タルヲ以テ段ト馮トノ
間ニ一ノ契約ヲナセリ即チ一、將來統治上ニ就テハ一切民
党ニ接近セサルコト(黎前總統カ余リ民党ニ接近シ遂ニ収
拾シ能ハサル事態ヲ惹起セシ前例ニ鑑ミ)二、大總統辭職
ノ結果副總統カ自然總統ノ職權ヲ履行スル場合ニハ完全ナ
ル責任内閣ヲ作り總統ハ決シテ内閣ニ容喙セス三、国家救
済ノ為メ如何ナル困難有ルモ国家ヲ前提トシ一身ヲ犠牲ニ
シテ尽瘁ス若シ双方以上ノ契約ニ背ク時ハ天ノ誅罰ヲ受ク
ヘシ 右ハ極メテ親近者ニ非サレハ何人モ之ヲ知ラサル筈
ナリ一週間後尚馮カ躊躇シテ北上セス段カ討伐ヲ決行シ為
メニ万一馮ノ感情ヲ害スル場合アリトスルモ馮ハ南方及長
江沿岸諸省ヲ結束シテ段ト對抗スルカ如キコトハ万々無シ
ト信ス督軍團ニ対スル馮ノ信用ハ實際薄弱ナリ曩ニ督軍團
カ独立ヲ計畫セシ當時ニ於テハ彼等ハ先ツ段祺瑞ト相談シ
次テ徐世昌張勳ニ謀リ馮ハ最閑却サレタル事実ニ依テ見ル

モ之ヲ証スルヲ得ヘシ今劉副承恩ヲ廣東省長ニ任命セシハ劉ハ能ク政府ノ命ヲ遵奉スルヲ以テ之ヲ廣東省長ニ任シ同省ノ情況ヲ探知セシメ以テ他日ニ備ヘントスルニ在リ電濟光ハ全然民黨反對ナリ民黨ニ附和シタル艦隊ハ竜ニ備フル為必要ナリ云々尚吳ハ兩三日中鐵道開通次第岳州ニ帰任シ情況ノ進捗ニ随ヒ湖南ヲ討伐スル考ナリ

一五三 七月二十八日 在南京高尾領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

馮國璋ノ上京見合ヲ民黨側ヨリ勸告シ来レル
件

第一二三号 (七月二十九日接受)

七月二十八日林公使ヨリノ挨拶ヲ伝達スルタメ特ニ馮國璋ヲ訪問セル際ノ談ニ依レハ最近又々民黨側ヨリ極力予ノ上京ヲ見合スヘキ旨ヲ勸告シ来リ其ノ理由トスル所ハ此際ノ上京ハ只段祺瑞ノ傀儡トナリ段ヲシテ益々專横ノ振舞ヲ増長セシメ國家ノ滅亡ヲ招クノ外何等益スル所ナシト謂フニ在リテ一理ナキニアラサレトモ予トシテハ此際是非トモ上京セサレハ國法違反ノ咎ヲ免レサル次第第二付直ニ關係ノ向ニ対シ予ノ上京ハ現在ノ立場ニ於テ万已ムヲ得ス著京ノ上

トニ内幕議決セリト云フ右ハ馮ノ意圖ニ出タルコト勿論ニシテ後任問題ニ如何ニ苦心シツ、アルカラ推察スルニ難カラス
北京、天津、濟南、上海、廣東へ電報セリ

一五四 七月三十日 在廣東太田總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

時局救済ノ途ハ国会ノ恢復ヨリ急ナルハナキ
旨孫文談話ノ件

第七七号

昨二十九日孫逸仙ハ特ニ本官竝陸海軍兩駐在武官三井出張所長ヲ黃埔ニ招待セリ当日雜談ノ際孫ハ本官ニ対シ時局救済ノ途ハ根本問題タル国会ノ恢復ヨリ急ナルハナキヲ以テ第一専ラ之ニ向ツテ尽力セント欲ス今後日本側ノ同情ニ俟ツ所多キニ付本官ヨリ good report ヲ發送セラレンコトヲ希望スル旨ヲ述ヘ尚馮國璋ノ表裏アル態度ヲ口ヲ極メテ攻撃シ廣東ノ状態モ同人到着ノ際ハ稍險惡ナリシモ同人ニ於テ専ラ鎮靜ノ途ヲ講ジタルタメ目下平穩ニ歸セリト語レリ尚同席セル張繼ハ陸榮廷陳炳焜ハ今回ノ国会問題ニ関シ贊成ノ意ヲ表シ居ルモ自カラ進ンテ之ニ尽力スルノ意志充

ハ一先黎元洪ノ復職ヲ勸告シ若シ聞カサレハ一時代理ノ職ヲ執ルヘキモ之レカタメ南北決裂等ノ事態ヲ引起シタルトキハ直ニ責ヲ負ウテ其ノ職ヲ引クヘシトノ旨ヲ通電セリト謂ヒ目下ノ所全国二十二省ノ内十六省ハ予ノ上京ニ贊成シ三省ハ反對シ三省ハ贊否何レトモ申越無之民黨側ニ至リテハ段ニハ反對スルモ余ニ反對スルモノニアラス万事ハ上京後ノ形勢ニ依リ今後ノ方針ヲ決スル積リナルカ段トノ折合ハ世評ノ通隨分骨ノ折レルコトナルヘシト謂ヘリ尚馮ハ八月一日午前二時浦口ヲ發車シ八月二日午前十時北京著ノ予定ニテ家族ノ一部ハ昨日既ニ天津ニ送り正夫人ノミヲ同行スル筈ナリト謂ヘリ

馮ト面會退出後同席セル劉參謀ヲ別室ニ招キ馮ノ上京ニ反對セル民黨側ノ重ナルモノハ何人ナリヤト問ヒタルニ孫洪伊一派ナリト答ヘ要スルニ同人等ハ資金融通ノ途ヲ絶タルルコトヲ氣遣フカタメナリト謂ヘリ

婦館後他方面ヨリノ情報ニ依レハ当地ノ重ナル紳商等ハ馮上京後八月中旬頃ニ至リ新タニ当地ニ派遣セラレタル江西ノ兵ハ爾來人民トノ折合最モ宜シキニヨリ督軍ノ後任ニハ江西ノ李純ヲ迎ヘタキ旨ヲ連名ニテ中央政府へ請願スルコ

分ナラサルカ如シトノ意ヲ洩セリ
北京、南京、汕頭へ電報セリ

一五五 七月三十日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

馮國璋着京後ノ時局ニ関連シ南方派包容案ノ
実行難及中央政府援助方針ノ得策ニ付意見上
申ノ件

第一〇七〇号 (七月三十一日接受)

馮國璋ノ北上ハ久シク世人ノ問題トスル所ナリシカ今回ハ愈々實現スヘキ模様ナル処馮ノ着京後段ト協力シテ時局收拾ノ任ニ当ルハ何人モ切望スル所ニテ帝國政府亦此ノ希望ヲ一ニセラル、次第ナルカ此際我政府ノ要路其ノ他ニ於テ馮ノ着京後南方派ヲモ包容シテ南北ヲ統一セシメントスル希望ヲ有セラル、向モ有之ヤニ承知セル処右ニシテ若シ実行シ得ヘキ事柄ナルニ於テハ本使ニ於テモ勿論喜ンテ之ニ贊同シタキ所存ナルモ上海竝廣東ヨリノ電報ニテ御承知ノ通民黨側ノ主張ハ臨時約法ハ完全ニ現存スルモノトシテ国会ノ解散ハ之ヲ認ムル能ハズ從テ其ノ以後ニ於ケル政府ノ措置ハ一切之ヲ承認シ難ク即チ事態ヲ国会解散以前ニ復活

スヘシト云フニ在ル次第ナルガ民党側ニシテ飽迄此主張ヲ固守スルニ於テハ新内閣々員ノ任命其他一切ノ施設ハ到底国会ノ承認ヲ得ルノ見込ナク同時ニ段内閣モ亦斯ノ如キ民党側ノ主張ニ同意セザルハ勿論ニ付結局民党側ニ於テ右ノ如キ主張ヲ抛棄セザル限り兩派ノ妥協ハ絶対不可能ニシテ換言スレハ南方派包容ノコトハ乍遺憾実行スルコト能ハザルノ結果トナルヘシ之本使ガ累次ノ電票ニ於テ妥協ノ絶望ナル次第ヲ切言シタル所以ナリ而シテ連合側各國ニ於テモ大体右ト同様ノ覬測ヲ為スモノ、如クニ付帝國トシテハ飽迄此際連合側各國ト歩調ヲ一ニスルニ於テハ各國モ亦我方ノ態度ノ公正ヲ認識スヘク而モ實際ニ於テ此方針ニ依リ最モ利スル所アルハ帝國ニ外ナラザルガ故内外ノ形勢實際ノ事情兩ナカラ中央政府援助ノ方針ヲ得策トスルモノト云フヘク之ニ反シテ南方派包容案ハ到底実行シ難ク縱令之カ実行ヲ試ムルコトアルモ直ニ失敗ニ了ルコト明白ナルノミナラス段内閣ニ不快ノ感ヲ与フル等却ツテ有害ノ結果ヲ生スルノ惧アルニ付此辺ニ関シ參謀本部乃至外交調査会ニ於テ誤解ナキ様可然御配意相成様致度シ

那自身ノ為メ極メテ不利益ナルノミナラス貿易上其他密接ノ関係ニアル帝國モ亦自然ニ大ナル影響ヲ受クルハ勿論ノ義ナルヲ以テ帝國政府ハ一日モ速ニ支那ノ時局カ平靜ニ歸シ政治上ノ安定ヲ得ルコトヲ希望シテ已マザル次第ナリ実ハ過日往電第五〇八号ヲ以テ貴官ヲシテ段ノ政局ニ対スル所見ヲ叩カシメタルモ右ノ趣旨ニ外ナラズ然ルニ其節段ハ貴官ニ対シ同人ト馮国璋トノ間ニハ意思十分ニ疏通シ常ニ隔意ナキ意見ノ交換行ハレツ、アリ且ツ馮ハ近ク入京正式總統ニ就任ノ運ヒトナルヘキ旨ヲ述ヘ居ルモ一面高尾其他南京方面ヨリノ情報ニヨレハ馮北上ノ決心ハ未タ鮮明ナラザルモノ、如ク八月一日出發ノ予定モ或ハ再ヒ延期セラル、モ測リ難キヤニ伝ヘラル果シテ然ラハ右時日遷延ノ結果南方ノ反乱其他不測ノ變ヲ其間ニ醸成シ事局ヲシテ益紛糾セシムルニ至ルナキヲ保シ難ク之レ帝國政府ノ特ニ懸念ニ堪ヘサル処ナリ就テハ貴官ハ今一応段ト会见ヲ遂ゲラレ若シ此際段ニ於テ馮上京ノ決心ヲ促カサムガ為更ニ何等相当ノ措置ヲ講スルノ余地モアラハ速ニ其ノ措置ヲ執ル様態憑セラレ之ニ対スル段ノ意嚮態度詳細電報セラレタシ(七月三十一日午前十一時四十分發電)

一五六 七月三十一日 田中參謀次長ヨリ 齋藤在中國日本公使館附陸軍武官宛 (電報)
黎元洪ノ日本來遊決行ニ尽力アリタキ件

黎元洪ノ日本來遊ハ黎個人ノ安全ハ勿論日支特種關係ノ上ヨリ見テモ我政策上有利ナルベキヲ以テ吾人ハ至極之ヲ歡迎シ政府当局ニ於テモ相当便宜ヲ与フル所存ナレハ貴官ハ青木、坂西トモ協議ノ上彼ヲシテ欧米諸國ニ其一身ヲ托スルカ如キコトナク断然日本來遊ヲ決行スル様尽力セラレタシ

一五七 七月三十一日 本野外務大臣ヨリ 在中国林公使宛

段祺瑞ヲシテ馮国璋上京ノ決心ヲ促ス為相当ノ措置ヲ執ル様懇憑方訓令ノ件

第五三三三号

貴電第一〇二一号ヲ以テ縷々御開陳ニ係ル御意見ハ本大臣ニ於テモ大体同感ニ有之目下右ニ付折角關係方面ノ議ヲ纏メツ、アルニヨリ其内確定次第何分ノ義更ニ申進スヘキニ付不取敢右ニ御含ミ置相成タシ
尚ホ支那政局ノ余リニ久シキニ亘リ安定ヲ見ザルハ独り支

註 前掲一四三文書

一五八 七月三十一日 在南京高尾領事ヨリ 本野外務大臣宛(電報)

馮国璋予定通り上京ノ途ニ就キタル件

第一二六号 (七月三十一日午後九時接受)

馮代理總統ハ予定ノ通七月三十一日午前一時津浦線特別列車ニテ出發上京ノ途ニ就ケリ護衛隊約二千名二列車ニ分乘シ總統ノ列車ニ前後シテ北上セリ
北京、天津、上海、濟南へ電報セリ

一五九 八月一日 在天津松平總領事ヨリ 本野外務大臣宛(電報)

馮国璋天津通過北京ニ向ヒタル件

第二五九号 (八月一日午後十一時四十五分接受)

馮副總統ハ參謀長師景雲禁衛軍軍團長張鴻緒外隨員二百名衛兵二百五十余名ヲ從ヒ八月一日午前九時当地通過北京ニ向ケ出發シタルガ此外副總統衛兵約千余名機關銃二個前後二回ノ特別列車ニテ当地通過北京ニ向ヘリ
北京南京へ電報セリ

一六〇 八月一日 在北京坂西陸軍大佐ヨリ
上原参謀総長宛(電報)

馮国璋ト黎元洪トノ会談要旨報告ノ件

坂極秘電一五二 (八月三日外務省接受)

本一日午後零時四〇分馮總統到着予定通り東廠胡同ノ寓居ニ黎元洪ヲ訪ヒタリ黎秘書ノ言及ヒ黎總統カ土肥原ニ語ルトコロヲ綜合スルニ兩人談話ノ要旨左ノ如シ
馮曰ク予ハ貴下故障ノ故ヲ以テ總統ヲ代理シ来リタルモ貴下ノ事故既ニ去リ加フルニ南北決裂ノ徵アル今日予ノ菲才不徳敢テ重任ニ当ルコト能ハス今ヤ南北ノ感情ヲ融合統一スル為ニハ貴下ノ復任ニ依ル外良法ナシ故ニ予ハ切ニ貴下カ復任ヲ承諾セラレンコトヲ希望ス云々
黎曰ク民国今日ノ難局ヲ誘致シタルハ全ク予ノ不明ノ致ス所ニシテ其責既ニ重シ加フルニ宿痼未タ癒ヘス焉ソ再度重任ニ就クヲ得ンヤ予ハ貴下カ速ニ繼任セラレンコトヲ切望ス予ハ元来外洋漫遊ノ志望ヲ有シアルモ目下官民内憂ニ苦ミアル際予一人悠々自適スルハ忍ヒサルヲ以テ予ハ貴下カ統一ノ目的ヲ達スル間野ニ在リテ隠レ之ヲ幫助スヘシトテ更ニ數回押問答ヲナシタル後馮ハ小声ニテ予ハ貴下ノ故障

支極秘五

(八月三日外務省接受)

劉崇傑カ本日林公使ニ語ル所ニヨレハ馮国璋ハ本日著京後直ニ東廠胡同ニ黎元洪ヲ訪ヒ(前電大總統府ニ入レリトセシハ誤リ)黎ニ復位ヲ勸告シタリシカ黎ハ元来今日ノ事態ヲ惹起セシハ畢竟自己不明ノ致ス所ナリ且ツ予ハ健康ヲ害シアレハ到底復任スルコト能ハス而シテ予ノ考ニテハ今日国内擾乱ノ際宣戰問題決行スルカ如キハ適當ナラスト思考スト語リシ由劉崇傑ハ其席ニアリシカ之ヨリ低キ声ニテ聞取り得サリシ由ナリ尚劉ノ言ニヨレハ陸榮廷ヨリ黎ノ許ニ電報ヲ寄セ黎若シ復任セザレハ己モ辭職スルノ外ナシ但シ孫文等ト同一ノ行動ハ執ラサル積リナリト申シ来リシ由旅順、天津、青島、上海、台湾、中支那スミ

一六二 八月二日 本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

中国時局收拾ノ為ノ南方派包容案ニ関シ示

ノ件

第五四二号

貴電第一〇七〇号ニ関シ參謀本部乃至外交調査會側ニ於テ南方派包容案ヲ主張スル向モアルヤニ御掛念ノ模様ナル処一 張勳ノ復辟ニ関スル件 一六二 一六三

總統間依然大總統ノ職ヲ代理スルコトハ敢テ辞セストテ暗ニ黎總統任期間病氣職ヲ執リ難キコトトシテ自己ハ其職權ヲ代行セントノ意ヲ仄カシタルモ黎ハ斯クテハ實際ニ於テ總統二名ヲ有スルカ如キコトトナリ外見上モ良シカラサルヲ以テ是非共馮ノ繼任ヲ必要トスト主張シ結局馮ハ更ニ熟考ノ上回答スヘシトテ分レタル由又黎元洪語テ曰ク湖北王占元ハ本日混成第六旅長ヲ代表トシテ予ヲ訪ハシメ本職ハ國家ノ為貴下カ復任センコトヲ切望ス然レトモ貴下カ決意之ヲ固辞セラル、ナラハ世人ノ誤解ヲ招キ謠言發生等ノ為不測ノ危害カ貴下ニ及フノ虞レナキニアラサルヲ以テ依然此地ニ居住セラレンコトヲ切願スルノ意ヲ告ケシメタルヲ以テ予モ亦王ノ忠言真ニ道理アリト信スルヲ以テ茲暫ク天津行ヲ見合ハシ専ラ病氣ノ療養ニ努メ全快後徐ロニ世人ノ誤解ノ的トナラサル様一挙ニ外洋ニ遊ハンカト考ヘ居レリ云々
上海、青島、旅順、天津スミ

一六一 八月一日 齋藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
上原参謀総長宛(電報)

馮国璋黎元洪ニ復位ヲ勸告シタル件

当方ニ於テハ何人モ此際斯ノ如キ考案ノ可能ナルヲ信シ又ハ之カ実行ヲ試ムルノ形跡アルヲ認メズ尤モ支那現下ノ形勢ニ際シ全然南方派ヲ度外視スルノ意向ヲ表明スルカ如キハ帝國將來ノ対支關係上不得策ナリトシ帝國ノ立場トシテハ一応南北妥協ヲ希望スルノ態度ヲ示スコト当然ナリトノ意見アリト雖モ事實上其希望ノ行ハレ難キ支那ノ現状ハ何レノ方面ニ於テモ之ヲ認メ何等誤解無シ從テ真面目ニ右妥協ヲ計画スルノ趣意ニ非ザルニ付右ノ事情御承知アリタシ右貴官御參考迄申進ス

一六三 八月三日 本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

中国国内ノ平和及統一ニ全力ヲ尽サレタキ旨

日本政府ノ希望トシテ馮国璋段祺瑞ニ申入方

訓令ノ件

第五四三号

貴官ハ至急馮国璋ト面会ノ機会ヲ作ラレ支那現下ノ如キ紛糾セル事態カ久シク繼續スルニ於テハ支那自身ノ蒙ル損害ノ絶大ナルヘキハ勿論極東全体ノ為メニモ甚タ不幸ナルコトハ固ヨリ言フヲ俟タサル処ナリ目下ノ場合時局ノ解決ニ

ハ種々困難ナル事情モアルヘク当局者苦心ノ次第ハ推察ニ余アルモ此際支那ノ為メ將又極東平和ノ為メ馮氏カ虚心坦懐万難ヲ排シ当路ノ責任者ト和衷協同速ニ国内ノ平和及統一ヲ維持スルニ全力ヲ尽サレンコト日本政府ノ衷心希望シテ已マサル処ナル旨婉曲ニ申入レ置カレタシ
尚段総理ヘモ同様趣旨ニテ勸告方可能取計ハレタシ

一六四 八月三日 本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

黎元洪外遊ノ場合ニハ可成本邦ニ来ル様仕向
方訓令ノ件

第五四五号

黎元洪ハ一時外遊ノ考ヲ有スルヤニ伝ヘラレタル処今尚ホ其ノ考ヲ有シ居ル次第ナリヤ御内探ノ上電報アリタシ同人外遊ノ場合ニ万一身ヲ欧米ニ托スルカ如キコトアリテハ余リ面白カラサルニ付適當ノ方法ニ依リ可成本邦ニ来ル様仕向ケララル様致度シ

一六五 八月三日 小幡政務局長ヨリ
奈良陸軍省軍務局長宛

広東及雲南地方中国官憲間ノ暗号電報ヲ本邦

ニ決意シタル旨報道ニ接シタル際直ニ高尾ヲシテ同總統ノ来京ハ本使ノ切ニ欣快トスル所ニシテ本使ノ同僚タル連合側公使ニ於テモ亦同感ナルヘキヲ疑ハサル旨ヲ馮ニ伝達セシメ次テ馮ノ着京後(不明)大總統ニ於テ速ニ外交団ヲ引見セラル、コト然ルヘキ旨ヲ勸告シ且右ノ場合ニハ連合側、中立国及敵国側ノ三者ニ區別シテ接見セラル、方好都合ナルヘキコトヲモ申添置キタルガ八月六日ノ謁見モ右本使ノ助言通実行ヲ見ルニ至リタル次第ニ有之將又馮段間ノ關係ニ付テモ果次ノ具報ニ依リ御了悉ノ通差向ノ処心配スル程ノコトモ無之馮ハ親シク段ヲ往訪シテ懇談ヲ遂クルアリ段又馮ニ対シテ隔意ナキ態度ヲ表示シツツアルノ事實ニ顧ミ兩人カ和衷協同シテ国内ノ平和及統一ヲ維持スルニ努メツ、アルノ誠意ハ十分之ヲ看取スルニ足ルヘク而シテ其ノ間馮ノ決意ヲシテ愈々鞏固ナラシメ為ニ漸次国政進捗ノ緒ニ就カントスルノ形勢ハ前頭本使ノ助言措置等又与テ力アル義ト思料スル次第ニ有之既ニ斯ノ如ク今日迄ノ処兩者ノ關係ハ或向ノ予期ニ反シシタル扞格ナク和衷協力ノ実ヲ挙ケツ、アリト信ゼラルル折柄突如トシテ特ニ今回御訓令ノ如キ措置ヲ執ルニ於テハ却テ無用ノ疑惑ヲ惹起スルノ

陸軍官憲ニ於テ取次ギ居ルヤニ関スル件

機密

拜啓陳者広東及雲南地方支那官憲間ノ暗号電報ヲ本邦官憲ニ於テ取次グコトノ可否ニ関シ曩ニ御協議ノ末右ハ南方幫助ノ嫌アリ帝国政府不干渉ノ趣旨ニモ悖ルニヨリ其依頼ニハ可成応セザル様致スヘキ旨夫々出先官憲ヘ電訓スルコトトナリ当省ヨリ七月九日ヲ以テ在広東太田総領事ヘ訓令シタル電報写ハ當時為御参考及御送付置候処最近聞ク処ニヨレハ広東駐在ノ陸軍武官ハ目下尚雲南軍竝孫逸仙朱執信等ノ電報ノ仲介ヲ為シ居ルヤニ有之右ハ勿論事實相違ノコトト存シ候ヘ共為念一応事實御取調相煩度此段及御依頼候

敬具

一六六 八月六日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

馮段和衷協同シテ国内ノ平和及統一ノ維持ニ
努力中ナル旨報告竝日本ノ中国ニ対スル好意
ノ表示トシテ軍器供給問題決定方稟申ノ件

第一一〇四号 (八月八日接受)

貴電第五四三号御訓令ノ趣敬承然ルニ実ハ馮總統愈々上京

虞モ有之ニ付六日總統ニ面謁ノ機会ニ於テモ右ノ如キ申入ヲ差控ヘ置キタルニ付右様御了承相成度尚此機ヲ以テ重ネテ御考量ヲ仰キ度キハ愈々參戰案ノ実行ト共ニ連合側ニ於テハ現政府ニ対シ更ニ進シテ各種ノ具体的援助ヲ提供スルニ至ルヘキハ想像ニ難カラサル処其ノ間我方ノミ在再弥久尚何等具体的同情ノ実ヲ表示セザルニ於テハ其ノ及ホス影響誠ニ寒心ニ堪ヘザルモノ有之就テハ果次具陳セル軍器供給ノ如キ先ツ以テ此際速ニ廟議ノ決定ヲ仰キタク重ネテ深甚ナル御考量ヲ請フ

一六七 八月九日 本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

中国国内ノ平和及統一ノ為段馮兩人ノ和衷協
同方ヲ我政府ノ希望トシテ正式ニ申入レラレ
タキ件

第五五五号

貴電第一一〇四号ニ関シ從來馮及段ノ兩人ガ和衷協同シテ国内ノ平和及統一ヲ維持スル様貴官ニ於テ臨機助言若ハ措置セラレタルハ何レモ機宜ニ適シタル措置ト認メラル、処右ハ表面上ハ何レモ貴官限り若ハ間接ノ措置タルニ過ギズ

シテ往電第五四三号ノ如ク帝國政府ノ意向ヲ直接ニ表明セムトスル措置トハ趣旨ニ於テ自ラ異ルモノアリ從テ此際往電第五四三号ノ如ク帝國政府ノ希望トシテ和衷協同方ヲ正式ニ兩人ニ申入ルルコト必要ト認ムルニ付矢張り前訓令通兩人ヘノ勸告方取計ハルル様致シタシ

一六八 八月十二日

在中國林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

段祺瑞ニ訓令ノ趣旨申入済竝段ハ馮トノ關係

極メテ円満ナル旨語リタル件

第一一三五号

貴電第五四三号ニ関シ八月十一日段總理ニ会見御電訓ノ趣旨篤ト申入タル処段ハ我帝國政府ノ好意的勸告ヲ深く感謝スル旨ヲ述ヘ且馮總統ハ自分ト三十年來ノ親友ニシテ感情上何等疎隔スル処ナキノミナラス客年副總統選挙ノ際自分ハ副總統ハ勿論大總統タラントスル希望等更ニ無之ヲ言明シタルコトアリ而シテ自分ト馮トノ間ニハ權勢上競争の意思ナク從テ今後兩者間ニ溝渠ヲ生スル虞ナシ今回馮總統入京以來主要政務ハ常ニ親シク会見ノ上相談スルコト、シ飽迄和衷協同以テ政務ノ統一ヲ計ルコトニ努メ居ルニ付我等

兩人ノ關係ハ今後トモ引続キ極メテ円満ナルコトヲ得ヘシト確信シ居ル次第ナレハ此点ニ對シテハ帝國政府ニ於テモ十分御安心アリ度ク又外間種々ノ謠言アルモノハ反對党等ガ我等兩人ヲ離間スル為メ故意ニ流布スルモノナレハ深く意ニ介セラレザランコトヲ希望スル旨ヲ附言セリ尚馮總統ハ本日差支アリ來ル十三日会見スル筈

一六九 十月三日

在中國林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

日本ノ对中国施設ニ関連シ米國官民特ニ在中

國米國人ノ對日態度惡化ニ鑑ミ我方ハ能フ限

リ自制的態度ニ出ヅルノ肝要ナル旨進言ノ件

第一一三八号

大正四年日支交渉以來米國官民一般ニ我對支施設ニ對シ神經過敏トナリ中ニハ其ノ多年唱道セル門戸開放機會均等主義ノ根本ニ動揺ヲ來スナキヤニ付漸ク不安ノ念ヲ懷クニ至レルモノアル次第ハ夙ニ御諒悉ノ通ナル所在支米國人ノ一部ニハ我國ニ對スル反感特ニ強烈ナルモノアルモノノ如ク現ニ米人 Gilbert ノ關係ヲ有スト稱セラルル北京「イヴニング、タイムズ」ハ最近ノ社説欄ニ日米經濟提携反對說ヲ

掲ケ支那ニ於ケル事業ニ對シ米國ノ資金ヲ提供シ日本ト共同スルハ却テ日本ノ独占ヲ鞏固ニシ米國及諸外國ノ貿易ヲ排除スルノ結果ヲ齎スニ至ルヘシト極論シ又九月出版ノ Far-Eastern Review 〳 Where Japan Stands Now? ナル社説ヲ掲ケ支那其ノ他ノ問題ニ付我國ノ態度ヲ非議シ他日平和會議ニ際シ米國カ英仏ト席ヲ連ネ long casualty list ヲ机上ニ置キ強硬ナル態度ヲ以テ望メハ日本ハ Pacific Monroe Doctrine ニ付論議スルコト頗ル困難ナルモノアルヘシト論述シ居リ

尚先般支那各地ヲ旅行セル Macure ノ如キモ到ルル米國人ヨリ日本攻撃論ヲ聞カサレ頗ル閉口セリト内話セル次第ナリ而シテ是等在支米國人ノ感想ハ言論機關ニ依リ又ハ旅行者ヲ介シ自然米國ニ傳播セラレ輿論ニ影響ヲ与フルノ動機トナル訳合ナルヲ以テ我國ニ於テ特ニ注意ヲ払フ必要アルヘシ將又米國公使ニ至リテハ其職責上外間ニ向ヒテハ我國ニ對スル感想ヲ自由ニ告白シ得サル次第ナルモ其内心ニ立入りテ推察スルニ或ル程度迄我對支施設ニ對シ嫌タラザルモノアルベキハ正ニ疑ヲ容レザル所ニ有之殊ニ國民黨ノ勢力失墜ニ伴ヒ陳錦濤伍廷芳ヲ初トシ平素米國側ト密接ナ

ル關係ヲ持續セル有力者殆ント悉ク中央政界ヲ去リ現政府ニ對スル米國ノ勢力著シク減退シ独リ我聲望益々増進シツツアルノ狀況ハ同公使ニ必ズヤ深大ナル刺激ヲ与ヘ居ルナルヘク隨テ事毎ニ細心ナル注意ト猜疑ノ念トヲ以テ我行動ヲ監視シ之ヲ國務省ニ報告シ居レルニ相違ナカルベシト存セラル

前記在支米國官民ノ態度ハ日米兩國ノ關係殊ニ支那ニ對スル關係ニ於テ重要ナル關係ヲ及ホスモノト認メラレ他面英仏露等連合側ハ今ヤ歐洲戰爭ノ關係上支那問題ハ多ク我國ノ主張ニ聽從スルノ余儀ナキ立場ニ在ルカ如キモ支那ニ對スル我勢力ノ發展ハ在來其ノ希望スル所ニアラザルベキヲ以テ之レ亦常ニ我行動ヲ注視シ居ルニハ相違ナカルヘク從テ帝國政府トシテハ此四囲ノ情勢ヲ深く考慮セラレ現下日支ノ關係頗ル良好ニシテ支那ニ對スル我地歩ノ日一日ト増進スルノ秋ニ際シ出來得ル限りノ自制的態度ニ出テ猥リニ列國ノ猜疑心ヲ挑発シ累ヲ戰後ニ及ホスカ如キコトナキ様充分留意スルノ必要アルヘシト思料ス就テハ辺境ニ於ケル突発事件ヲ捉ヘ輕々數ク兵ヲ動カシ支那及列國官民ノ感情ヲ刺激スルカ如キハ本使ノ頗ル遺憾トスル所ナリ切ニ閣下

ノ御考慮ヲ仰キ度シ

一七〇 十月四日 本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

中国南方派代表者ノ本邦訪問ニ対スル日本朝野ノ態度ニ関スル件

第七三〇号

貴電第一三三六九号末段ニ関シ張繼戴天仇カ各方面ヲ訪問シテ所謂南方派ノ立場ナルモノノ説明ニ努力シタルハ事実ナルモ彼等ニ同情シタルモノハ民間一部ノ論者ニシテ政府当局者ハ勿論民間ノ有力者ハ皆南方派ノ態度ヲ非難セリ殊ニ本大臣ハ彼等ニ対シ帝國政府カ馮總統ノ下ニ適法ニ成立シタル段内閣ト交渉スルハ正当ナリ從テ同内閣ヨリ借款問題ヲ提起スルトキハ之ト折衝スルハ勿論ノ義ニシテ之ヲ以テ支那ノ内政ニ干渉シ南方庄迫ヲ援助スルモノト解スルハ誤ナリ南方派ハ動モスレハ段ハ到底支那南北ヲ統一シ動乱ヲ防庄シ得ルノ器ニアラストテ段排斥ヲ企ツルモ所謂支那ノ動乱ハ南方派カ故意ニ段内閣ニ反对スルカ為ニ發生スルモノナルニ付南方派ニシテ平靜ナラハ支那ハ無事ナルヘシ南方派ハ口ニ支那ノ和平ヲ唱ヘテ却テ之ヲ紊ルモノナリ南方

各電總理均已閱悉、於日本当局、關心我国政局、對於張戴、告之以正、拒之以義各情形、深致感謝之意、現在唐陸方面、實力均不充足、且是同牀各夢、与政府雖未一致、頗有借此預備振舵之見端、倘能不啓兵戎、豈僅中国生靈之福、万一須張撻伐、中央亦有布置、当無蔓延分離之慮、府院政見、皆以國家為前提、苟利國家、自無不能融洽之事、近頃西南尚未一致、觀望反復之士、尚多造作語言、淆亂視聽、因以為利、勢所不免、然今日府院兩方、以勢言、以理言、以事實言、以情誼言、決不至自生荆棘、供人播弄、志潭長侍合肥、日謁河間、但聞往復熟籌之論思、實無膠固不移之意見、賢者方稱其審慎、狡者即借以飛流、昨日林使來訪總理、有連陸攻閻之詢、不知日內陸尚有推戴黃陂之訊、事實解釈、適得其反、可見道遠失真、未足為拋、祈公以私人談話、密告本野大臣、轉達寺內總理、請其放心、並謝其善意為幸、三日

(欄外註記)

「十月五日章公使持參」

(右和訳文) (註 日本外務省作成ノ仮訳ナリ)

北京國務院秘書長張志潭ノ來電(十月四日着)

一 張勳ノ復辟ニ関スル件 一七一

派ニシテ何処迄モ段内閣ト事ヲ構ヘ遂ニ動乱ヲ醸成スルニ至ラハ帝國政府ハ東洋平和ノ擁護者トシテ其ノ意ニ反シテ支那内政ニ干渉スルノ已ムヲ得サルニ至ルナキヲ保セサルニ付南方派ハ宜シク大局ニ顧ミ現政府反對ノ鋒鏑ヲ戢ムルヲ要スト説示シ總理大臣モ亦同様彼等ノ無謀ヲ戒メ置キタル程ニテ彼等カ日本朝野ノ歡迎ヲ受ケタリナト放言スルハ何等為メニスル所アリテノコトナルヘシ而シテ右ノ趣ハ章公使ニモ内話シ同公使ヨリ北京へ通報濟ニテ馮段等ニ於テ帝國政府ノ南方派ニ対スル態度ヲ感謝シ來リタル次第ニ付南方派代表者ノ本邦訪問カ支那政府当局ノ神經ヲ刺戟スル理由ナシト信ス尚我有識階級ニ於テハ孫文一派ヲ以テ支那人民ノ多数ヲ代表スルモノト思惟スルモノナク從テ孫文輩ニ重キヲ置クモノナキニ付右様御了知アリタシ

一七一 十月五日

在本邦章中国公使ヨリ
本野外務大臣宛

張繼戴天仇ノ訪日ニ対スル日本政府ノ態度ニ感謝並陸榮廷等ノ動靜ニ付林公使ノ問答ニ関スル國務院秘書長張志潭來電寫提出ノ件

北京國務院秘書長張志潭來電 十月四日到

各電報ハ總理皆閱覽セリ日本当局ニ於テハ我国ノ政局ニ関心シ張繼戴天仇ニ対シテハ之ニ告グルニ正ヲ以テシ之ヲ拒ムニ義ヲ以テセラレタル各情況ニ付テハ深ク感謝ノ意ヲ致セリ現在唐繼堯陸榮廷ノ方面ハ實力何レモ充分ナラス彼等ハ是レ床ヲ同ウシテ各夢ミレリ(同一ノ行動ヲ執リ居ルモ考フル所ハ各異ナレリトノ意)政府ト未タ一致スルニ至ラザルモ正ニ此時ニ当リ局面ヲ転セント予備シツツアルノ徴アリ若シ能ク中央ト兵戎ヲ啓カザレハ豈ニ僅ニ中国生靈ノ福ノミナランヤ万一千戈ニ訴フルコトアルトモ中央ハ之ニ対シ措置スル所アリ決シテ動乱蔓延ノ慮ナカルヘシ府院ノ政見ハ皆國家ヲ以テ前提トナセリ苟モ國家ニ利アレハ自ラ融洽スル能ハサルノ事ナシ近頃西南尚ホ未タ一致セス觀望反復ノ士尚ホ多ク謠言ヲ造リ視聽ヲ淆乱シ因テ以テ利トナスハ勢ノ免レサル所ナリ然レトモ今日ノ府院兩方ハ勢ヨリ言ヒ理ヨリ言ヒ事實ヨリ言ヒ情誼ヨリ言フモ決シテ自ラ荆棘ヲ生シテ人ノ播弄ニ供スルニ至ラス志潭ハ長ク段總理ニ侍シ日々馮總統ニ謁ス兩者ノ間往復熟議ノ論旨ヲ聞クニ實ニ膠固移ラサルノ異見アルコトナシ賢者ハ方ニ其審慎ヲ稱シ狡者ハ即チ借リテ以テ流言ヲ飛ハスナリ昨日林公使來テ總理ヲ訪ヒ陸ハ連

絡シテ内閣ヲ攻ルコトニ付詢問セラレタリ近日陸ハ尚ホ黎元洪推戴セントストノ消息アリシモ右ハ事実ヲ解釈スレハ正ニ之ニ反スルコトヲ知ラサルナリ道遠クシテ真ヲ失ヒ未タ証拠トスルニ足ラサルヲ見ルヘシ貴官ハ私人トシテノ談話ヲ以テ本野大臣ニ密告シ寺内總理ニ転達シテ其安心ヲ請ヒ並ニ其ノ善意ヲ謝セハ幸トス 三日

一七二 十月五日 石光天津駐屯軍司令官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

宣統皇帝復辟ノ流言ニ関スル件

天電第七五号

(十月六日外務省接受)

昨今京津間ニ宣統皇帝ヲ擁立シテ第二復辟行ハルヘシトノ謠言盛ニ流布セラレツツアリ其ノ原因トモ認ムヘキハ張勳復辟ノ挙ハ徐世昌、馮国璋ノ最モ賛成セル所ニシテ徐ノ曩ニ入京スルヤ馮總統ハ復辟ノ中心タル彼ヲ歡迎シ而モ屢々会见密議シタルコト、清室優待条件ニハ其後何等ノ制限ヲ加ヘス復辟前ト変化ナキコト、其他復辟関係者ニ対スル処置寛大ナルコト、又最近清室皇族ノ北京政府有力者ト往來セル事実等ヨリ世人ノ疑惑ヲ起シ居ルモノノ如ク未タ確タル証跡モ認メス

陸軍大臣、參謀總長、青島參謀長、中支那派遣隊司令官、關東參謀長、北京公使館附武官済

一七三 十一月一日 在北京坂西陸軍少將ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

張勳和蘭公使館逃入ノ報並劉存原ノ処置ニ関シ報告ノ件

坂極秘第二六九

(十一月三日外務省接受)

劉崇傑ノ言ニ依ルニ昨夕張勳逃走ノ準備ヲ整ヘ先ツ和蘭公使館ニ入レリトノ急報ニ接シ調査ノ結果実ハ從來居住シアリシ独逸兵營ヨリ和蘭公使館内ニ移転シタルモノナルヲ知レリ蓋シ政府ハ本日当地外交団ニ対シ公式ニ張勳及万繩拭等ヲ仏領ノ一島(マダガスカル)ニ移スコトニ就キ交渉ヲ開始シ協商列強モ之ニ異議ナキ形勢トナレルヲ以テ和蘭公使ハ若シ依然張ヲ独逸兵營内ニ居住セシムレハ或ハ兵力ヲ以テ之ヲ奪還セラルヘキヲ慮リテ更ニ公使館内ニ移住セシムルコトトナシタルモノナリト

本日總統令ヲ以テ在四川、雲南軍諸隊ニ対シ逮捕令發表セラレタルカ同時ニ發表セラルヘキ管ナリシ劉存原復職ノ沙汰ナキヲ以テ其故ヲ問ヒタルニ曩ニ國務院會議ニ於テハ夙

一七五 十一月二日 石光天津駐屯軍司令官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

王占元李純倪嗣冲ノ張勳減刑並旧定武軍ノ各

統領連名ニテ張勳赦免方嘆願ノ件

天電八七

(十一月五日外務省接受)

元長江巡閱使參謀長ノ謝介石ノ語ル所ニヨレハ過般王占元、李純、倪嗣冲ノ三督軍連名ニテ馮總統ニ宛テ張勳ノ減刑ヲ電請セシカ馮ハ何等ノ回答モ与ヘス又旧定武軍ノ各統領連名ニテ張勳ノ赦免ヲ十月下旬馮国璋及段祺瑞ニ願出タリシカ之ニ対シ馮ハ張勳ノ目下他ニ移ルハ却テ危險ナレハ暫ラク隱忍シテ時期ヲ待ツヘシトノ意ヲ張ニ伝フ可シト告ケ段ハ本請願ハ各統領ノ真意ナルヤ否ヤヲ倪嗣冲ニ取調ヘヨト命シタリト

一七六 十一月十日 在中國林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張勳ノ国外流謫ニ関スル中国政府ノ要求ニ対

シ外交団ノ回答内容決定ノ件

第一五五三号

張勳引渡方ニ関シ從來累次支那政府ヨリ和蘭公使ニ交渉ス

ニ其必要ヲ認メ既ニ其發表ヲ内定シタルカ其後總統側ヨリ反対派タル進歩党就中貴州トノ關係上目下之ヲ發表スルハ稍穩ナラサル点アリトノ議出タリ依テ尚若干日劉存原ヲシテ功業ヲ積ミ成績ヲ挙ケシメタル後改メテ恩典ノ沙汰ヲ行フヘキコトトナリタルモノナリト

一七四 十一月二日 在中國林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張勳独逸兵營ヨリ和蘭公使館ニ移轉事情報告

ノ件

第一五二五号

(十一月三日接受)

張勳ハ十一月一日独逸兵營ヨリ和蘭公使館ニ移轉セリ右ハ最近仏国代理公使ヨリ各国兵營ハ公使館ト異リ治外法権ニ均霑スルモノニアラストノ説ヲ連合側外交団ニ提議シ目下外交団ノ議題トナリツツアリテ今後若シ弥々外交団ニシテ右ノ説ニ同意スルニ至ラハ自然張勳ノ身柄ニ影響ヲ及ホスコト之アルヤモ計リ難シトノ和蘭公使ノ掛念ニ基クモノカト想像セラル不取敢

ル所アリシモ同公使ハ要スルニ国外ニ出スコトハ異存ナキモ或場所ヲ指定シテ追放スルコトニハ同意シ難シトテ結局支那政府ノ希望ニ応スルコトヲ拒ミ在舊今日ニ至リタルモノノ如キ所右交渉中和蘭公使ハ張勳ハ同公使保護ノ下ニ在ルニ相違ナキモ事実ニ於テハ外交団共同ノ保護ノ下ニ在ルモノナル旨声明シタル趣ヲ以テ支那政府ヨリ此点ヲ根拠トシテ外交団ニ対シ和蘭公使ニ対スルト同様ノ要求ヲ提出シ来リタル結果十一月八日外交団会議ヲ開キ本件ニ関シテ協議ヲ遂ケタル所公使中張勳ヲ Reunion^(註) (往電第一三三四号参照)ニ流謫スルコトニ付テハ何等今日迄協議ヲ受クルコトナカリシ旨苦情ヲ陳ヘタル向アリシモ仏国代理公使ヨリ説明ノ結果事情判明シタル所和蘭公使ハ他ノ公使ノ質問ニ対シ頑強ニ自説ヲ固持シタルニ付英国公使ハ張勳ノ外交団共同ノ保護ノ下ニアルハ和蘭公使ノ説ノ通りナルカ故外交団ニ於テ同人ノ問題ヲ決定スルノ權限アリト認ムル旨ヲ陳ヘ本使モ亦張勳カ七月十二日公使館区域ニ身ヲ投シタル節再ヒ其ノ陣營ニ歸ラシムルコトニ本使等ノ反対シタルハ主トシテ戦鬪ノ惨禍ヲ継続セシメサルタメ人道上前ノ見地ニ基キタルモノニ外ナラス然ルニ公使館区域ハ縦令治外法權ヲ

有スルニセヨ土地其ノモノハ支那ノ土地ニ相違ナキニ拘ハラス其ノ中ニ支那政府ノ叛逆者トナスモノヲ長ク留置シテ庇護スルハ到底支那政府ニ対スル友好的措置ト認ムルヲ得サル次第ニテ七月十二日張勳ヲ引留メタルコトトハ區別シテ考慮スルヲ要スル旨述べタル所英國公使其他多ク本使ノ説ニ同感ノ意ヲ表シタリ尚又仏国公使ヨリ張勳 Reunionニ流謫後ト雖何等拘束ヲ受クル次第ニアラス殊ニ戦争終了後ハ本国タル支那以外ニハ自由ニ旅行スルコトモ承諾スル筈ニ付左迄心配スルニ及ハサルヘキ旨ヲ和蘭公使ニ説明シタルタメ同公使モ結局衆議ニ屈服スルコトトナリタリ尚支那政府ノ要求ニ対スル回答ハ米国公使ニ於テ起草スルコトトナリタル所同公使ノ本国政府ヨリ領シ居ル訓令ニ依レハ張勳ヲ国外ニ追放スルコトニ同意スルハ差支ナキモ流謫ノ場所ヲ書面ニテ指定スルコトトハ出来難シトノコトナルタメ右回答ニハ単ニ国外ニ追放ノコトト丈ヲ記載スルコトトシ Reunionニ流謫スルコトニ異存ナキコト乃至支那ノ同意ヲ得シテ支那ニ歸還スルコトヲ許ササルコト等ハ口頭ヲ以テ首席公使ヨリ答弁スルコトニ協議纏マリタリ委細郵便註 九月二十日仏代理公使ヨリ張勳ヲマダガスカル附近 Reunion

島ニ送ルベキ旨提議アリ林公使異存ナキヲ回答セリ

一七七 十二月一日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛

張勳配流問題ニ関シ外交団決議並中国外交部

宛回答ノ件

附屬書 右回答案

機密第三八六号 (十二月十日接受)

大正六年十二月一日

在支那特命全權公使男爵 林 權 助(印)

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎殿

張勳ノ配流ニ関スル件

復辟戦ニ破レテ和蘭国公使館ニ遁レタル張勳ノ処分方ニ関シ當時外交部ヨリ屢々員ヲ派シテ交渉セシメタルニ対シ和蘭国公使ハ縦令和蘭国守備隊ニ於テ張勳ノ監視ヲ担当スト雖モ張氏ハ実ハ外交団共同ノ保護ヲ受クルモノナリト声明シ次テ七月十七日附ヲ以テ外交部ヨリ同公使ニ対シ張ノ処分方竝其ノ逃逸ニ対スル予防方法ニ付問合ハセタルニ対シ同公使ハ必ラス監視ヲ懈ラサルヘキ旨ヲ明答シタル次第アルモ其ノ後支那側ト仏国公使トノ間ニ本件ニ付話合アリタ

ル際支那側ヨリ張ヲ仏領「レユニオン」島ニ配流シタキ旨ヲ申出テ仏国公使ニ於テ本使及英國公使ト相談ノ上承諾ヲ与ヘタルヲ以テ支那政府ハ更ニ和蘭国公使ニ対シ九月二十一日附ヲ以テ張ノ生命ヲ保障スルニ付速カニ之レヲ国外ニ出シ一定ノ地ニ配流シタキ旨ヲ照会シタルニ右ニ対シ和蘭国公使ハ何等回答スル処無之依而外交部ハ首席公使タル英國公使ニ対シ十月三十日附ヲ以テ前記ノ次第ヲ續説シタル上張カ公使館区域ニ遁入シテヨリ已ニ三ヶ月ヲ経タルニ拘ハラス其ノ処分問題ニ付未タ何等決スル処ナキハ遺憾ナル旨ヲ述ヘ外交団共同ノ保護ヲ受クル張ノ処分方ニ付公使會議ヲ開キ前記支那政府ノ提議ニ対シ速カニ承認ヲ与ヘラレ度旨ヲ請求越候

右ニ対シ外交団ハ十一月八日ノ公使會議ニ於テ種々討議ヲ尽シタル処当初和蘭国公使強硬ニ反対シタルモ連合側各公使ヨリ同公使カ曩ニ外交部ニ対シ張勳カ外交団共同ノ保護ヲ受クルモノナリト声明シタル廉ヲ指摘シテ説得シタル結果遂ニ同意スルニ至リ茲ニ一致ヲ以テ張勳配流ノ件ヲ可決シ本件ニ関スル外交部宛回答案ノ起草ハ米国公使ニ依頼スルコトニ決シ次テ首席公使ヨリ別紙米国公使起草ノ回答案

ニ付各国公使ノ意見ヲ徴シタル処和蘭及西班牙兩國公使ノ
 ミハ該回答案ハ其ノ第一項即チ「外交団ハ張勳ニ対シ支那
 国政府法権ノ限界外ニ対スル「セーフ、コンダクト」ノ交
 附方ヲ決議ス」云々ノ部分ノミニテ足ル可ク「張カ将来滯
 留スヘキ地方ニ対シ法権ヲ有スル国ノ政府ト更ニ協議ヲ遂
 クハシ」云々ノ第二項ハ外交団ニ於テ張ノ配流ヲ支持スル
 ヤニ解セラルル虞アレハ削除ス可シト主張シタルモ協議ノ
 結果遂ニ原案通回答方ニ折合ヒタルヲ以テ該回答ハ最近外
 交部ニ宛テ発送セラレ候
 右及報告候也

(附屬書)

張勳配流問題ニ関スル外交団ヨリ中国外交部宛回答案

I have the honour to acknowledge the receipt of
 Your Excellency's Note of October 30, and to state
 that the Diplomatic Corps has decided to give to
 Chang Hsun safe conduct beyond the limits of the
 jurisdiction of the Chinese Government.

Further arrangements will be made with the Gov-
 ernment within whose jurisdiction his future sojourn
 is to be.



後ト雖モ何等協議セサリシ次第ニ付前記和蘭国公使ノ声明
 ハ支那側ノ要求ニ対シ外交団ノ名ニ於テ抗拒スルヲ便宜ナ
 リト思料シタル結果ニアラスヤトモ推察セラレ候尚ホ後日
 本問題公使會議ニ附議セラルルヤ仏露白ノ三國公使ハ張ハ
 外交団ノ保護ヲ受クルモノニアラス和蘭国公使館ノ保護下
 ニアルモノナリト主張シ和蘭国公使ヲ詰責致候
 他面仏国公使ハ同国公使館ニ在ル万繩拭ノ処分方ヲ考慮ス
 ル傍張ニ付テモ考慮シタルモノニヤ本使及英國公使ニ対シ
 張ヲ仏領「レユニオン」島ニ配流シタキ旨ヲ申出テ其ノ同
 意ヲ經タル上更ニ外交部ヲシテ之ヲ承諾セシメ外交部ノ提
 議トシテ之ヲ和蘭国公使ニ申込ミタル処同国公使ノ立場ト

一七八 十二月四日 在中国林公使ヨリ
 本野外務大臣宛

張勳配流ニ関スル外交団決定ノ裏面事情ニ関

シ報告ノ件

機密第三八八号 (十二月十日接受)

大正六年十二月四日

在支那

特命全權公使男爵 林 權 助(印)

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎殿

張勳ノ配流ニ関スル件

本件表面ノ成行ハ機密第三八六号ヲ以テ概略及報告置候処
 尚ホ御参考迄重複ヲ厭ハス裏面ノ事情左ニ大要及報告候
 張勳ノ処分竝引渡方ニ関シ外交部ヨリ数次督促シ来リタル
 ニ対シ和蘭国公使カ張ハ和蘭国公使館ノ監視ヲ受クルモ実
 ハ外交団共同保護ノ下ニ在ルモノナル旨ヲ回答シタルハ固
 ヨリ外交団ノ承認ヲ經タル上ニテ斯ク言明シタル次第ニハ
 無之七月十二日張ノ和蘭国公使館ニ遁入シタル際急遽開カ
 レタル外交団會議ハ戦闘ヲ中止セシムル為兎モ角張ノ脱出
 ヲ差止ム可キ旨ヲ決議シタル迄ニテ張ノ保護ニ付テハ其ノ

シテハ等シク張ヲ支那国外ニ出ストスルモ蘭領ニ送ルト仏
 領ニ流ストハ其ノ間自ラ事情ノ異ルモノナキ能ハサルヲ以
 テ外交部ノ申出ニ対シ同意ヲ与ヘサリシニ因リ外交部ハ曩
 ニ和蘭国公使カ張ヲ以テ外交団全部ノ保護ヲ受クルモノナ
 リト明言シタル行札ニ基キ張ノ処分ニ付首席公使ニ照会シ
 タル結果十一月九日外交団會議ノ開催トナリ其席上往電第
 一五五三号種々議論ヲ重ネタル末和蘭国公使モ遂ニ衆議ヲ
 容議スルニ至リタル次第候
 右及報告候也

